

授 業 内 容

2025年度

横浜女子短期大学

目 次

教 養 科 目

§1. 教養科目

キリスト教の精神Ⅰ	1-3
キリスト教の精神Ⅱ	4-6
教養ゼミA	7・8
教養ゼミB	9・10
保育総合演習	11-13
心理学	14・15
生物学	16-18
日本国憲法	19・20
情報機器の操作	21・22

§2. 外国語

英語ⅠA	23・24
英語ⅠB	25・26
英語Ⅱ	27・28

§3. 保健体育

体育実技	29-31
体育講義	32-34

専 門 教 育 科 目

§4. 専門教育科目

保育原理	35-37
保育者論	38-40
特別支援教育の基礎と方法	41・42
障害児保育	43-45
社会福祉	46-48
子ども家庭福祉	49-52
子育て支援	53-55
社会的養護Ⅰ	56-58
社会的養護Ⅱ	59-61
子どもの保健	62・63
子どもの健康と安全	64・65
子どもの食と栄養A	66・67
子どもの食と栄養B	68・69
乳児保育Ⅰ	70・71

乳児保育Ⅱ	72・73
保育の心理学（発達）	74-76
保育の心理学（学習）	77-80
子ども家庭支援の心理学	81・82
子どもの理解と援助	83・84
教育相談	85・86
保育内容総論	87・88
保育内容研究	89-91
健康	92・93
健康の指導法	94-96
人間関係	97-99
環境	100・101
環境の指導法	102・103
言葉	104-107
言葉の指導法	108-110
音楽表現	111・112
音楽表現の指導法	113・114
造形表現	115-117
造形表現の指導法	118・119
子どもの生活と遊びⅠ	120・121
子どもの生活と遊びⅡ	122・123
子どもの生活と遊びⅢ	124・125
保育方法論	126・127
保育環境構成技術（音楽）ⅠA	128-130
保育環境構成技術（音楽）ⅠB	131-133
保育環境構成技術（音楽）Ⅱ	134-137
保育・教職実践演習（幼稚園）	138-140
保育実習Ⅰ	141・142
保育実習Ⅱ	143・144
保育実習Ⅲ	145・146
保育実習指導Ⅰ	147-150
保育実習指導（Ⅱ）	151-153
保育実習指導（Ⅲ）	154-156
教育実習	157・158
教育実習指導	159-161

カリキュラムマップ（2024年度入学生用）

標準的履修モデル（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状所得用の履修パターン）1年次用

科目コード	科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L1-1※	キリスト教の精神Ⅰ（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L2-1※	教養演習（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L5-1※	英語Ⅰ（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L6-1※	体育実技（卒業必修）	1年通年	1年通年		
D5-1	保育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-1	保育実習Ⅰ	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-3(1・2)	教育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-3	教育実習	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D4-1	保育環境構成技術（音楽）Ⅰ	1年通年	1年通年		
L3-1	哲学	1年前期	3科目中 1科目選択必修		
L3-2	心理学	1年前期			
L3-3	生物学	1年前期			
L4-1	日本国憲法（幼免必修）	1年前期			
L4-2	情報機器の操作（幼免必修）	1年前期or後期	1年前期or後期		
L6-2※	体育講義(卒業必修)	1年前期			
D1-1※	保育原理（卒業必修）	1年前期			
D1-2	教育原理	1年前期			
D1-4※	社会福祉（卒業必修）	1年前期			
D1-5※	子ども家庭福祉（卒業必修）	1年前期			
D3-5※	子どもの保健（卒業必修）	1年前期			
D3-9※	乳児保育Ⅰ（卒業必修）	1年前期			
D3-11※	保育の心理学（発達）（卒業必修）	1年前期			
D4-5※	音楽表現（卒業必修）	1年前期			
D4-7※	造形表現（卒業必修）	1年前期			
D4-16※	人間関係（卒業必修）	1年前期			
D4-18※	環境（卒業必修）	1年前期			
D4-20※	言葉（卒業必修）	1年前期			
D1-6※	社会的養護Ⅰ（卒業必修）		1年後期		
D2-1	子ども家庭支援論		1年後期		
D3-1	カリキュラム論		1年後期		
D3-7※	子どもの食と栄養A（卒業必修）		1年後期		
D3-10	乳児保育Ⅱ		1年後期		
D3-12	保育の心理学（学習）		1年後期		
D3-14	子どもの理解と援助		1年後期		
D4-6	音楽表現の指導法		1年後期		
D4-8	造形表現の指導法		1年後期		
D4-12	保育内容総論		1年後期		
D4-14※	健康（卒業必修）		1年後期		
D4-17	人間関係の指導法		1年後期		
D4-19	環境の指導法		1年後期		
D4-21	言葉の指導法		1年後期		

標準的履修モデル（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状所得用の履修パターン）2年次用

科目コード	科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L1-2※	キリスト教の精神Ⅱ（卒業必修）			2年通年	2年通年
L2-2※	保育総合演習（卒業必修）			2年通年	2年通年
L5-2	英語Ⅱ			2年通年	2年通年
D5-1	保育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-1	保育実習Ⅰ	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-3(1・2)	教育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-3	教育実習	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-2	保育実習指導Ⅰ（2年次）			2年通年	2年通年
D6-2A/2B	保育実習Ⅱ／保育実習Ⅲ	どちらか1科目を選択		2年通年	2年通年
D3-3	特別支援教育の基礎と方法				2年後期
D3-4	障害児保育			2年前期	
D4-2	保育環境構成技術（音楽）Ⅱ			2年通年	2年通年
D1-3	保育者論（卒業必修）			2年前期	
D2-3	社会的養護Ⅱ			2年前期	
D2-4	子どもの家庭支援の心理学			2年前期	
D3-6	子どもの健康と安全			2年前期	
D3-8	子どもの食と栄養B（卒業必修）			2年前期	
D4-9	子どもの生活と遊びⅠ			2年前期	
D4-11	子どもの生活と遊びⅢ			2年前期	
D4-13	保育内容研究（※通年科目）				2年後期（2コマ）
D2-2	子育て支援				2年後期
D3-2	保育方法論				2年後期
D3-13	教育相談				2年後期
D4-10	子どもの生活と遊びⅡ				2年後期
D4-15	健康の指導法				2年後期
D4-22	保育・教職実践演習（幼稚園）				2年後期

カリキュラムマップ（2025年度入学生用）

本科2年課程：標準的履修モデル（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状所得用の履修パターン）1年次用

科目コード	科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L1-1※	キリスト教の精神Ⅰ（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L2-1A※	教養ゼミA（本科卒業必修）	1年通年（半期分）	1年通年（半期分）		
L2-1B※	教養ゼミB（本科卒業必修）	1年通年（半期分）	1年通年（半期分）		
L5-1A※	英語ⅠA（卒業必修）	1年前期			
L5-1B※	英語ⅠB（卒業必修）		1年後期		
L6-1※	体育実技（卒業必修）	1年通年	1年通年		
D5-1	保育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-1	保育実習Ⅰ	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-3(1・2)	教育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-3	教育実習	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D4-1A	保育環境構成技術（音楽）ⅠA	1年前期			
D4-1B	保育環境構成技術（音楽）ⅠB		1年後期		
L3-1	哲学	3科目中 1科目選択必修	1年後期		
L3-2	心理学		1年後期		
L3-3	生物学		1年後期		
L4-1	日本国憲法（幼免必修）	1年前期			
L4-2	情報機器の操作（幼免必修）	1年前期or後期	1年前期or後期		
L6-2※	体育講義(卒業必修)	1年前期			
D1-1※	保育原理（卒業必修）	1年前期			
D1-4※	社会福祉（卒業必修）	1年前期			
D1-5※	子ども家庭福祉（卒業必修）	1年前期			
D3-5	子どもの保健	1年前期			
D3-9※	乳児保育Ⅰ（卒業必修）	1年前期			
D3-11※	保育の心理学（発達）（卒業必修）	1年前期			
D4-5※	音楽表現（卒業必修）	1年前期			
D4-7※	造形表現（卒業必修）	1年前期			
D4-16※	人間関係（卒業必修）	1年前期			
D4-18※	環境（卒業必修）	1年前期			
D4-20※	言葉（卒業必修）	1年前期			
D1-6※	社会的養護Ⅰ（卒業必修）		1年後期		
D3-7	子どもの食と栄養A		1年後期		
D3-10	乳児保育Ⅱ		1年後期		
D3-12	保育の心理学（学習）		1年後期		
D3-14	子どもの理解と援助		1年後期		
D4-6	音楽表現の指導法		1年後期		
D4-8	造形表現の指導法		1年後期		
D4-12	保育内容総論		1年後期		
D4-14※	健康（卒業必修）		1年後期		
D4-19	環境の指導法		1年後期		
D4-21	言葉の指導法		1年後期		

本科2年課程：標準的履修モデル（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状所得用の履修パターン）2年次用

科目コード	科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L1-2※	キリスト教の精神Ⅱ（卒業必修）			2年通年	2年通年
L2-2A※	保育総合ゼミA（卒業必修）			2年通年（半期分）	2年通年（半期分）
L2-2B※	保育総合ゼミB（卒業必修）			2年通年（半期分）	2年通年（半期分）
L5-2	英語Ⅱ			2年通年	2年通年
D5-1	保育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-1	保育実習Ⅰ	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-3(1・2)	教育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-3	教育実習	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-2	保育実習指導Ⅰ（2年次）			2年通年	2年通年
D6-2Ⅱ/2Ⅲ	保育実習Ⅱ／保育実習Ⅲ	どちらか1科目を選択		2年通年	2年通年
D3-3A	特別支援教育・保育演習A			2年前期	
D3-3B	特別支援教育・保育演習B				2年後期
D4-2A	保育環境構成技術（音楽）ⅡA			2年前期	
D4-2B	保育環境構成技術（音楽）ⅡB				2年後期
D1-2	教育原理			2年前期	
D1-3	保育者論（卒業必修）			2年前期	
D2-1	子ども家庭支援論			2年前期	
D2-3	社会的養護Ⅱ			2年前期	
D2-4	子どもの家庭支援の心理学			2年前期	
D3-1	カリキュラム論			2年前期	
D3-6	子どもの健康と安全			2年前期	
D3-8	子どもの食と栄養B			2年前期	
D4-9	子どもの生活と遊びⅠ			2年前期	
D4-11	子どもの生活と遊びⅢ			2年前期	
D4-13	保育内容研究（※演習1単位）				2年後期
D2-2	子育て支援				2年後期
D3-2	保育方法論				2年後期
D3-13	教育相談				2年後期
D4-10	子どもの生活と遊びⅡ				2年後期
D4-15	健康の指導法				2年後期
D4-17	人間関係の指導法				2年後期
D4-22	保育・教職実践演習（幼稚園）				2年後期

各科目と関連するディプロマポリシーの主な領域

科目コード	教養科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
L1-1	キリスト教の精神Ⅰ	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D PⅡ②保育者としての基本的な対人関係能力
L1-2	キリスト教の精神Ⅱ	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D PⅡ②保育者としての基本的な対人関係能力
L2-1	教養演習	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D PⅡ②保育者としての基本的な対人関係能力 D PⅡ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D PⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L2-2	保育総合演習	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D PⅡ②保育者としての基本的な対人関係能力 D PⅡ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D PⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L3-1	哲学	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
L3-2	心理学	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
L3-3	生物学	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L4-1	日本国憲法	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
L4-2	情報機器の操作	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

科目コード	教養科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
L5-1	英語Ⅰ	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L5-2	英語Ⅱ	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L6-1	体育実技	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L6-2	体育講義	D PⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) D PⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D PⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

※学生便覧P.4の卒業認定・学位授与の方針：ディプロマポリシー「どのような人材を育成するのか」を参照のこと。授業内容に表記する「DP」は、「ディプロマポリシー」を略記したもの。

教養科目に関しては、ディプロマポリシーのⅠ、人として求められる基礎的資質・能力の育成に加えて、その学習成果が、Ⅱ、保育者となるために必要な資質・能力のどの領域と主に結びつくものであるかを示している。

科目コード	専門教育科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
D1-1	保育原理	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D1-2	教育原理	
D1-3	保育者論	
D1-4	社会福祉	
D1-5	子ども家庭福祉	
D1-6	社会的養護Ⅰ	
D5-1	保育実習指導（1年次）	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D5-2	保育実習指導（2年次）	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
D5-3	教育実習指導（1年次）	D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
D5-4	教育実習指導（2年次）	D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D2-1	子ども家庭支援論	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D2-2	子育て支援	
D2-3	社会的養護Ⅱ	
D2-4	子どもの家庭支援の心理学	
D6-1	保育実習Ⅰ	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D6-2A/2B	保育実習Ⅱ／保育実習Ⅲ	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
		D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
D6-3	教育実習	D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

科目コード	専門教育科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
D3-1	カリキュラム論	D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
D3-2	保育方法論	
D3-3	特別支援教育の基礎と方法	
D3-4	障害児保育	
D3-5	子どもの保健	
D3-6	子どもの健康と安全	
D3-7	子どもの食と栄養A	
D3-8	子どもの食と栄養B	
D3-9	乳児保育Ⅰ	
D3-10	乳児保育Ⅱ	
D3-11	保育の心理学（発達）	
D3-12	保育の心理学（学習）	
D3-13	教育相談	
D3-14	子どもの理解と援助	
D4-1	保育環境構成技術（音楽）Ⅰ	D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D4-2	保育環境構成技術（音楽）Ⅱ	
D4-5	音楽表現	
D4-6	音楽表現の指導法	
D4-7	造形表現	
D4-8	造形表現の指導法	
D4-9	子どもの生活と遊びⅠ	
D4-10	子どもの生活と遊びⅡ	
D4-11	子どもの生活と遊びⅢ	
D4-12	保育内容総論	
D4-13	保育内容研究	
D4-14	健康	
D4-15	健康の指導法	
D4-16	人間関係	
D4-17	人間関係の指導法	
D4-18	環境	
D4-19	環境の指導法	
D4-20	言葉	
D4-21	言葉の指導法	
D4-22	保育・教職実践演習（幼稚園）	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

※学生便覧P4の卒業認定・学位授与の方針：ディプロマポリシー「どのような人材を育成するのか」を参照のこと。授業内容に表記する「DP」は、「ディプロマポリシー」を略記したもの。

§ 1. 教 養 科 目

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
キリスト教の精神Ⅰ (教養科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 通年		佐藤 寛之 松川 和義 滝口 節子
注意事項 この授業は、通常（100分）授業と異なり、講義（90分×6回）と月例集会など（45分×8回＝90分×4回換算）での学習活動の形態で実施する。						
授業の概要 第1回目の月例集会から卒業式までの（一年間に及ぶ）、一連の集会における学長のことば・牧師の説教を通して、一人の人間として、保育学生として、目の前の人間とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わっていくべきかを考えさせる機会をもつ。 また、聖書とその説教を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命はどうなっており、その人間がどのように生きているのか、その手本をどこに見出すのか、ということを考えさせる機会をもつ。『愛と奉仕』の精神を日々実践していくきっかけをつくる。						
授業の到達目標 ①知識の獲得・構築：聖書に書かれている基本的内容を理解できるようになる。1年次での（1年間に及ぶ）一連の集会における学長のことば・牧師の説教を通して、一人の人間として、保育者として、目の前の人とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わり行動していくべきかについて考えることを習慣化できるようになる。 ②技能・スキル形成：『愛と奉仕』の精神を日々実践していくきっかけをつくり、今後の人生に生かす基礎ができるようになる。 ③理念・理解・探究：聖書とその説教を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命はどうなっており、その人間がどのように生きており、その手本をどこに見出すのか、ということを考えていくことができるようになる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1 (①②③) , DPI-2 (①②③) , DPII①, DPII②						
授業計画表【AL】 D：ディスカッション・レポート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回 90分 ①	聖書からの学び①（松川牧師）	この授業に臨むに当たっては、日頃より、自分一人で生きているのではないことを自覚し、身の周りや社会の出来事に関心をもち、日々のニュースに目を向けるとともに、人の支えに感謝する日々を送るように心がける。 事前学習：入学前教育や入学生連絡説明会での導入学習時の説明でふれられた、建学の精神の「愛と奉仕」の精神について自分なりに考察する機会をもつ。さらに、シラバスから、一年間の学びを確認し理解する。聖書を熟読しておく（120分）。 事後学習：授業で学んだこと、聖書から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、それを次回の授業内容につなげるためまとめておく（120分）。				
第2回 90分 ①	聖書からの学び②（松川牧師）	事前学習：聖書を熟読しておく（120分）。 事後学習：授業で学んだこと、聖書から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えながら、まとめておく（120分）。				
第3回 45分	月例集会（4月）	事前学習：聖書を熟読しておく（60分）。 事後学習：説教の内容を理解する。内容を振り返り、可能な限り実践に努める（60分）。				

第4回 90分 ㊦	聖書からの学び③ (松川牧師)	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する (120分)。 事後学習：聖書から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく (120分)。	
第5回 90分 ㊦	聖書からの学び④ (松川牧師)	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する (120分)。 事後学習：授業、聖書から学んだことを振り返り、可能な限り日々の生活に活かせるように考えながら、まとめておく (120分)。	
第6回 45分	月例集会 (5月)	事前学習：聖書を熟読しておく (60分)。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める (60分)。	
第7回 90分 ㊦	聖書からの学び⑤ (松川牧師)	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する (120分)。 事後学習：聖書から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく (120分)。	
第8回 90分 ㊦	聖書からの学び⑥ (松川牧師)	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する (120分)。 事後学習：聖書から学んだことを振り返り、感謝の気持ちで日々の生活に活かせるように考えながら、まとめておく (120分)。	
第9回 45分	月例集会 (6月)	事前学習：聖書を熟読しておく (60分)。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める (60分)。	
第10回 45分	前期終業集会	事前学習：聖書を熟読しておく (60分)。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める (60分)。	
第11回 45分	後期始業集会	事前学習：聖書を熟読しておく (60分)。 事後学習：これまでの説教の内容を振り返りながら、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める (60分)。	
第12回 45分	月例集会(11月)	事前学習：聖書を熟読しておく (60分)。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、日々の生活に活かせるように考え、実践に努める (60分)。	
第13回 45分	クリスマス集会	事前学習：クリスマスの内容を聖書から読み取り、理解を深めておく (60分)。 事後学習：クリスマス礼拝時の説教の内容を振り返り、内容の理解を深める (60分)。	
第14回 45分	新年集会	事前学習：聖書を熟読しておく (60分)。 事後学習：新年で心を新たにしながら、説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める (60分)。	
テキスト 新約聖書、讃美歌集			

参考書・参考資料等 日本聖書協会旧約新約聖書新共同訳
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 『愛と奉仕』の精神を包括するキリスト教の精神を涵養することの意義、それが人生を支え、人生の潤いを与えてくれること、日々実践している自分を見いだせるように、授業に相当する日程を通じて様々な角度から繰り返し、振り返りを促す働きかけを学びのフィードバックとして行う。
学生に対する評価 授業に対する積極的な参加姿勢・態度（60％）と課題・レポート（40％）の総合評価
実務経験 大船ルーテル教会牧師（松川和義）
実務経験を活かした教育内容 教会の牧師としての経験より、聖書を用いて、キリスト教の隣人愛について教示し、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神の理解へとつなげる。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 佐藤 寛之 松川 和義 滝口 節子
キリスト教の精神Ⅱ (教養科目)	必修	必修	必修	開講期：2学年 通年		
注意事項 この授業は、通常（100分）授業と異なり、講義（90分×6回）と月例集会など（45分×8回＝90分×4回換算）での学習活動の形態で実施する。						
授業の概要 「キリスト教の精神Ⅰ」での1年間にわたる学びに引き続き、さらに2年次での（1年間に及ぶ）一連の集会における学長のことば・牧師の説教を通して、一人の人間として、保育者として、目の前の人とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わり行動していくべきかについて日常から考える契機を形成していく。 また、聖書に関する講義、聖書にもとづく説教を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命どうなっており、その人間がどのように生きており、その手本をどこに見いだすのか、ということについて思いをめぐらせ、さらに、「愛と奉仕」の精神を日々実践していくきっかけをつくる。						
授業の到達目標 ①知識の獲得・構築：「キリスト教の精神Ⅰ」での1年間にわたる学びに引き続き、さらに2年次での（1年間に及ぶ）一連の集会における学長のことば・牧師の説教を通して、一人の人間として、保育者として、目の前の人とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わり行動していくべきかを深く考察し学ぶことができる。 ②技能・スキル形成：『愛と奉仕』の精神を日々実践していくきっかけをつくり、今後の人生に生かすことができるようになる。 ③理念・理解・探究：聖書とその説教を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命はどうなっており、その人間がどのように生きており、その手本をどこに見出すのか、ということをも深く考察し学ぶことができるようになる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1 (①②③) , DPI-2 (①②③) , DPⅡ①, DPⅡ②						
授業計画表【AL】 D：ディスカッション・ディベート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回 45分	月例集会（4月）	この授業に臨むに当たっては、日頃より、自分一人で生きているのではないことを自覚し、身の周りや社会の出来事に関心をもち、日々のニュースに目を向けるとともに、人の支えに感謝する日々を送るように心がける 事前学習：聖書を熟読しておく（60分）。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（60分）。				
第2回 45分	月例集会（5月）	事前学習：聖書を熟読しておく（60分）。 事後学習：説教から学んだことを振り返り、感謝の気持ちで、それを可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（60分）。				
第3回 45分	月例集会（6月）	事前学習：聖書を熟読しておく（60分）。				
第4回 45分	前期終業集会	事前学習：聖書を熟読しておく（60分）。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（60分）。				
第5回 45分	後期始業集会	事前学習：聖書を熟読しておく（60分）。 事後学習：後期の開始に当たり心を新たにしながら、説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（60分）。				

第6回 45分	月例集会（11月）	事前学習：聖書を熟読しておく（60分）。 事後学習：説教から学んだことを振り返り、感謝の気持ちで、それを可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（60分）。	
第7回 90分 ①	松川牧師集中講義1	事前学習：聖書を熟読しておく（120分）。 事後学習：講義から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（120分）。	
第8回 90分 ①	松川牧師集中講義2	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（120分）。 事後学習：講義の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努めるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（120分）。	
第9回 90分 ①	松川牧師集中講義3	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（120分）。 事後学習：講義から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（120分）。	
第10回 90分 ①	松川牧師集中講義4	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（120分）。 事後学習：講義の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努めるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（120分）。	
第11回 90分 ①	松川牧師集中講義5	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（120分）。 事後学習：講義から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（120分）。	
第12回 90分 ①	松川牧師集中講義6	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（120分）。 事後学習：講義の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努めるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（120分）。	
第13回 45分	クリスマス集会	事前学習：クリスマスの内容を聖書から読み取り、理解を深めておく（60分）。 事後学習：クリスマス礼拝時の説教の内容を振り返り、内容の理解を深める（60分）。	
第14回 45分	新年集会 （学びの振り返り）	事前学習：聖書を熟読しておく（60分）。 事後学習：新年で心を新たにしながら、説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（60分）。	
テキスト 新約聖書、讃美歌集			
参考書・参考資料等 日本聖書協会旧約新約聖書新共同訳			

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

『愛と奉仕』の精神を包括するキリスト教の精神を涵養することの意義、それが人生を支え、人生の潤いを与えてくれること、日々実践している自分を見いだせるように、授業に相当する日程を通じて様々な角度から繰り返し、振り返りを促す働きかけを学びのフィードバックとして行う。

学生に対する評価

授業に対する積極的な参加姿勢・態度（60％）と課題・レポート（40％）の総合評価

実務経験

大船ルーテル教会牧師（松川和義）

実務経験を活かした教育内容

教会の牧師としての経験より、聖書を用いて、キリスト教の隣人愛について教示し、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神の理解へとつなげる。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 篠原・堀内・トムソン・ 本田・石山・鶴野澤・ 平澤
教養ゼミA (教養科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		
授業の概要 建学の精神『キリスト教の「愛と奉仕」を精神の礎として社会に貢献する人材を育成する』に基づいて設置された総合的な教養科目である。本学の初年次教育として、建学の精神の理解および学習に主体的に取り組む態度の獲得につながる授業内容である。自己を見つめ、自分の強みを生かしながら、より良い社会人となるための課題に取り組む姿勢を獲得できるように、キャリア教育を含む内容となっている。						
授業の到達目標 ① 知識の獲得・構築：建学の精神について理解する。 ② 技能・スキル形成：学習に主体的に取り組む態度を身に付ける。 ③ 理念・理解・探究：社会に出るために必要な基礎力、対人関係構築力の必要性を理解し、自分自身の目標を見つけてそのスキルを向上させるように努力する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPH①②③④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・デバート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	オリエンテーション 保育者になるための学びを考える 本学の歴史、建学の精神、教育理念を知り、 保育に対して興味・関心をもつ			事前学習：学生便覧 p.4を読む(30分) 事後学習：スタートアッププログラムに参加し、本学で主体的に学ぶ意欲を高める。 (120分)		E
第2回	保育者養成校を知る 本学の建学の精神や教育目標を確認する。 今後2年間の学習内容を知る			事前学習：学生便覧を読み、建学の精神や教育目標について知る。(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く。(40分)		E
第3回	目標と計画を立てる 保育者養成校での2年間の目標を立て、仲間の志や意見を共有して充実した学生生活を送るように意欲を高める			事前学習：自分自身の経験や、得意なこと伸ばしたいことなどを整理しておく。(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く。(40分)		E
第4回	創設者「平野恒」について知る 創設者に関する著書『シリーズ福祉に生きる平野恒』を読み、気づいたことや感じたことを伝え合う			事前学習：創設者に関する著書『シリーズ福祉に生きる平野恒』をよく読む。(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く。(40分)		E GW
第5回	保育に生かせる遊びの実践 保育に生かせる遊びを体験し、ゼミ生や教員との人間関係を深める			事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：遊びの展開方法を復習する。(40分)		E
第6回	保育学生としての成長を目指す キャリアガイダンス①を受ける(就職ガイド)			事前学習：就職ガイドを読んでくる。(30分) 事後学習：保育学生として成長するための学びを考える。(40分)		E
第7回	「学修ファイル」作成 学びのポートフォリオ「学修ファイル」			事前学習：これまでの学びを授業で配布された資料を整理して確認する。(30分) 事後学習：学んだ内容を振り返る。(40分)		E
第8回	1年次前期の学修を振り返り、保育学生として自らの課題を見つける 履修カルテ（自己評価）の作成			事前学習：これまでの学びを確認する。(30分) 事後学習：今後の学びの計画を立ててみる。(40分)		E
第9回	初年次の振り返り（授業の取り組み、自己診断など） キャリアガイダンス②（「就職ガイド」持参） ／定期試験の連絡・注意事項等			事前学習：1年間の学び、自分自身の成長や課題について整理しておく(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(40分)		E

テキスト

亀谷美代子著『シリーズ 福祉に生きる 68 平野 恒』大空社、2015 年

参考書・参考資料等

授業時に適宜プリントを配布する。教養演習用のクリアファイルに整理をして保管すること。

「学生便覧 2025 年度 横浜女子短期大学」、「就職ガイド 2025 年度 横浜女子短期大学」他

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための課題については、授業時に解説を行ったうえで返却する。演習で取り扱う提出物については、随時フィードバックする。

学生に対する評価

授業に積極的に取り組む姿勢・態度（60％）ワークブックや課題等の提出物（40％）

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 篠原・堀内・トムソン・ 本田・石山・鵜野澤・ 平澤
教養ゼミB (教養科目)	本科 必修			開講期：1学年 後期		
授業の概要 「教養ゼミA」の授業を踏まえて、具体的な実践を中心とした学習である。主な内容としては国語力向上、学生同士の協働学習、保育に関連する課外授業である。「学園祭」を通して協働して一つの目標に向かって取り組む。また、課外授業の経験から得た学びを分かりやすく相手に伝えるための表現力を身に付ける。						
授業の到達目標 ① 知識の獲得・構築：社会人として必要な基本的な言語能力を身に付ける。 ② 技能・スキル形成：学園祭や秋季特別研修の取り組みを通して、対人関係スキルや表現力を身に付ける。 ③ 理念・理解・探究：心に響く体験を通して感性を豊かにし、人間性を磨き続けようとする。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPII①②③④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	「国語力アップ講座 ①」 語彙を学ぶ一似て非なるものを知る			事前学習：プリントを下調べする(30分) 事後学習：学んだ内容を振り返る(30分)		E
第2回	「国語力アップ講座 ②」 正しい文を知る—反面教師に学ぶ			事前学習：プリントを下調べする(30分) 事後学習：学んだ内容を振り返る(30分)		E
第3回	「国語力アップ講座 ③」 音読から学ぶ—呼吸が教えること			事前学習：プリントを下調べする(30分) 事後学習：学んだ内容を振り返る(30分)		E
第4回	学園祭の準備①			事前学習：学園祭について担当教職員からの概要説明を受ける。(30分) 事後学習：学園祭の趣旨や目的を理解する。(40分)		GW
第5回	学園祭の準備②			事前学習：学園祭について自分自身がどのように関わりたいかを考える(30分) 事後学習：実行委員の選出をする。(40分)		GW
第6回	学園祭の準備③			事前学習：実行委員の説明を受け学園祭について具体的イメージを構想する。(30分) 事後学習：グループに分かれてどのようなコーナーを企画するかを話し合う。(40分)		GW
第7回	学園祭の準備④			事前学習：コーナーの役割分担や必要な物資などを考える。(30分) 事後学習：グループごとに学園祭向けの工程を共有し準備を進めていく(40分)		GW
第8回	学園祭の準備⑤			事前学習：グループごとに工程を踏まえて具体的に準備を進めていく(30分) 事後学習：各グループで学園祭にいらした来校者の立場に立ち、楽しく、安全にコーナーを回っていただくように最終確認を行いながら気が付いたところを修正していく。(40分)		GW
第9回	学園祭			事前準備：学生や教職員で協力しながら学園祭に向けて直前の準備を進める。(30分) 事後学習：学園祭を通して、気付いたこと、良かったこと、反省点などを分かち合う。(40分)		GW

第10回	秋季特別研修 ー課外活動を通して経験したことを保育の学びにつなげるー	事前学習：事前説明を聞き、課外活動の目的、流れなどを十分に理解する。(30分) 事後学習：課外活動で経験したことを自分なりに整理する(40分)	FW
第11回	秋季特別研修のまとめ ー体験した学びを学生同士で協力し、まとめるー	事前学習：課外授業での学びをグループで発表するために必要な準備をしておく(30分) 事後学習：グループでまとめたことを分かりやすく発表する工夫をする(40分)	GW
第12回	秋季特別研修（グループ発表） ーグループでまとめたことを学生同士で発表し合い共有するー	事前学習：グループ内で発表の仕上がりに取り組む(30分) 事後学習：互いの発表から学んだことを整理する。(40分)	P D
第13回	附属幼稚園クリスマス会見学	事前学習：子どもにとっての行事の意味を調べる(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(40分)	E
テキスト：必要に応じて適宜プリントを準備する			
参考書・参考資料等 谷田貝公昭・大沢裕監修、大沢裕・越智幸一・中島朋紀編著『保育者養成のための初年次教育ワークブック』一藝社、2018年			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 理解度を確保するための課題については、授業時に解説を行った上で返却する。演習で取り扱う提出物については、随時フィードバックする。			
学生に対する評価 授業に積極的に取り組む姿勢・態度（60％）課題等の提出物（40％）			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 篠原・堀内・トムソン・ 本田・佐久間・渡邊・石山・ 滝口・鷗野澤・平澤
保育総合演習 (教養科目)	必修	必修	必修	開講期：2学年 通年		
授業の概要						
・学生主体の実践的学習をゼミ形式で行い、教員からのフィードバックにより保育・幼児教育への理解を深める。 ・ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力を高める。 ・進路選択に向け、外部講師によるキャリアガイダンスを行う。 ・就職活動に向け、キャリア支援担当教職員による具体的な指導を行う。						
授業の到達目標						
①知識面：1年次の学びを土台に、専門ゼミなどを通して保育・幼児教育への理解を深める。 ・保育者としての「社会人基礎力」を身につけるための具体的な内容を理解し、修得する。 ②技術面：1年次の学びを土台に、専門ゼミなどにおけるディスカッションやプレゼンテーションを通してコミュニケーション能力を高める。 ・保育者になるという目的を果たすための具体的な計画を立てること、またそれを主体的な就職活動として進める。 ③理念・理解・探求：ゼミ活動などを通して「保育・幼児教育の専門性」について理解を深める。 ・自分を理解し、進路選択決定に向けて見通しを持った生活を送ることができる。また、キャリアガイダンスにより就職に対する知識を深め、情報収集力を高めながら目的を達成する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPH①②③④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・デバート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回 (前期)	キャリアガイダンス① 履修カルテの記入			・学生便覧「キャリア支援室」のページを読み、本学のキャリア支援について理解しておく。(事前学習 34分) ・就職に向けての現在の自分の考えや課題をまとめる。(事後学習 33分)		GW
第2回	新入生歓迎会			・グループリーダーと協力して新入生歓迎会の事前準備を行う。(事前学習 34分) ・新入生歓迎会後、各自振り返りを行う。(事後学習 33分)		GW
第3回	ゼミ形式の学習活動（ホームグループ） -履歴書の書き方 -練習- 他			・各ホームグループ担当教員の指示に従い、予習や事前準備を行う。また、授業後学習した内容を復習し、再度担当教員の指導を仰ぐ。 (事前学習 34分、事後学習 33分)		E
第4回	各ホームグループで学生面接を行う			・保育学生としての新年度の目標と課題を考える(事前学習 34分) ・面接の内容を振り返り、必要に応じてホームグループ担当教員などと相談する (事後学習 33分)		E
第5回	学園祭の準備			・昨年の学園祭を参考に、今年度実施したい出し物などを考える(事前学習 34分) ・グループメンバーやリーダーの名前や連絡先、次回の活動日などを記録する。 (事後学習 33分)		GW

第6回 ㊦	就職模擬試験実施	・保育者を目指す上での心構えや学習面で努力していること、学生生活のこと等 800 字程度の文章を書けるよう、練習しておく。 (事前学習 34 分) ・自分の書いた文章を振り返り、誤字脱字や文法等の間違いがなかったか振り返る。 (事後学習 33 分)	E
第7回	キャリアガイダンス② 横浜市幼稚園協会説明会	・事前に横浜市幼稚園協会発行の冊子を読み、幼稚園の機能や保育所との違いなどを調べておく。(事前学習 34 分) ・ガイダンス終了後に新たな気づきや感想を書き、今後の就職活動につなげる。 (事後学習 33 分)	E
第8回	キャリアガイダンス③ 横浜市私立保育所説明会	・保育所の機能や幼稚園との違いなどを調べておく。(事前学習 34 分) ・ガイダンス終了後に新たな気づきや感想を書き、今後の就職活動につなげる。(事後学習 33 分)	GW E
第9回	キャリアガイダンス④ 「就職ガイド」配布	・2023 年度版「就職ガイド」p.6～9 を読み就職活動の流れを把握しておく。(事前学習 34 分) ・配布された 2024 年度版「就職ガイド」を見直し、今後の自分の進路について考える。(事後学習 33 分)	E
第10回	就職模擬試験の振り返りと履歴書清書の修正	・履歴書の書き方の基本を確認し、正しく記入できるように準備しておく。(事前学習 34 分) ・専門の添削員より指導された「就職模擬試験」の内容を振り返り、指導された箇所を書き直し、理解する。(事後学習 33 分)	E
第11回	キャリアガイダンス⑤ 本学関連園就職説明会	・本学の関連施設についてホームページや大学案内を読んで理解しておく。(事前学習 34 分) ・各関連施設の特色や機能の違いをまとめる。(事後学習 33 分)	E
第12回 (後期)	キャリアガイダンス⑥ (就職活動に向けて、授業の出席、提出物等)個別面接	・授業への出席・提出物・就職に対する意志等、自己を振り返り、評価して課題点を明確におく。(事後学習 34 分) ・就職に向けての準備を具体的に計画し、スケジュールを立てる。(事後学習 33 分)	D E
第13回	専門ゼミの説明・選択、特別研修のオリエンテーション	・各先生の専門ゼミのシラバスに目を通す (事前学習 34 分) ・授業終了後、『専門ゼミ』希望カード」に第1希望から第3希望を記入し提出する。 (事後学習 33 分)	D E
第14回	専門ゼミの公表、第1回の専門ゼミ	・事前に公表された専門ゼミ一覧を確認し、自分の専門ゼミのシラバスを復習する(事前学習 34 分) ・専門ゼミの授業内容を振り返り、今後の授業日程を記録する(事後学習 33 分)	GW
第15回	学園祭の準備	・グループメンバーやリーダーの名前、活動内容を確認する。 (事前学習 34 分) ・学園祭当日までに用意・準備する内容や自分の役割を再確認する(事後学習 33 分)	GW

第 16 回	学園祭	・学園祭プログラムやグループでの役割分担や担当時間割表を確認する。 (事前学習 34 分) ・学園祭終了後、出し物の片付けを行い、他のグループの片付けなどにも協力する。 (事後学習 33 分)	GW
第 17 回	秋季特別研修 (テーブルマナー研修など)	・マナー研修の資料を熟読し、集合時間や場所を確認する (事前学習 34 分) ・マナー研修終了後、テーブルマナーと人間関係について振り返る (事後学習 33 分)	GW
第 18 回 ↓ 第 21 回	ゼミ形式の学習活動(専門ゼミ) 5 回以上 (第 14 回目の授業を含め)	・各専門ゼミの学習活動に参加し、保育者としての専門性を高める。 (事前学習 34 分、事後学習 33 分)	D E
第 22 回	卒業内定者への注意事項、卒業後の住所、内定先研修の予定の記入、まとめ	・内定先の住所や代表者、研修日程などを正確に把握しておく (事前学習 34 分) ・卒業までに自分のやるべきこと、課題を見出し、スケジュールを立て、実施する。 (事後学習 33 分)	GW E
テキスト 「横浜女子短期大学 就職ガイド」			
参考書・参考資料等 谷田貝公昭・大沢裕監修、大沢裕・越智幸一・中島朋紀編著『保育者養成のための初年次教育ワークブック』一藝社、2018 年			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 ・自己理解や進路選択に関する授業での課題や提出物については、授業時の解説やホームグループ担当教員の指導により、フィードバックを行う。 ・専門ゼミについては、それぞれのテーマに応じてフィードワークや課題等に取り組み、担当教員の指導のもとフィードバックを行う。			
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢 60%、ゼミ形式の学習活動の成果 20%、提出物 20%			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
心理学 (教養科目)	選択 必修	選択 必修		開講期：1学年 後期		小林 聡子
授業の概要						
本講義では人の心、そして自分自身を理解するために役に立つ心理学的知見を紹介していく。前半では、人間の心理を理解するための基礎的知識として、感覚、知識、記憶、思考、感情等の概念によって記述される「認知」、「パーソナリティ」とは何かについて学ぶ。後半では、人の発達がどのように生物学的、心理的、社会的要素によって影響を受けているか、発達精神病理学的視点から総合的に学ぶ。また、精神科にて心理臨床に従事してきた担当教員により、児童精神医学についての基礎的知識、また援助の実際について学ぶ。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築：実験心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を習得できる						
② 技能・スキル形成：心理学の知識をもとに幅広い観点から柔軟に人間の心理や行動を捉えることができる						
③ 理念・理解・探究：人間の心を理解していくことに関して強い探求心をもつことができる						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1, DPI-2, DPI③						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・デバート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	ガイダンス・心理学入門（心とは何か、人間の心と脳、意識とは、死とは）	事前学習：心理学について自分の知りたいことについてまとめておく（134分） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（133分）				GW
第2回	人間の感覚と知覚のしくみ（知覚の恒常性、錯覚は脳のどこにあるのか、慢性疼痛とは）	事前学習：視覚、聴覚など自分の感覚について疑問に思うことをまとめておく（134分） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（133分）				GW
第3回	記憶（記憶の過程、メカニズム、偽りの記憶、抑圧された記憶とは）	事前学習：「偽りの記憶」について調べ、まとめておく（134分） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（133分）				GW
第4回	学習（学習の基本型、学習理論、メタ認知を学習にいかすには）	事前学習：「パブロフの犬」について調べ、まとめておく（134分） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（133分）				GW
第5回	言語・思考・感情・知能（乳児とメディア、世界で注目されている“非認知能力”）とは	事前学習：「非認知能力」について調べて、まとめておく（134分） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（133分）				D
第6回	パーソナリティ① 個人差の測定（質問紙検査①の実施と自己分析）	事前学習：「心理検査」の種類について調べてまとめておく（134分） 事後学習：行ったパーソナリティ検査の結果について自分の考えをまとめておく（133分）				E
第7回	パーソナリティ② 個人差の測定（投影法検査②の実施と自己分析）	事前学習：「心理検査」を行う意義について調べてまとめておく（134分） 事後学習：行ったパーソナリティ検査の結果について自分の考えをまとめておく（133分）				E

第8回	パーソナリティ③ パーソナリティの概念、子どもの性格を決定するものは何か	事前学習：性格に影響する要因について自分の考えをまとめておく (134分) 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する (133分)	E
第9回	精神医学、精神障害とは何か	事前学習：第一部第二章、第三章を熟読し意味を理解しておく (134分) 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する (133分)	D
第10回	認知と社会性の多面的発達①	事前学習：第一部第5章、第6章を熟読し意味を理解しておく (134分) 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する (133分)	GW
第11回	認知と社会性の多面的発達②	事前学習：第一部第7章、8章を熟読し意味を理解しておく (134分) 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する (133分)	GW
第12回 ㊦	乳児期、幼児期における問題、心理的支援について考える	事前学習：第二部9章、10章、11章を熟読し意味を理解しておく (134分) 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する (133分)	GW
第13回	児童期～思春期における問題、心理的支援について考える	事前学習：第四部第16章を熟読し意味を理解しておく (134分) 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する (133分)	GW
第14回	発達の病理 (リスクと脆弱性と弾力性)	事前学習：教科書第四部第17章について調べておく (134分) 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する (133分)	GW
テキスト 滝川一廣 著 『子どものための精神医学』医学書院			
参考書・参考資料等 適宜、授業内で紹介する			
学生に対する評価 授業感想シートの提出および参加態度 50%、前期授業内小テスト 50%			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			
実務経験 精神科クリニックおよび大学相談室、教育相談センター、公立学校にて、心理臨床 (カウンセリング、心理検査) に従事。 (臨床心理士・公認心理師)			
実務経験を活かした教育内容 実際に精神科医療にて、心理検査およびカウンセリングに従事してきた教員より、自己理解および他者理解のために役立つ心理学を身近な例や臨床例を提示しながら、わかりやすく提供する。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 梅原 正美
生物学 (教養科目)	選択 必修	選択 必修		開講期：1学年 後期		

授業の概要
自然界に生息をしている動・植物の生態を知り、季節に合った植物の栽培や採取・料理方法の習得、及び身近な動物に触れ、特徴や飼育方法を学ぶ。また、自然現象や自然事象に対する「なぜだろう？」を「なぜならば！」に変える知識の修得を図る。
授業の到達目標
①知識の獲得・構築： 季節に合わせた身近な動・植物を教材に取り入れ、知識の獲得をする。
②技能・スキル形成： 様々な動・植物の生態を知り得たことで、採取・飼育・栽培等を行い、スキルの充実を図る。 また、自然に対する興味関心を深めながら、生物に対する基礎知識のスキルを形成する。
③理念・理解・探究： 得られた自然科学の知識や対応する技術から、自然現象や自然事象にも探究心を広げ、生きる力のスキルを構築し、生活力を豊かなものにする。

ディプロマポリシーとの関連
DPI-1, DPI-2, DPI④

授業計画表【AL】D：ディスカッション・デバート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題			
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	・ガイダンス 生物（植物、動物、細菌類など）について幅広く知る	事前学習：(134分) ・参考資料を使い、生物の知識を深めておく。 事後学習：(133分) ・授業で得られた知識を、わかり易くまとめる。	
第2回	・散歩で出会う草花の実例（春の七草、秋の七草、遊べる野草など）やドングリの秘密、紅葉と落葉のメカニズムを知る。 ・七草やドングリ、紅葉の種などを実際に採取し、特徴を知る。	事前準備：(134分) ・春と秋の七草の特徴について調べておく。 ・ドングリの種類について調べておく。 事後学習：(133分) ・秋の七草について、効能を調べておく。	F
第3回	・野菜の栽培方法（肥料の三要素、光の波長、水の浸透圧など）を知る。夏野菜（トマト、ナス、ピーマン、キュウリなど）の栽培、収穫、料理を知る。	事前準備：(134分) ・野菜に必要な肥料の特徴や光合成、根粒菌について調べておく。 事後学習：(133分) ・夏野菜を使って、料理を行ってみる。	
第4回	・実のなる木（サクラ、カリン、イチジク、ミカン、ビワ、カキ、キンカン、レモン、クリなど）の特徴や食方を学ぶ。 ・身近な季節の実を使い、経験で得た特徴を話し合う。	事前準備：(134分) ・身近な木の実を調べ、食べることでできる実については、その生理機能も調べておく。 事後学習：(133分) ・身近な木の実で、ジャムを作ってみる。	GW
第5回	・散歩に出かけ、身近にある草花や実、種を使って、遊ぶ経験をする。 ・ドングリやマツボックリなどの木の実を採取し、遊び道具を作ってみる。	事前準備：(267分) ・草木や実、種を使った遊びや造作の方法を調べておく。 ・実や種を使って、色々な玩具を作ってみる。	F
第6回	・樹木（木の肌）や落ち葉の特徴を知り、遊びに繋げる経験をする。 ・秋の自然物を使った遊びを考え、作品をいくつか作って発表を行う。	事前準備：(267分) ・身近な樹木の特徴（木の肌、葉の形等）を調べておく。 ・落ち葉で、フロッタージュの作品を作る。	P

第7回	・秋の野菜や冬の野菜の種類や栽培、食すまでを学ぶ。 ・サツマイモの断面からヤラピン樹脂を抽出し、紙を使った製作に利用してみる。	事前準備：(267 分) ・秋から冬にかけて栽培や収穫される野菜の特徴や種類を調べておく。 ・サツマイモで芋版を作ってみる。	
第8回	・動物（小動物）の飼育と観察方法を知る① 例、軟体動物（カタツムリ）、昆虫以外の節足動物（ザリガニ、ダンゴムシ）、節足動物（トンボ、セミ） ・幼少時期に経験した小動物の飼育について話し合いを行い、情報の共有をする。	事前準備：(134 分) ・軟体動物、昆虫以外の節足動物、昆虫類の節足動物について生態を調べておく。 事後学習：(133 分) ・身近な小動物を、飼育してみる。	D
第9回	・動物（小動物）の飼育と観察方法を知る② 例、甲虫（カブトムシ、テントウムシ）、脊椎動物（魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類） ・幼少時期に経験した小動物の飼育について話し合いを行い、情報の共有をする。	事前準備：(134 分) ・甲虫、節足動物について生態を調べておく。 事後学習：(133 分) ・身近な脊椎動物（金魚、メダカ、カエル、ニワトリ、ウサギなど）を飼育してみる。	D
第10回	自然探索を目的とした散歩を経験し、新たな発見から自然の多様性を理解する。 ・その発見を各々発表し、気づきの共有を図る。	事前準備：(134 分) ・住まいの周辺を散歩し、自然の探索をしながら新たな発見を経験する。 事後学習：(133 分) ・様々な自然探索の体験をまとめる。	
第11回	・屋外に出て、気象現象（雨、雲、雪、虹など）の変化から、生物の活動について学ぶ。 ・天体現象（月の満ち欠けや星座の運行など）の変化から、生物の活動や生態を知る。	事前準備：(134 分) ・様々な気象の変化について調べ、身近な現象について考えてみる。 ・雲の様子から、天候を予測してみる。 ・月の満ち欠けや季節ごとに変化する星座の特徴を調べておく。 事後学習：(133 分) ・月の満ち欠けから潮干狩りを考える。	F
第12回	・皮膚炎をもたらす危険な動物（スズメバチ、イガラ、ブユ、イエダニ、ムカデ、アオバアリガタハネカクシなど）の生態や特徴を知る。	事前準備：(134 分) ・身近にいる皮膚炎をもたらす危険な動物を調べておく。 事後学習：(133 分) ・身近にいる危険な動物を探してみる。	
第13回	・危険な植物の特徴や生態を知る。例、食中毒（ヨウシュヤマゴボウ、チョウセンアサガオ、ヒガンバナなど）、皮膚炎（ウルシ、銀杏など）の症状を知る。	事前準備：(134 分) ・食中毒や皮膚炎をもたらす植物について調べておく。 事後学習：(133 分) ・学んだ危険な植物を探してみる。	
第14回	・保育における「生物」に触れる重要性についてまとめる。 ・子どもに体験させたい自然の現象についてもまとめる。	事前準備：(134 分) ・子どもが生物に触れる重要性についてまとめてみる。 事後学習：(133 分) ・身近な生物を科学的視点から触れてみる。	P
テキスト 『子どもと環境』 田尻由美子・無藤隆 編著 同文書院			
参考書・参考資料等 『生物図録（視覚でとらえるフォトサイエンス）』 鈴木 孝仁 監修 数研出版 『昆虫（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『植物（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『動物（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『水の生き物（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『地球・宇宙（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版			

『飼育・栽培（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『カブトムシ・クワガタ（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『星・星座（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『危険・有毒植物（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『自然観察（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『爬虫類・両生類（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『野菜・果物（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『人の体（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『雲・天気（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版 『保育内容のアイデア』 西海聡子 編著 萌文書林 『親子で楽しむ しぜんあそび図鑑』 チャイルド本社 『サイエンスビュー 生物総合資料』 実教出版
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 試験やレポートは実施後、評価・解説を行い返却。
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢や態度、課題レポート、課題発表等で(60%) と後期末筆記試験(40%)の総合評価
実務経験 中学校教諭 高校教諭 保育園（園長） 日本保育学会（会員） 神奈川県保育会（企画運営委員）
実務経験を活かした教育内容 実務経験の中で、体験した事例を提示・活用し、保育に携わろうとする者へのスキルの向上を具体的に実施する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
日本国憲法 (教養科目)	選択 必修	必修		開講期：1学年 前期		川添 啓明
授業の概要						
・各回のテーマに沿って日本国憲法の条文・制度の内容やその趣旨などを学習します。 ・各回のテーマに沿って社会生活上発生する具体的諸問題を事例として取り上げ、問題が発生する背景事情や裁判所の見解などを学習し、現実の社会における日本国憲法の姿を考察・検討します。 ・実務家としての知見に基づき日本国憲法のみならず法学一般に関する時事的な問題を取り入れて講義を進めます。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築：日本国憲法の条文や制度に関する基本的知識の獲得と、それらが社会において果たしている役割・機能を理解することができること。 ②技能・スキル形成：幼児教育者として、また、社会人として、適切な人権感覚を習得し、実践することができること。 ③理念・理解・探究：日本国憲法の基本理念を理解したうえで、日常発生する諸問題について習得した知識と関連付けて検討し、自らの意見や見解を根拠付けて表明し、他者との議論や実践により探求を深めることができること。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1、DPI-2、DPII①						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・デバート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	「保育科で憲法を学ぶ意味」 ・ガイダンス ・保育者養成と憲法の関係 ・憲法を含む法学の基礎			【事前】テキストの「補論」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布資料等による復習（133分）。		D
第2回	「憲法が今の形になった理由」 ・人権や立憲主義はどのように発展したか。 ・現行憲法にはどのような特徴があるか。 ・人権の普遍性			【事前】テキストの「第1章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。		D
第3回	「人権は誰のもの？」 ・憲法上の人権は誰が享受できるか。 ・人権の制約と公共の福祉 ・幸福追求権			【事前】テキストの「第2章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。		D
第4回	「法の下での平等」 ・憲法14条の意味と内容 ・「平等」が問題なる事例			【事前】テキストの「第3章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。		D
第5回	「精神的自由①」 ・思想・良心の自由（憲法19条） ・信教の自由（憲法20条）			【事前】テキストの「第4章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。		D
第6回	「精神的自由②」 ・表現の自由（憲法21条） ・学問の自由（憲法23条）			【事前】テキストの「第5章」と「第6章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。		D
第7回	「社会権」 ・生存権 ・勤労の権利 ・労働基本権			【事前】テキストの「第7章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。		D
第8回	「教育を受ける権利」 ・教育を受ける権利と義務 ・教育を受ける権利を保障する法体系			【事前】テキストの「第8章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。		D

第9回	「経済的自由」 ・職業選択の自由等（憲法22条） ・財産権（憲法29条）	【事前】テキストの「第9章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。	D
第10回 ⑦	「人身の自由」 ・適正手続の保障 ・被疑者や被告人の権利 ・第10回までの学習内容の理解度確認（成績評価に含まない）	【事前】テキストの「第10章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。	D
第11回	「国民主権」 ・権力分立、三権分立 ・参政権	【事前】テキストの「第11章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。	D
第12回	「統治の仕組み①」 ・国会 ・内閣	【事前】テキストの「第12章」と「第13章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。	D
第13回	「統治の仕組み②」 ・裁判所 ・地方自治	【事前】テキストの「第14章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。	D
第14回	「平和主義」 ・憲法前文や9条の理想と現実 ・全体のまとめ	【事前】テキストの「第15章」を通読し、関係する条文等を確認（134分）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（133分）。	D
	定期試験		

テキスト

- ・内山絵美子ほか『保育士・教員のための憲法』八千代出版

参考書・参考資料等

- ・南野森監修『10歳から読める・わかる いちばんやさしい日本国憲法』東京書店
- ・椋大樹『檻の中のライオン 憲法がわかる46のおはなし』かもがわ出版
- ・吉田成利『大学生のための日本国憲法入門』慶應義塾大学出版会
- ・橋本男入編集『保育と日本国憲法』株式会社みらい
- ・高乗正臣『保育者のための法学・憲法入門〔第2版〕』成文堂
- ・大林啓吾ほか編著『ケースで学ぶ憲法ナビ〔第2版〕』株式会社みらい
- ・駒村圭吾編『プレステップ憲法〔第4版〕』弘文堂
- ・初宿正典ほか編著『目で見える憲法〔第6版〕』有斐閣
- ・斎藤一久ほか編『図録日本国憲法〔第2版〕』弘文堂
- ・別冊ジュリスト『憲法判例百選I』『憲法判例百選II』（第7版）有斐閣
- ・田村和之ほか『保育判例ガイドブック』信山社

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・講義で取り扱う提出物については、授業時間内で講評等のフィードバックを行います。

学生に対する評価

- ・講義に対して取り組む姿勢や態度（28%）、前期末筆記試験（72%）の総合評価。

実務経験

- ・弁護士

実務経験を活かした教育内容

- ・講義全般に当たり、理論のみならず実務上の留意点や関係する法制度等を紹介します。
- ・日本国憲法のみならず、幼児教育者が直面し得る法的諸問題について、実務家としての知見を踏まえて解説します。
- ・裁判実務や時事問題を織り交ぜることにより、単に「学問」としての憲法ではなく、社会において生きる法として日本国憲法および法学全般の素養を習得することを目指します。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
情報機器の操作 (教養科目)	選択 必修	必修		開講期： 1学年 前期 又は 後期		小野目 如快
授業の概要						
昨今のパソコンの低価格化とインターネットの発達により、様々な場所でパソコンの操作を求められることが多くなっている。しかし、パソコンの理解は実際に機器に触れての操作が必須である。本講座では、演習をとおして、Windowsの基本操作や、ワープロ、表計算の利用方法等を学習する。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築：情報関連の基礎的知識を習得することができる。						
②技能・スキル形成：パソコンの操作に関する技術を習得することができる。						
③理念・理解・探究：ネットワークの利用を通して、より深い探求をし、知識を深めることができる。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI－1, DPI－2, DPH④						
授業計画表【AL】 D：ディスカッション・デバート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	Windowsの基本操作 ガイダンス、電源のON,OFF、各種アプリの起動方法			【事前学習】自宅にPCがあれば、そのスペックについて、調べておくこと（134分） 【事後学習】課題をまとめながら、タイピングの練習をしておくこと。（133分）		E
第2回	ファイル操作 エクスプローラによるファイル操作方法			【事前学習】ファイル操作について、あらかじめテキストに目を通しておくこと（134分） 【事後学習】課題をまとめながら、ファイル操作法について復習すること。（133分）		E
第3回	ワープロ① Wordの基本編集			【事前学習】できるだけ、タッチタイピング（キーボードを見ないでタイプすること）できるように練習しておくこと。（134分） 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。（133分）		E
第4回 ①	ワープロ② Wordの書式設定			【事前学習】あらかじめテキストに目を通しておくこと。（134分程度） 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。（133分）		E
第5回	ワープロ③ Wordの文書作成			【事前学習】Wordの「挿入」リボンの各ボタンを確認しておくこと（134分） 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。（133分）		E
第6回	ワープロ④ Wordの表作成			【事前学習】あらかじめテキストに目を通しておくこと。（134分） 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。（133分）		E
第7回	ワープロ⑤ Wordで地図作成			【事前学習】あらかじめテキストに目を通しておくこと。（134分） 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。（133分）		E
第8回	ワープロ⑥ Wordでのオブジェクト処理			【事前学習】Webで希望のイラストがすぐに検索できるようにしておくこと（134分） 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。（133分）		E

第9回	プレゼンテーション PowerPoint の操作	【事前学習】プレゼンテーションの効果的な方法について、あらかじめ調べておくこと。(134分) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(133分)	E
第10回	表計算① Excel の基本入力と編集	【事前学習】文字データと数値データの違いについて調べておくこと。(134分) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(133分)	E
第11回	表計算② Excel によるグラフ作成	【事前学習】Excel の「挿入」リボンのグラフグループにどのような種類のグラフが用意されているか調べておくこと。(134分) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(133分)	E
第12回	表計算③ Excel によるデータベース処理	【事前学習】データベースとは？Web を利用して調べておくこと。(134分) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(133分)	E
第13回	表計算④ Excel による関数処理1 統計関数、表計算検定	【事前学習】「表計算① Excel の基本入力と編集」で出てきた関数を確認しておくこと。(134分) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(133分)	E
第14回	表計算④ Excel による関数処理2 日時処理、シリアル値、条件付き書式	【事前学習】日付／時刻関数における「シリアル値」について、あらかじめ調べておくこと。(134分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(133分)	E
テキスト 小野目如快 著『Office2021 で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版			
参考書・参考資料等 必要により、別途説明用資料を授業内で配布。			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 授業内で課題として提出したレポートは、採点して、次回の授業で返却する。			
学生に対する評価 毎回課題を課す（100%）			
実務経験			
実務経験を活かした教育内容			

§ 2. 外 国 語

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
英語ⅠA (外国語)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		北本洋子
授業の概要						
保育園の生活を題材にしたストーリーを読み、内容を理解する。保育現場に密着した語彙を学ぶ。 語句を並べ替えて正しい英文を作る練習をする。穴埋めで口語文を作り、対話練習をする。 英語を聞いて課題を解くリスニング練習をおこなう。基本的な文法を、練習問題を解きながら復習する。 英語のわらべうたを覚え、うたってみる。 英語ⅠAでは、保育現場で想定される、新学期、登園、室内や園庭での遊び、けんか、昼食、着替え、午睡、病気、緊急連絡などの場面・状況での英語での基本的なコミュニケーション、伝達内容と表現について学ぶ。						
授業の到達目標						
②知識の獲得・構築：保育で出会う事物や行為・感情等を表す英語の語彙を知る。英語の文を作る基本ルールを覚える。 ②技能・スキル形成：学んだ語彙と作文ルールを使って英文を作り、口頭または文書で表出することができる。 ③理念・理解の形成：英語を用いて、日本語に不慣れな園児・保護者の支援につなげる。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1, DPI-2, DPI④						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	ガイダンス 授業の進め方、自己紹介			(事前) 教科書の「はしがき」を読む (35分) (事後) 音声ダウンロード機能を使って英語 音声を聴く準備をする (35分)		E
第2回	L1 新学期	初対面のあいさつ、園の人々と設備		(事前) ストーリーを下読みし、読解のポ イントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第3回	L2 登園	登園時の会話、家族、人物描写		(事前) ストーリーを下読みし、読解のポ イントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第4回	L3 室内遊び	室内遊びと玩具、欠席の電話連絡		(事前) ストーリーを下読みし、読解のポ イントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第5回 ㊦	文法のおさらい1 (1) 一般動詞の文			(事前) 解説を読み、例題を解く (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第6回	文法のおさらい1 (2) be 動詞の文			(事前) 解説を読み、例題を解く (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第7回 ㊦	L4 砂遊び・園庭	外遊びの指導、園庭の遊具と身近な植物		(事前) ストーリーを下読みし、読解のポ イントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第8回	L5 けんか	ゲームの指導、様々な行為とけんか		(事前) ストーリーを下読みし、読解のポ イントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第9回	L6 昼食	昼食時の指導と会話、食材や食器		(事前) ストーリーを下読みし、読解のポ イントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第10回 ㊦	L7 着替え	衣類や持ち物についての連絡		(事前) ストーリーを下読みし、読解のポ イントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第11回	L8 昼寝	トイレの指導、衣類と持ち物		(事前) ストーリーを下読みし、読解のポ イントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E

第12回	L9 病気 病気への対処、身体各部の名称	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35 分) (事後) 宿題の問題を解く (35 分)	E
第13回	L10 緊急連絡 保護者への緊急連絡、気持ちと様子	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35 分) (事後) 宿題の問題を解く (35 分)	E
第14回 ㊦	文法のおさらい2 疑問文・否定文・命令文	(事前) 解説を読み、例題を解く (35 分) (事後) 宿題の問題を解く (35 分)	E
テキスト 森田和子 著『新・保育の英語』三修社			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業時に配付する。			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 ストーリーの下読み課題は、授業時に答え合わせと解説を行なう。 数課ごとに「振り返りテスト」を行い、返却時に注意点等を解説する。			
学生に対する評価 「振り返りテスト」の成績 80%、受講態度 (授業や予習・復習への取り組み) 20%			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
英語 I B (外国語)	必修	必修	必修	開講期：1学年 後期		北本洋子
授業の概要						
保育園の生活を題材にしたストーリーを読み、内容を理解する。保育現場に密着した語彙を学ぶ。 語句を並べ替えて正しい英文を作る練習をする。穴埋めで口語文を作り、対話練習をする。 英語を聞いて課題を解くリスニング練習をおこなう。基本的な文法を、練習問題を解きながら復習する。 英語のわらべうたを覚え、うたってみる。 英語 I B では、英語 I A の学習内容を前提に、保育現場で想定される、行事の案内、運動会、散歩、お絵かき、工作などの製作活動、降園、連絡帳記入などの場面・状況での英語での基本的なコミュニケーション、伝夏内容と表現について学ぶ。						
授業の到達目標						
②知識の獲得・構築：保育で出会う事物や行為・感情等を表す英語の語彙を知る。英語の文を作る基本ルールを覚える。 ②技能・スキル形成：学んだ語彙と作文ルールを使って英文を作り、口頭または文書で表出することができる。 ③理念・理解の形成：英語を用いて、日本語に不慣れな園児・保護者の支援につなげる。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1, DPI-2, DPI④						
授業計画表【AL】 D：ディスカッション・デバート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	L11 行事の案内 行事の案内状、電話連絡			(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第2回	L12 運動会 さまざまな運動			(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第3回	L13 散歩1 (1) 付近の建物や施設			(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第4回	L13 散歩1 (2) 場所の表現			(事前) 位置関係の表現を覚える (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第5回	L14 散歩2 道案内			(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第6回 ㊦	L15 お絵かき 色々な形、作業の指示			(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第7回	L16 工作 文房具、作業の指示			(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第8回	文法のおさらい3 (1) 場所の前置詞			(事前) 解説を読み、例題を解く (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第9回	文法のおさらい3 (2) 時の前置詞			(事前) 解説を読み、例題を解く (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第10回 ㊦	L17 降園 降園時の会話、クラスからのお知らせ			(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E
第11回	L18 連絡帳 連絡帳の記入、乳児室の物品			(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)		E

第12回	L19 家庭調査書 家庭調査書の書式、園行事	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)	E
第13回	L20 園だより 年間行事と園だよりの書き方	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (35分) (事後) 宿題の問題を解く (35分)	E
第14回 ㊦	文法のおさらい4 疑問詞を使った疑問文	(事前) 解説を読み、例題を解く (35分) (事後) 学習を振り返る (35分)	E
テキスト 森田和子 著『新・保育の英語』三修社			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業時に配付する。			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 ストーリーの下読み課題は、授業時に答え合わせと解説を行なう。 数課ごとに「振り返りテスト」を行い、返却時に注意点等を解説する。			
学生に対する評価 「振り返りテスト」の成績 80%、受講態度 (授業や予習・復習への取り組み) 20%			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
英語Ⅱ (外国語)				開講期：2学年 通年		北本洋子

授業の概要

海外旅行に必要な語彙を学ぶ。

海外旅行でしばしば出会う表現を学び、発音練習、会話練習をおこなう。

旅行中によく見かけるパンフレットや書類などから必要な情報を読み取る練習をする。

ビデオ教材も併用し、旅の雰囲気を感じながら、聞き取りや会話の練習をする。

授業の到達目標

①知識の獲得・構築：海外旅行に必要な語彙、表現を知る。

②技能・スキル形成：英語を使って質問や依頼をし、必要な情報や協力を得ることができる。

③理念・理解の形成：

ディプロマポリシーとの関連

DPI-1, DPI-2, DPII④

授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	ガイダンス、旅の準備をしよう	(事前) 教科書の「はしがき」を読む (35分) (事後) 音声ダウンロード機能を使って英語 音声を聴く準備をする (35分)	E
第2回	機内にて	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第3回	(ビデオ) 飛行機に搭乗する	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第4回	(ビデオ) 機内サービスを受ける	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第5回	到着と入国審査	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第6回	(ビデオ) 入国手続きをする	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第7回	(ビデオ) 税関を通る	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第8回	両替をしよう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第9回	ホテルにチェックインしよう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第10回	ホテル内の施設を利用しよう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第11回	食事をしよう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第12回	(ビデオ) ホテルで朝食をとる	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第13回	(ビデオ) ファーストフードの店で昼食をとる	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第14回	(ビデオ) レストランで夕食をとる	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第15回	観光に行こう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第16回	会話を楽しもう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E

第17回	ショッピングをしよう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第18回	(ビデオ) デパートで服を買う	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第19回	(ビデオ) お土産を買う	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第20回	体調を崩してしまったら	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第21回	街を歩いてみよう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第22回	(ビデオ) 観光案内所を訪れる	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第23回	(ビデオ) バスに乗る	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第24回	(ビデオ) タクシーに乗る	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第25回	(ビデオ) 道を尋ねる	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第26回	ホテルをチェックアウトしよう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第27回	帰途にて	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
第28回	旅について話そう	(事前) 単語の意味を調べる (35分) (事後) 学習した表現を覚える (35分)	E
テキスト Diane H. Nagatomo、村瀬文子 著 『 <i>Simply Traveling—Communication Anytime, Anywhere!</i> (場面別フレーズで学ぶ はじめての海外英会話)』 金星堂			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業時に配付する。			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 毎回「おさらいミニクイズ」を口頭または筆記でおこない、授業内で答え合わせや解説をする。			
学生に対する評価 授業内の活動 (70%) 「おさらいミニクイズ」の成績 (30%) この授業では、積極的に声を出し練習することが求められる。			

§ 3 . 保 健 体 育

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態：実技 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
体育実技 (保健体育)	必修	必修	必修	開講期：1学年 通年		堀内弓子 佐久間博子
授業の概要						
本授業では、生涯を通してスポーツやダンスに親しむ資質や能力を培うとともに、健康な体づくりを実践する。ペアあるいはチームで協力して運動を行い、一体感・達成感を味わうことで仲間と共に体を動かす楽しさを知る。そして、子どもの運動遊びとして取り上げられている活動について、実技を通してそのねらい、展開方法、そして安全上の留意点などについて理解していく。子どもが身体を動かす楽しさを十分に感じながら遊ぶために、まずは自らが楽しんで活動に取り組むことから始め、指導できる技術の獲得を目指す。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築：・運動のルール、戦術、審判方法と保健衛生の知識を得る。 ・現代の子どものに必要な運動内容を知る。						
② 技能・スキル形成：・運動の基礎技術を身につけ、協働して主体的に進行・運営ができる。 ・保育の中で必要な運動内容を指導できる。						
③ 理念・理解・探究：・生涯にわたって、体力の維持・増進に対する実践力を理解する。 ・保育における運動遊びや活動、その支援方法の基本的な考え方を理解する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPⅡ④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・デバート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	前期受業オリエンテーションと体力測定① 前期に実施する授業内容のガイダンスをおこない、体力測定を実施する意義を理解する。自己の体力の現状を知り体力の劣っている点を明確にし、改善に向けての運動方法を導き出すよう解説。			事前準備：高校生活に比して生活習慣や運動量、体力、体格の変化などを自己評価しておく。 事後学習：体力測定の結果を踏まえて体力における改善点を明確にし、日常生活でできる運動を習慣的に実施できるよう計画する。		D E
第2回	体操・リズム運動① 子どものお手本となる正しい姿勢、基本動作（歩行・後ろ歩き・スキップ・ギャロップ等）を実践。			事前学習：教科書 p.6～53 の子どもの基本的な運動例のイラストを見て、イメージをつけておく。 事後学習：教科書を振り返り、授業で実践した動きの正式な名称や動き方を復習する。		D E
第3回	体操・リズム運動② リズムに合わせて身体を動かし、仲間と一緒に楽しむ。（ペア・グループ・集団等）			事前学習：並足や駆け足に適した曲、子どもが「楽しい」と感じる曲はどんな曲が良いか考えておく。 事後学習：「動き」に対する「音楽」の効果について授業を振り返る。		D E
第4回	体操・リズム運動③ 体を大きく、伸び伸びと動かす方法を学ぶ。			事前学習：体をしなやかに動かせるようストレッチの意義を理解し、実施しておく。 事後学習：体を大きく動かす意義やポイントをまとめておく。		E
第5回	勝敗のある運動遊びで楽しむ ドッジボール① ゲームの進め方や役割を考える			事前学習：ドッジボールのルールを調べておく。 事後学習：学習したことをまとめておく。		D E
第6回	ドッジボール② 率先してゲームを進行し、リーグ表の読み方、記入の方法を修得する。			事前学習：リーグ表やトーナメント表の記入の仕方を予習しておく。 事後報告：保育現場で子どもとドッジボールを実施する上での具体的な必要用具や進行方法をまとめておく。		D E

第7回	基本体操① 「ラジオ体操第一」 運動の目的と運動方法を理解する	事前学習：教科書 p. 89～93 を読み、「ラジオ体操第一」の組み立てられ方を理解しておく。 事後学習：「ラジオ体操第一」の動きを正確に実施できるよう練習しておく。	D
			E
第8回	基本体操② 「ラジオ体操第一」 グループごとに互いに動きのチェックをしながら運動の正確性を追求する	事前学習：動きのポイントを押さえておく。 事後学習：運動のつなぎや苦手な動きを練習しておく。	D
			E
第9回 (テ)	基本体操③ 「ラジオ体操第一」グループテスト	事前学習：動きのポイントを押さえて「ラジオ体操第一」を号令を掛けながらスムーズに実施できるようにしておく。 事後学習：教科書 p. 89～93 をまとめておく。	GW
			E
第10回	球技を楽しむ バレーボール。全員が楽しめるような工夫を考える	事前学習：「ボール」を使った運動遊びを調べておく。 事後学習：グループで工夫した点をまとめておく。	GW
			E
第11回	授業内運動会① 全員で楽しめる「小さな運動会」を考え、実施してみる。	事前学習：今までの「運動会」を振り返り楽しかった点や嫌だった点を振り返っておく。 事後学習：皆で考えた「小さな運動会」の内容を安全性や平等性について考えておく。	GW
			E
第12回	授業内運動会② 各自の役割を確実に実行し、スムーズな振興につなげる。 仲間と共に協力して楽しむ。	事前学習：自分の役割を再確認し、趣味レーションしておく。 事後学習：全体の進行や安全性、平等性についてレポートしておく。	D
			E
第13回	授業内運動会の振り返りと自主活動 役割ごとにグループディスカッションを行い、「運動会」についての反省や振り返り等意見交換を行う。	事前学習：運動会を通して感じたことをまとめておく。 事後学習：グループディスカッションを振り返り、項目ごとに授業で行ったレポートを完成させる。	D
			E
第14回	体力測定② 2回目の体力測定実施。4月に実施した結果と比較し、体力の変化を評価する	事前学習：入学してからの自己の運動量や体力について考える。 事後学習：2回の体力測定を比較、評価して今後の健康体力づくりに向けた具体的な運動方法を考える。	D
			E
第15回	後期授業のオリエンテーション 「歩く」運動(テキスト, 以下(テ)とする)p6～7 運動大型遊具の設定と遊び	事前準備：運動ができるように体調を管理し、準備をしておくこと。 事後学習：授業体験内容をテキストと資料を読んで理解しておく。	E
第16回	「跳ぶ、回る、走る」運動(テ)p15. P19-22 「蹴る」運動(テ)p41～46 サッカー① 基本技能を習得する	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：授業体験内容をテキストと資料を読んで理解しておく。	E
第17回	「走る、とぶ、回る、投げる、捕る」運動(テ)p22～24, 28, 30 ルールのある遊び(テ)p47～48 サッカー② ゲームの進行・運営の方法を学ぶ	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：ルールやゲームの進行・運営方法をテキストや資料を読んで理解しておく。	E
			D
第18回	サッカー③ ゲームの分析～作戦を立てる(テ)p47～48	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：ゲーム分析をし、次回に向けて作戦を立てる。	E
			D
第19回	サッカー④ ゲームの分析～作戦を立てる	事前準備：自主的にゲームの進行や運営ができるよう役割を決めておく。 事後学習：今後に生かすため、進行・運営方法の反省をしておく。	E
			D

第 20 回	身近な素材を利用した遊び(新聞) (テ) p47~48 バレーボール① (テ) p 40	事前準備: テキストの該当箇所を読む。 事後学習: ゲーム分析をし、次回に向けて 作戦を立てる。	E D
第 21 回	身近な素材を利用した遊び (袋) バレーボール②ゲームの分析~作戦を立てる	事前準備: 自主的にゲームの進行や運営が できるよう役割を決めておく。 事後学習: 今後に生かすため、進行・運営 方法の反省をしておく。	E D
第 22 回 (テ)	「押す、引く」運動 (テ) p49, 50, 53, 54 身体表現 「ぶらさがる、振る、回る」運動 (テ) p72~74 鉄棒・肋木・平均台遊び (テ) p72-77	事前準備: テキストの該当箇所を読む。 事後学習: 実践した経験からわかったこと や子どもと行う際のアレンジを考える。	E
第 23 回	「押す、引く」運動 (テ) p51, 52, 55~58 身体表現 「ぶらさがる、振る、回る」運動 (テ) p75~77 ; 鉄棒遊び グループ発表	事前準備: テキストの該当箇所を読む (30 分)。 事後学習: 実践した経験からわかったこと や子どもと行う際のアレンジを考える。	E
第 24 回	身体表現 マット遊び (ロールマット、ウレタンマット) マットで「押す」「引く」遊び (テ) p60-66 遊び環境づくり準備	事前準備: テキストの該当箇所を読む。 事後学習: 実践した経験からわかったこと や子どもと行う際のアレンジを考える。	E GW
第 25 回	身体表現 跳び箱遊び (テ) p67-71 八の字リレー (障害物) 遊び 各班で考えた遊び環境の設定実践	事前準備: テキストの該当箇所を読む。 事後学習: 実践した経験からわかったこと や子どもと行う際のアレンジを考える。	E GW
第 26 回	子どもと遊ぶ準備 全体進行の把握 / 各班の遊びの進め方 / 安全な環境設定づくり	事前準備: これまでの活動を思い起こし、 手際よく環境設定できるようにしておく。 事後学習: 考えた環境設定で子どもがどの ように遊ぶかイメージしておき、援助内容 を考えておく。	E GW
第 27 回	子どもと遊ぼう 大型遊具(マット・鉄棒・巧技台等)で遊びラン ドをつく	事前準備: これまでの活動を思い起こし、 手際よく環境設定できるようにしておく。 事後学習: 考えた環境設定で子どもがどの ように遊んだか、安全面への配慮は十分だ ったかなどわかったことや今後の課題をま とめておく。	E GW
第 28 回 (テ) (レ)	子どもの身体表現発表 大型遊具遊び: 実践内容の振り返り 後期のまとめ	事前準備: 発表に向けて体幹から大きく体 を動かせるように練習しておく。 事後学習: 授業の到達目標に向かって学 び、自己評価し、どんな力がついたか確認 する。	E

テキスト

橋本妙子・堀内弓子著『こどもの運動あそび』横浜女子短期大学

参考書・参考資料等

授業内で随時、紹介する。

課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法

- ・実技授業の中で行ったことを自分で実施し、健康体力づくりに役立てる。
- ・実技で取り扱うレポートについては、随時、授業内でフィードバックする。
- ・授業内実技テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度 (30%) と期末実技試験・授業内小テスト (実技)・
授業内課題等の提出物 (70%) の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
体育講義 (保健体育)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		堀内弓子 佐久間博子
授業の概要 健康の維持増進に必要な知識の習得と日常生活における実践力を養う。さらに、身体の仕組みとその働きおよびトレーニング方法について生理学的な側面から学修する。						
授業の到達目標 ① 知識の獲得・構築：健康を脅かす生活習慣病などの増加と新たな健康問題とその予防法について説明できる。 ② 技能・スキル形成：現代社会人として健康に生きる方法を身に着ける。 ③ 理念・理解・探究：健康な生活スタイルを目指すための基本的な事実と新たな知見を理解する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2						
授業計画【AL】D：ディスカッション・デバート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	ガイダンス 健康になるためのライフスタイル 自らの健康をコントロールし、改善していく方法を学ぶ。			事前学習：現在の生活習慣を振り返り、どのような生活が望ましいかを考える(30分) 事後学習：配布資料を基に、自らの生活習慣の改善点を考える(40分)。		D P
第2回	現代日本の栄養状態や栄養バランスを知る 野菜の摂取不足 若年層に多い朝食欠食 食生活の乱れ			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：現代日本人の栄養状態やバランスと比較し自らの食生活を見直す(40分)。		D P
第3回	飲酒と喫煙のからだへの影響 休養のとりかた			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：飲酒と喫煙の影響や休養のとり方を知り今後の自分の生活を考える(40分)。		D P
第4回 ㊦	生活習慣病と運動不足の関連性(1) 高血圧に対する運動の予防効果 高血圧と肥満の関係			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：高血圧に対する運動の予防効果を知り、自らの生活へどのような運動を取り入れるかを考える(40分)。		D P
第5回	生活習慣病と運動不足の関連性(2) 糖尿病・脂質異常症とライフスタイル メタボリックシンドロームと運動の関係性			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：2型糖尿病・メタボリックシンドロームに対する運動の予防効果を理解し、生涯にわたって健康的な生活をしていくための運動習慣について考える(40分)。		D P
第6回	生活習慣病と運動不足の関連性(3) 三大死因(心疾患・脳血管障害)と運動習慣			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：心疾患や脳血管障害と運動習慣との関係を理解し、適切なライフスタイルを考える(40分)。		D P
第7回	生活習慣病と運動不足の関連性(4) 三大死因(がん)と運動習慣 骨の強さと運動の関係			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：がんと運動習慣や女性の骨の強さと運動の関係を理解し、適切なライフスタイルを考える(40分)。		D P
第8回 ㊦	日常生活にとりいれる運動とは何か ウォーキングMAPを作成 ～健康を維持向上させるために～			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：自分の健康を維持・向上させるための運動プログラムを考える(40分)。		D P

第 9 回	骨の仕組みとその働き 前期に 2 回実施した体力測定を振り返り、 自己の体力を分析し、向上するための運動 を考える。 からだの主な骨の仕組みを理解し、その働 きについて学習する。	事前学習：高校の時に学習した「体の構 造」を復習しておく。(30 分) 事後学習：配布資料を見直し、復習してお く(40 分)	D
			P
第 10 回	骨格筋の仕組みとその働き 骨格筋の役割と具体的な「動き」のメカニズ ムを理解する。	事前学習：「骨格筋」の意味について調べ ておく(30 分) 事後学習：骨と骨格筋の名称や機能につい て復習しておく(40 分)	D
			P
第 11 回 ㊦	理解度テストと「体力」について 9・10 回目の授業の内容をテスト実施 防衛体力と行動体力を理解する	事前学習：9・10 回目の授業内容をしっか り復習しておく。(30 分) 事後学習：「体力」について復習してお く。(40 分)	D
			P
第 12 回	運動がからだと心の及ぼす影響 からだの適応力と免疫力	事前学習：からだの適応力・免疫力につい ての広義を押さえておく。(30 分) 事後学習：授業で学んだことをまとめる。 (40 分)	D
			P
第 13 回	トレーニング(運動)の正しい進め方 運動を安全に、かつ効果的に継続していく ための知識を修得する。	事前学習：これまで自分が経験した運動中 で起きた怪我についてまとめておく。(30 分) 事後学習：日常における運動の質と量につ いて自己分析し、評価する(40 分)	D
			P
第 14 回	けがの予防と応急処置 適切な応急処置の理解と実践	事前学習：予め配布資料を読んでおくこ と。(30 分) 事後学習：運動指導の際に注意すべき点を まとめておく。(40 分)	GW
			E
テキスト なし。説明用参考資料を授業内で配布。			
参考書・参考資料等 安倍孝編著『これからの健康とスポーツ科学 第4版』講談社、2020			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テストや提出課題等については、返却時に授業内で解説を行う。			
学生に対する評価 課題等を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(30%)と前期末筆記試験(70%)の総合評 価			
実務経験			

実務経験

堀内弓子(保育所体育指導)、佐久間博子(幼稚園体育講師)

実務経験を活かした教育内容

授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介,解説する。

§ 4 . 專 門 教 育 科 目

授業科目名 保育原理 (専門教育科目)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：1学年 前期	学術 ・ 実務	担当教員名 本田幸
授業の概要 保育の営みは、子どもを大切に考えることから始まる。この授業では、保育の意義・目的、なぜ保育が必要なのかということを学ぶ。また、保育・幼児教育が日本の国の中でどのように位置づけられ、どのような法制度の中で行われているのかについて学習する。さらに、保育・幼児教育の基本事項である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の概要と構造について学ぶ。合わせて諸外国や日本の保育の歴史や思想から保育観や子ども観について知識を広げていく。また、現在の日本の保育や子どもをめぐる諸課題について考える。						
授業の到達目標 ① 知識の獲得・構築： 保育の意義・目的、保育に関する法令及び制度、保育の思想及び歴史の基本的事項を理解している。 ② 技能・スキル形成： 保育の基本構造と保育内容について理解したことをふまえて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と具体的な保育実践を関連づけることができる。 ③ 理念・理解・探求： 現在の日本の幼児教育・保育の現状や子どもをめぐる諸問題について関心を持ち、よりよい保育実践を行うため、保育学生としての意欲と目的意識を持つ。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画【AL】 D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技、実習、課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	保育の概念—保育とはどのようなものだろう—	【準備学習（133分）】 保育という言葉からイメージすることを自由にあげてみる。自分の子どもの頃の保育所や幼稚園の思い出をまとめる。 【事後学習（134分）】 「保育」という言葉の意味や概念を自分で辞書などを用いて調べてみる。また、保育によく使われる用語についても復習すること。				E
第2回	保育の理念—子どもを大切にすること—	【準備学習（133分）】 テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p.20～p.34までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習（134分）】 授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解する。特に、「児童の権利に関する条約」については、授業プリントの復習に加え、自分でも文献やインターネット等で調べてみる。				E
第3回	創設者 平野恒の保育観、子ども観に学ぶ	【準備学習（133分）】 テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p.8～p.19までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習（134分）】 授業内容を復習するとともに、『シリーズ福祉に生きる 68 平野恒』亀谷美代子著、大空社、を読み、創設者平野恒の保育観、子ども観について理解を深めること。				E

第4回	保育に関する法令及び制度 (1) 保育にかかわる関係法令	【準備学習 (133 分)】テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p. 70～p. 78 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習 (134 分)】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること。	E
第5回	保育に関する法令及び制度 (2) 保育の実施体系	【準備学習 (133 分)】テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』の p. 21 の図表について、理解しておくこと。 【事後学習 (134 分)】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること。	E
第6回	保育における養護と教育	【準備学習 (133 分)】テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p. 91～p. 92 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習 (134 分)】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること。	E
第7回	「保育所保育指針」における保育の基本原則 「幼稚園教育要領」における幼児教育の基本	【準備学習 (133 分)】『保育所保育指針解説』p. 17～p. 18、『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 p. 10～21「幼児期の特性と幼稚園の役割」を読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習 (134 分)】授業時に配布したプリント等を復習し、「保育所保育指針」の第1章総則に書かれている重要語句について、しっかりと復習すること。『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館の p. 26～p. 40「幼稚園教育の基本」を授業内容と合わせて復習すること。	E
第8回	「保育所保育指針」における保育内容の構造	【準備学習 (133 分)】テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p. 87～p. 92 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習 (134 分)】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること。	E
第9回	乳児の保育 1歳以上3歳未満児の保育	【準備学習 (133 分)】『保育所保育指針解説』p. 370～p. 380 を読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習 (134 分)】授業時に配布したプリント等を復習し、「保育内容」のねらい及び内容を理解すること。	E
第10回	3歳以上児の保育 「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	【準備学習 (133 分)】『保育所保育指針解説』p. 60～p. 81 を読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習 (134 分)】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること。	E
第11回	諸外国の保育の思想と歴史	【準備学習 (133 分)】テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p. 53～p. 57 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習 (134 分)】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと	E

		理解すること。	
第 12 回 ⑬	日本の保育の思想と歴史	【準備学習（133 分）】テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p.36～p.51を読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習（134 分）】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること。	E
第 13 回	子ども・子育て支援制度	【準備学習（133 分）】テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p.78～p.80 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習（134 分）】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること。	E
第 14 回	日本の保育の現状と課題	【準備学習（133 分）】テキスト『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』p.58～p.67 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと。 【事後学習（134 分）】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること。	E
テキスト 『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』佐藤寛之、二階堂邦子、石山直樹、鷗野澤武美、平松美保子、本田幸 著（学校法人白峰学園横浜女子短期大学） 参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）、『保育所保育指針解説』厚生労働省（フレーベル館）、『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館） 『シリーズ福祉に生きる 68 平野 恒』 亀谷美代子著 大空社 * その他、適宜授業内で資料を配布する。			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・各授業の最後にその授業のまとめ、振り返りと課題等に関するコメントを伝達する。 ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価 前期末筆記試験(60%)、レポート課題(30%)、授業に対して取り組む姿勢(10%)、の総合評価			
実務経験 幼稚園教諭			
実務経験を活かした教育内容 授業内で理論と保育実践が結びつくように、テキスト内の事例や具体的エピソードを活用した授業を行う。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育者論 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：2学年 前期		本田幸
授業の概要						
この授業ではまず、「保育者の役割と責務」「保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ」について学ぶ。また、保育専門職に必要な資質・能力、養護と教育の一体となった保育展開、保護者および地域における子育て支援についての理解を深める。さらに、保育者に求められる連携・協働について考える。最後に、保育者の資質向上、キャリア形成について学び、成長しつづける保育者の在り方を考える。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築： 保育者の役割や責務、保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけについて、法的な知識を踏まえて理解している。						
② 技能・スキル形成： 保育専門職に必要な資質・能力について理解し、具体的な実践を行うための基礎的技能や実践力を身に付けている。						
③ 理念・理解・探求： 保育専門職として責任感や使命感を持ち、より良い保育実践を行うために仲間と協働し、自分自身を成長させようとする意欲、さらに学び続けようとする探求心を持っている。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	オリエンテーション：保育の営みについて考える			【準備学習（133分）】1年次に学習したことを振り返り、保育者になりたい理由、どのような保育者を目指しているかを改めて自分なりにまとめる。 【事後学習（134分）】授業プリントや授業内容を通して、保育職のやりがい、喜び、責任、社会的意義などを自分の言葉でまとめる。		E
第2回	保育者の役割と職務内容			【準備学習（133分）】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp.2-10を読んでおくこと。 【事後学習（134分）】プリント、テキスト等の内容をもう一度確認しておくこと。特に保育者の法的位置づけ、役割についてはしっかりと復習すること。		E
第3回	保育者の倫理			【準備学習（133分）】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』p.19「全国保育士会倫理綱領」をよく読んでおくこと。 【事後学習（134分）】プリント、テキスト等の内容をもう一度確認しておくこと。特に保育者に必要な専門職としての倫理について確認すること。さらに、ニュースや新聞で報道されている「不適切保育」の問題についても考えをまとめてみる。		E
第4回	保育者の資格と責務			【準備学習（133分）】。テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp.26-30を読んでおくこと。		

		【事後学習(134分)】プリント、テキスト等の内容をもう一度確認しておくこと。特に保育者に必要な資格と責務について法令を含めてしっかりと復習しておくこと。	E
第5回	子どもを理解する保育者	【準備学習(133分)】参考図書『保育学のはじめの一步』pp.112-121を読み、子どもの発達過程のおおまかな道筋と保育者の援助について復習しておくこと。 【事後学習(134分)】プリントや授業内容をもとに、個々の子どもを理解することの大切さ、援助のポイントについてまとめること。	E
第6回 ①	遊びを援助する保育者	【準備学習(133分)】参考図書『保育学のはじめの一步』pp.122-135を読み、遊びと保育について復習しておくこと。 【事後学習(134分)】プリント、授業内容をもとに、遊びを援助する保育者の役割についてまとめること。	E
第7回	個と集団を生かす保育者	【準備学習(133分)】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp.64-67を読んでおくこと。 【事後学習(134分)】プリントや授業内容を復習すること。自分なりに保育における個と集団の意義を問い直し、一人一人が生かされる集団を形成するための保育者の関わりについて考えること。	E
第8回	家庭や地域と連携・支援する保育者(1) 園の保護者への子育て支援	【準備学習(133分)】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp.140-143を読んでおくこと。 【事後学習(134分)】プリント、授業内容をもとに園の保護者との連携、子育て支援についての保育者の役割についてまとめること。	E
第9回	家庭や地域と連携・支援する保育者(2) 地域の保護者への子育て支援	【準備学習(133分)】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp.144-149を読んでおくこと。 【事後学習(134分)】プリント、授業内容をもとに地域の子育て家庭に対する支援の意義について復習すること。	E
第10回	専門機関との連携	【準備学習(133分)】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp.128-138を読んでおくこと。 【事後学習(134分)】プリント、授業内容をもとに、地域における医療機関、療育機関、保健機関等との連携の重要性と意義についてまとめること。	E
第11回	保育の省察	【準備学習(133分)】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp.76-88を読んでおくこと。 【事後学習(134分)】プリント、授業内容をもとに保育における省察の具体的方法、意義、PDCAサイクルを踏まえたカリキュラムマネジメントについてまとめること。	E
第12回	保育における職員間の協働・連携	【準備学習(133分)】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp.114-119を読んでおくこと。	

		【事後学習(134分)】プリント、授業内容をもとに園の職員間の連携についてまとめておくこと。	E
第13回	保育者の資質向上とキャリア形成の意義	【準備学習(133分)】テキスト『基本保育シリーズ 保育者論』pp. 176-186を読んでおくこと。 【事後学習(134分)】テキストや授業で学んだことをもとに自分自身のキャリア形成について考えてみること。	E
第14回	まとめ：自分自身の保育観、子ども観を形成する	【準備学習(133分)】講義で学んだことや実習での体験を通して、保育を行う上で大切に考えていること、自分自身がやりたいと思う保育について考えておくこと。 【事後学習(134分)】自分自身の保育観、子ども観を整理してまとめ、言葉に表現すること。	E
テキスト 『基本保育シリーズ 保育者論』矢藤誠慈朗、天野珠路編、中央法規出版			
参考書・参考資料等 『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』佐藤寛之、二階堂邦子、石山直樹、鵜野澤武美、平松美保子、本田幸 著 (学校法人白峰学園横浜女子短期大学) * その他、適宜授業内で資料を配布する。			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 ・各授業の最後にその授業のまとめ、振り返りと課題等に関するコメントを伝達する。 ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価 前期末筆記試験(60%)、レポート課題(30%)、授業に対して取り組む姿勢(10%)、の総合評価			
実務経験 幼稚園教諭			
実務経験を活かした教育内容 実務経験を踏まえた保育の事例や学生自身のディスカッションを通して、保育専門職の喜びややりがいを理解し、自分自身の課題を見つけることができるような授業を展開する。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
特別支援教育の基礎と方法 (専門教育科目)	選択	必修	選択	開講期：2学年 後期		森 美佐子

授業の概要			
障害の捉え方や発達の支援について考え、障害児保育の基本的な考え方を学ぶ。各障害（身体障害、視覚・聴覚障害、知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠陥・多動症、限局性学習症など）について、その特性と支援の方法を解説する。発達をうながす生活や遊びの環境づくり、保育のなかで育てる言葉の発達、行動や情動調整のむずかしい子どもの保育における留意点を学ぶ。障害児の評価や保育目標・計画の記録方法について学び、演習する。地域における保健・福祉・教育機関の現状について学び、連携のあり方を考える。保護者や家族の心理について紹介し、支援や対応のあり方について学ぶ。視聴覚教材を用いて障害をもつ子どものイメージがもてるようにし、さまざまな事例を紹介する。			

授業の到達目標			
①知識の獲得・構築：障害が「何であるか・どこにあるか」を知識として獲得できる。障害をめぐる歴史的背景から障害を持つ子どもを保育するうえで、「障害」が特性と環境との相互関係による「状態像」であることを正しく理解できる。			
②技能・スキル形成：障害の理解にたいして、「どうするか」という実践のスキルを獲得できる。さまざまな障害の特性について理解し、発達状態や障害特性に応じた保育が実践できるための準備性を培うことができる。			
③理念・理解・探究：障害児の保護者や家族の心理を理解し、保健・福祉・教育機関との連携についての理解を深め、保育の協働のあり方への探究心を持てるようになる。			

ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③			
-----------------------	--	--	--

授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題			
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	なぜ特別な支援が必要なのか（1）障害とはなにか	毎回の授業内容について、テキストの該当部分もとに予習時間（134分）を確保すること。そして、事後学習として配布資料および演習ワークを見返し、ポイントを整理すること（133分）。 施設実習などで出会う障害をもつ子どもや行動の気になる子どもに対し、関心をもって観察し、その子どもの特性や行動の背景、保育の方法、自分の関わり方について考えるようにすること。毎回、演習ワークを実施するので、質問や発言などの積極的な授業参加が望まれる。 事前学習：テキストの該当部分（3P-15P）（134分） 事後学習：配布資料（133分）	GW
			E
第2回	なぜ特別な支援が必要なのか（2）障害児と保育について	事前学習：テキストの該当部分（16P-20P）（134分） 事後学習：配布資料（133分）	GW
			E
第3回	発達を理解する（1）合理的配慮を理解する	事前学習：テキストの該当部分（24P-27P）（134分） 事後学習：配布資料（133分）	GW
			E
第4回	発達を理解する（2）発達の領域と発達検査について	事前学習：テキストの該当部分（29P-34P）（134分） 事後学習：配布資料（133分）	GW
			E
第5回	発達の違いを理解する（1）発達検査の結果から	事前学習：テキストの該当部分（34P-39P）（134分） 事後学習：配布資料（133分）	GW
			E
第6回	発達の違いを理解する（2）発達を支援すること		GW

		事前学習：テキストの該当部分 (34P-39P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	
第7回	障害の特性を理解する (1) 肢体不自由	事前学習：テキストの該当部分 (44P-45P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	GW E
第8回	障害の特性を理解する (2) 知的障害	事前学習：テキストの該当部分 (46P-47P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	GW E
第9回	障害の特性を理解する (3) 視・聴覚障害	事前学習：テキストの該当部分 (48P-49P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	GW E
第10回	障害の特性を理解する (4) 病弱・重症心身障害・言語障害	事前学習：テキストの該当部分 (50P-54P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	GW E
第11回	障害の特性を理解する (5) ASD (自閉スペクトラム症)	事前学習：テキストの該当部分 (56P-61P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	GW E
第12回	障害の特性を理解する (6) ADHD (注意欠如・多動症)・LD (限局性学習症)	事前学習：テキストの該当部分 (64P-67P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	GW E
第13回	支援方法を理解する (1) 心の支援	事前学習：テキストの該当部分 (70P-77P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	GW E
第14回	支援方法を理解する (2) 発達論による支援 第1～14回までの学習内容の振り返り 事例の紹介とグループワーク	事前学習：テキストの該当部分 (80P-86P) (134 分) 事後学習：配布資料 (133 分)	GW E
テキスト 星山麻木編著 『障害児保育ワークブックーインクルーシブな保育・教育をめざして』 萌文書林 ※説明用の資料を授業内で適宜配布する			
参考書・参考資料等 尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 『よくわかる障害児保育』 ミネルヴァ書房			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 毎回の授業資料の冒頭で、全体としてのフィードバックを行う。演習ワークを毎回実施し、次回授業時間内で講評等のフィードバックを行う。個別に必要な場合は、メールでフィードバックを行う場合もある。			
学生に対する評価 授業学習 (特に毎回の演習ワーク) に関して積極的に取り組む姿勢・態度・ (70%)、授業の演習内容のリアクションペーパーの内容 (30%) の総合評価			
実務経験 幼稚園教諭Ⅰ種、保育士、児童発達支援管理責任者、子育て支援指導者 (神奈川県教員研修センター認定)、社会福祉主事資格 (全国社会福祉協議会認定)、公認心理師現認者講習修了 (日本公認心理士協会) 横浜市内の認定こども園 (H21 年に幼稚園から幼保連携型認定こども園に移行) に保育教諭・管理職として勤務 神奈川県内初の認定こども園と障害児通所支援 (児童発達支援・放課後等デイサービス) を併設した施設の運営に従事 横浜市内に学びの多様な学校 (いわゆる、不登校特例校) の私立義務教育学校 (R8 年1月開校予定、設置認可手続中) の設立準備に従事			
実務経験を活かした教育内容 認定こども園等のインクルーシブ保育の実践、発達障害児の療育支援及び保護者支援の実践を教授する。具体的には、心理教育アセスメントの活用と個別指導 (支援) 計画の作成、指導計画の作成のポイントの実践記録 (画像及び映像資料) を用いて理解を深め、実践に役立つ教育内容を提供する。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
障害児保育 (専門教育科目)	選択		必修	開講期：2学年 前期		岡本 眞幸

授業の概要

- ・ 障害の捉え方や発達の支援について考え、障害児保育の基本的な考え方を学ぶ。
- ・ 各障害（身体障害、視覚・聴覚障害、知的障害、自閉症、注意欠陥・多動性障害など）について、その特性と支援の方法を学ぶ。
- ・ 発達をうながす生活や遊びの環境づくり、保育のなかで育てる言葉の発達、行動や情動調整のむずかしい子どもの保育における留意点を学ぶ。
- ・ 障害児の評価や保育目標・計画の記録方法について学び、演習する。
- ・ 地域における保健・医療・福祉・教育機関の現状について学び、連携のあり方を考える。保護者や家族の心理について紹介し、支援や対応のあり方について学ぶ。

授業の到達目標

①知識の獲得・構築：

様々な障害の特性や、障害特性に応じた保育のあり方に関する基礎的知識を習得することができる。

②技能・スキル形成：

発達状態や障害特性に応じた個別の指導計画を作成するなど、習得した基礎的知識を、子どもの保育、発達支援に役立てることができる。

③理念・理解・探究：

「社会的モデル」に基づく障害のとらえ方や、「インクルーシブ保育」の考え方を正しく理解し説明できる。
インクルーシブな保育のあり方に対する、強い探究心をもつことができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ③

授業計画表 【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技、実習、課題

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	授業ガイダンス 1. 障害児保育・特別支援教育とは 1-1) なぜ障害児保育を学ぶのか 1-2) 「障害がある」とは 1-3) 障害のある子どもへの保育とは 1-4) 障害児保育の歴史的変遷	事前学習：テキストの該当箇所（12～22 ページ）に目を通す(34分) 事後学習：配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第2回	2. 障害児保育・特別支援教育の基本 2-1) 発達の見方と気になる発達の評価 2-2) 障害児保育・特別支援教育の対象と支援の場 2-3) 障害児保育の現在（インクルージョン・合理的配慮）	事前学習：テキストの該当箇所（23～38 ページ）に目を通す(34分) 事後学習：配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第3回	3. 障害の理解と保育1 3-1) 気になる子どもと発達障害 3-2) 自閉症スペクトラム障害の理解と保育 3-3) 学習障害の理解と保育 3-4) 注意欠陥・多動性障害の理解と保育	事前学習：テキストの該当箇所（87～105 ページ）に目を通す(34分) 事後学習：配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第4回	4. 障害の理解と保育2 4-1) 知的障害の理解と保育	事前学習：テキストの該当箇所（37～50 ページ）に目を通す(34分) 事後学習：配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第5回	ここまでの授業内容のまとめ （「まとめプリント1」配布） 動画視聴 グループディスカッション	事前学習：これまでの学習内容のポイントに大まかに目を通す(34分) 事後学習：「まとめプリント1」の内容をしっかりと学習する(33分)	E D

第6回 ㉞・㊦	学習理解度の確認 (確認テスト1) 補足事項の説明	事前学習: 「まとめプリント1」の内容を再度学習する(34分) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	
第7回	5. 障害の理解と保育3 5-1) 肢体不自由・重症心身障害の理解と保育 5-2) 聴覚障害の理解と保育 5-3) 視覚障害の理解と保育 5-4) 言語障害の理解と保育	事前学習: テキストの該当箇所(51~76ページ)に目を通す(34分) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第8回	6. 多様な支援を必要とする子どもの理解と保育 6-1) 多様な支援を必要とする子ども 6-2) 外国につながる子どもの理解と保育 6-3) 子どもの貧困の理解と保育 6-4) 病弱児の理解と保育	事前学習: テキストの該当箇所(106~114ページ)に目を通す(34分) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第9回	7. 子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価 7-1) 保育の計画の作成 7-2) 個別の指導計画(個別計画)の作成	事前学習: テキストの該当箇所(116~130ページ)に目を通す(34分) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第10回	8. 個々の発達をうながす生活やあそびの環境 8-1) 子どもの自発性と保育の環境 8-2) 外界とかかわる基盤の力 8-3) 外界とのかかわりの広がり	事前学習: テキストの該当箇所(131~142ページ)に目を通す(34分) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第11回	9. 家庭および関係機関との関係 9-1) 保護者や家庭に対する支援 9-2) 地域の専門機関との連携	事前学習: テキストの該当箇所(168~181ページ)に目を通す(34分) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第12回	10. 障害のある子どもの発達を支える関連資源の現状と課題 10-1) 医療・保健の現状と課題 10-2) 園と専門機関の連携による支援	事前学習: テキストの該当箇所(208~213ページ)に目を通す(34分) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	E
第13回	ここまでの授業内容のまとめ (「まとめプリント2」配布) 動画視聴 グループディスカッション	事前学習: これまでの学習内容のポイントに大まかに目を通す(34分) 事後学習: 「まとめプリント2」の内容をしっかりと学習する(33分)	E D
第14回 ㉞・㊦	学習理解度の確認 (確認テスト2) 課題作文	事前学習: 「まとめプリント2」の内容を再度学習する(34分) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(33分)	
テキスト 前田泰弘編著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』萌文書林、2024年 ※説明用のプリント、資料を授業内で適宜配布する			
参考書・参考資料等 小橋明子監修、小橋拓真編著『障がい児保育』中山書店、2019年 公益財団法人児童育成協会監修、西村重稀・水田敏郎編集『障害児保育 基本保育シリーズ㉞』中央法規、2019			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テスト等については、授業時に解説を行った上で返却する。			

学生に対する評価

授業に積極的に取り組む姿勢・態度（30％）、授業内確認テスト（30％）、課題作文（20％）、レポート課題（20％）の総合評価

実務経験

（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士）

実務経験を活かした教育内容

授業科目名 社会福祉 (専門教育科目)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：1学年 前期	学術 ・ 実務	担当教員名 スティーヴン・トムソン
授業の概要 保育サービスは、社会福祉の大切なサービスの一つであることの理解に基づき、社会福祉の基本的事項として、その理念、歴史、実施体制、法制度の概要などについて学習する。また、社会福祉の専門職として、子どもとその保護者への支援を職務とする保育士の役割に着目しながら、相談援助や権利擁護の基本的な考えや方法を学ぶ。また、今日における社会福祉の動向や課題について考える。						
授業の到達目標 ① 知識の獲得・構築： ・現代社会における生活課題を説明できる ・社会福祉の目標概念と実体概念を説明できる ・社会福祉のあゆみ（歴史）、特に戦後の社会福祉のあゆみ（歴史）を説明できる ・社会福祉の実施体制（行政機関、社会福祉法人、社会福祉施設）を説明できる ・相談援助（ソーシャルワーク）の視点や個別援助技術（ケースワーク）を説明できる ③ 理念・理解・探究： ・社会福祉の定義を説明できるようになる ・基本的人権（特に子どもの人権）や基本的ニーズ、福祉ニーズを説明できる ・ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンの理念を説明できる						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画【AL】 D：ディスカッション、GW：グループワーク、P：プレゼンテーション、F：フィールドワーク、E：実技、実習、課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	ガイダンス、保育と社会福祉 私たちが暮らす社会とは、生活課題と社会福祉 ⇒ 教科書、16～25 ページ	事前学習 ：シラバスの内容を確認し、今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習 ：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）				D
第2回	社会福祉の考え方と役割 社会福祉の概念（社会福祉の理念）、社会福祉の構造、保育と社会福祉の関係 ⇒ 教科書、28～38 ページ	事前学習 ：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習 ：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）				D
第3回	社会福祉のあゆみ ① 日本における社会福祉の歴史（明治期以前の貧困救済、明治維新後の貧困救済、民間慈善事業活動、など） ⇒ 教科書、48～50 ページ	事前学習 ：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習 ：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）				D
第4回	社会福祉の歩み ② 戦後の社会福祉の展開、福祉の見直しと福祉改革、新しい社会福祉の理念と基礎の整備、社会福祉基礎構造改革、など） ⇒ 教科書、50～54 ページ	事前学習 ：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習 ：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）				D

第5回	社会福祉の実施体制 ① 国、都道府県、市町村の福祉行政機関、福祉の専門行政機関 ⇒ 教科書、84～87 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）	D
第6回	社会福祉の実施体制 ② 福祉の民間専門機関と団体（社会福祉法人、社会福祉協議会、NPO法人、など） ⇒ 教科書、87～91 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）	D
第7回	社会福祉の実施体制 ③ 社会福祉施設の目的と意義、社会福祉施設の概要 ⇒ 教科書、98～103 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）	D
第8回 ㊦	前半授業の総括 第1～7回目の学習内容の振り返り・確認（小試験を行い、内容の解説を行う）	事前学習：第1～7回目のプリントを見直し、理解できていない内容を教科書などで確認する（134分） 事後学習：配られたプリントを熟読する（133分）	D
第9回	子ども家庭支援と社会福祉 ① 子ども家庭支援とは（子どもを取り巻く社会、など）、子どもの人権と子ども家庭福祉の理念（子どもの権利保障に関する流れ、など） ⇒ 教科書、106～111 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）	D
第10回	子ども家庭支援と社会福祉 ② 子ども家庭支援の施策と動向（少子化対策の流れ、子どもを取り巻く課題と対応、など） ⇒ 教科書、111～116 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）	D
第11回	子ども家庭支援と社会福祉 ③ 保育施策の動向（保育所、認定こども園、認可外保育施設、など） ⇒ 教科書、116～119 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）	D
第12回	相談援助の意味と方法 ① 相談援助（ソーシャルワーク）の意味・原則、相談援助（ソーシャルワーク）の視点 ⇒ 教科書、176～181 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）	D
第13回	相談援助の意味と方法 ② 相談援助（ソーシャルワーク）の種類と展開過程（ソーシャルワークの種類、ソーシャルワークの展開過程、など） ⇒ 教科書、181～189 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）	D

第 14 回	・相談援助の意味と方法 ③ - 個別援助技術（ケースワーク） ・授業後半の振り返りと総括 ⇒ 教科書、184～185、187～189 ページ	<u>事前学習</u>：今回のテキスト箇所を熟読する（134 分） <u>事後学習</u>：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133 分）	D
テキスト 橋本好市・宮田徹編集『学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と社会福祉』（株）みらい			
参考書・参考資料等 『保育福祉小六法 2025 年版』（株）みらい			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストについては、授業中に返却し、説明・解説を行う ・期末試験について、必要に応じて個別的にフィードバックと指導を行う			
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢・態度（20%） 小試験（40%） 期末試験（40%）の総合評価			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子ども家庭福祉 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		石山 直樹
授業の概要						
今日の子どもとその家族が直面している生活問題とその社会的背景をふまえて、子ども家庭福祉に関する法制度およびサービスの全体像を把握していきます。また、社会福祉の専門職として、保育所以外にもさまざまな施設・機関などで子どもとその家族とかわる保育士に求められる役割を理解していきます。そして、保育士を目指すにあたって「子どもの最善の利益」を念頭に置いた思考・判断ができるようになることを目指していきます。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築 子ども家庭福祉に関する基本的知識（子ども家庭福祉の基本理念、現代の子どもを取り巻く社会環境、子ども家庭福祉の歴史的変遷、子ども家庭福祉に関する法制度およびサービスなど）を習得することができる。 (DPⅠ-2①知識・技能とそれを活かす思考力、DPⅡ①保育者としての基本的な使命感・責任感、教育的愛情、DPⅡ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能)						
②技能・スキル形成 児童虐待、障がい、ひとり親家庭など、子どもとその家族の状況に合わせた具体的な支援制度や支援方法について、習得した基本的知識をもとに、その特性などを説明することができる。 (DPⅠ-2①知識・技能とそれを活かす思考力)						
③理念・理解・探究 子どもがもつ権利ならびに現代社会における子ども家庭福祉の意義についての正しい理解をもとに、今日そしてこれからの社会における子ども家庭福祉サービスの意義、ならびに専門職としての保育士の役割について考察し、論じることができる。 (DPⅠ-2①知識・技能とそれを活かす思考力、DPⅡ①保育者としての基本的な使命感・責任感、教育的愛情)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	・オリエンテーション(授業内容と展開方法、評価方法などの説明) ・子ども家庭福祉の理念と、子どものもつ権利について			【事前学習】（2時間） テキスト（序章・第3章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。		E
				【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、子どものもつ権利について整理し、理解を深める。		
第2回	・子どもとその家族を取り巻く社会環境の変化とその背景（少子化問題を中心に）			【事前学習】（2時間） テキスト（第1章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。		
				【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、わが国における少子化問題の現状と社会的背景について整理し、理解を深める。		E
第3回	・日本および諸外国における子ども家庭福祉の歴史			【事前学習】（2時間） テキスト（第4章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。		

		【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、日本の子ども家庭福祉の歴史について整理し、理解を深める。	E
第4回	・子ども家庭福祉に関する法制度と行財政	【事前学習】（2時間） テキスト（第5章・第6章第3節）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、子ども家庭福祉に関する法制度について整理し、理解を深める。	E
第5回	・子ども家庭福祉にかかわる社会福祉施設・機関と専門職者	【事前学習】（2時間） テキスト（第6章第1～2節）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、子ども家庭福祉に関する各施設の目的・対象者および専門職者について整理し、理解を深める。	E
第6回	・子ども家庭福祉の現状と課題① （子育て支援と保育サービス）	【事前学習】（2時間） テキスト（第7章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、保育サービスならびに待機児童問題について整理し、理解を深める。	E
第7回	・子ども家庭福祉の現状と課題② （子どもに対する虐待問題への対応策）	【事前学習】（2時間） テキスト（第9章第1節）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、児童虐待問題とその対応策について整理し、理解を深める。	E
第8回	・子ども家庭福祉の現状と課題③ （社会的養護を必要とする子どもに対する援助）	【事前学習】（2時間） テキスト（第10章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、社会的養護を必要とする子どもに対する援助について整理し、理解を深める。	E
第9回 ㊦	・第1～8回授業の学びの振り返りと学びの確認（前期授業内小テスト）（筆記試験） ・子ども家庭福祉の現状と課題④ （非行傾向および心理的な不安定さを抱える子どもに対する援助）	【事前学習】（3時間30分） ・第1～9回までの学習内容を整理する。 ・テキスト（第12章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（1時間） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、非行傾向および心理的な不安定さを抱える子どもに対する援助について整理し、理解を深める。	E

第10回	・第1～8回授業の学びの振り返りと学びの確認（前期授業内小テスト）の解説 ・子ども家庭福祉の現状と課題⑤（障がいのある子どもとその家族に対する援助）	【事前学習】（2時間） テキスト（第11章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） ・中間テストの結果を振り返り、理解が不十分であったと考えられる箇所について、学びを再整理する。（必要に応じてレポート作成） ・テキスト・プリント・参考資料などをもとに、障がいのある子どもとその家族に対する援助について整理し、より一層理解を深める。	E
第11回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑥（配偶者からの暴力（DV）・デートDVに関する対応策）	【事前学習】（2時間） テキスト（第9章第2節）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、配偶者からの暴力（DV）・デートDVについて整理し、理解を深める。	E
第12回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑦（ひとり親家庭に対する援助）	【事前学習】（2時間） テキスト（第13章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、ひとり親家庭の生活とひとり親家庭に対する支援について整理し、理解を深める。	E
第13回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑧（母子保健サービス・子どもの健全育成に関するサービス）	【事前学習】（2時間） テキスト（第8章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】（2時間30分） テキスト・プリント・参考資料などをもとに、母子保健・子どもの健全育成に関するサービスについて整理し、理解を深める。	E
第14回 ㊦	・諸外国の子ども家庭福祉の動向について ・まとめ（これからの子ども家庭福祉と保育士の社会的役割について）	【事前学習】（3時間30分） 第1回～第14回授業までの学習内容を整理しておく。 【事後学習】（1時間） これまでの学習内容を総括し、これからの社会で求められる子ども家庭福祉サービスおよび保育士の役割を整理する。	E
テキスト ・比嘉真人監修、石山直樹・岡本眞幸・田家英二編『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論〔第3版〕』株式会社みらい			
参考書・参考資料等 ・福祉・保育小六法編集委員会『福祉・保育小六法 2025年版』株式会社みらい ・二階堂邦子・石山直樹・本田幸編著『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶー』横浜女子短期大学 ※必要に応じて、授業内でその他の参考書・参考資料を紹介します。			

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・授業内小テストについては、授業内で全体を対象とした解説・フィードバックを行ったうえで返却します。
- ・その他の授業内課題などについては、授業時間内で講評などのフィードバックを行います。
- ・上記2項目に加え、事後学習で不明な点が生じた場合など、必要に応じて個別のフィードバックも行います。

学生に対する評価

前期授業内小テスト(筆記試験) (35%)、前期末レポート試験(最終授業時に提出) (35%)、
授業内課題(リアクションペーパーなど) (20%)、授業に取り組む姿勢と参加度(10%)

実務経験 (実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載してください。)

実務経験を活かした教育内容 (実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載してください。)

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子育て支援 (専門教育科目)	選択		必修	開講期：2学年 後期		スティーヴン・トムソン 石山 直樹

授業の概要

保育士の行う子育て支援（すなわち保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者や地域住民に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援）について、その特性と具体的な展開を学ぶ。また、保育士の行う子育て支援（保育相談支援）について、実践的な事例等の検討を通して具体的に学ぶ。

授業の到達目標

①知識の獲得・構築

- ・保育士による子育て支援が必要とされる、今日の子どもとその家族を取り巻く社会の状況について整理することができる。
- ・保護者による子どもの虐待の「リスク要因」（保護者側のリスク要因、子ども側のリスク要因、養育環境のリスク要因）を説明することができる。

②技能・スキル形成

- ・子育て支援の展開過程を理解し、各段階における留意点をふまえて実践するための基礎力を身につけることができる。
- ・子育て支援を展開するにあたっての、保護者との適切な関係構築力を身につけることができる。あわせて、保育士となる学生自身が自己理解を深めることができる。
- ・保護者が抱えている子育ての課題に対して、「4つの視点」（子ども自身の特徴、保護者自身の特徴、親子関係の特徴、地域社会との関係）からのアセスメントができる
- ・プランニングの段階における「個別化の原則」と「自己決定の原則」を説明することができる

③理念・理解の形成

- ・子どもの権利ならびに保育士の専門性に関する理解を深め、保育者としての子育て支援の実践における基本的な考え方を身につけることができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ②、DPⅡ④

授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技、実習、課題

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回 (石山)	・授業ガイダンス（担当教員の分担箇所、評価方法等の明示） ・保育士の行う子育て支援の意義（教科書 18～28 ページ）	事前学習：シラバスの内容を確認し、左欄に示したテキストの該当ページを熟読する（34分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（33分）	E
第2回 (石山)	・子どもの権利と子育て支援（教科書 30～40 ページ）	事前学習：シラバスの内容を確認し、左欄に示したテキストの該当ページを熟読する（34分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（33分）	D・E
第3回 (石山)	・保育の専門性と子育て支援（教科書 42～50 ページ）	事前学習：シラバスの内容を確認し、左欄に示したテキストの該当ページを熟読する（34分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（33分）	E

第4回 (石山)	・子育て支援の展開過程 (教科書 54～65 ページ)	事前学習：シラバスの内容を確認し、左欄に示したテキストの該当ページを熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	E
第5回 (石山)	・子育て支援における計画・記録・評価 (教科書 70～84 ページ)	事前学習：シラバスの内容を確認し、左欄に示したテキストの該当ページを熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	E
第6回 (石山)	・保護者との信頼関係の構築 (教科書 88～99 ページ) ・保護者の理解と関わり方 (教科書 102～117 ページ)	事前学習：シラバスの内容を確認し、左欄に示したテキストの該当ページを熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	D・E
第7回 (トムソン)	テーマ：子育て支援の展開過程 ① 問題の把握 (ケースの発見) ⇒ 教科書、58～59、146～151 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	D
第8回 (トムソン)	テーマ：子育て支援の展開過程 ② インテーク (受理面接) ⇒ 教科書、58～59、95～99 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	D
第9回 (トムソン)	テーマ：子育て支援の展開過程 ③ アセスメント (事前評価) ⇒ 教科書、58～59、74～81 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	D
第10回 (トムソン)	テーマ：子育て支援の展開過程 ④ プランニング (支援計画作成) ⇒ 教科書、58～59、120～123 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	D
第11回 (トムソン)	テーマ：育児不安になった保護者 事例：育児不安になった保護者への支援 ⇒ 教科書、178～184 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	D
第12回 (トムソン)	テーマ：ひとり親家庭への子育て支援 事例：離婚後、2人の子どもを育てるひとり親家庭 ⇒ 教科書、153～155 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	D
第13回 (トムソン)	テーマ：障害のある子どもを育てる保護者 事例：子どもの園での様子を受け入れられない母親 ⇒ 教科書、155～159 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する (34分)	D

		事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	
第14回 (トムソン)	テーマ：親が障害を抱えている子ども 事例：コーダ (CODA) の子どもたち ⇒ 教科書、155～157 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する (34分) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (33分)	D
テキスト ・小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集『演習・保育と子育て支援』みらい、2019年 その他、毎回の授業でプリントや資料等を配付する。			
参考書・参考資料等 ・才村純ほか編著『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房、2019年 ・吉田真理『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』萌文書林、2019年 ・佐藤寛之他編著『保育・教職実践演習ー子どもによりそう保育とその学びの総合性ー（第2版）改定』横浜女子短期大学、2022年			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 理解度を確認するための演習課題等については、可能な限り授業内でフィードバックします。			
学生に対する評価 授業内課題（40%）、レポート試験（授業前半・後半で各1回）（40%）、授業への参加度（20%）により総合的に評価する。			
実務経験			
実務経験を活かした教育内容			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
社会的養護Ⅰ (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 後期		岡本 眞幸 スティーヴン・トムソン
授業の概要						
現代社会では、親や家庭環境の問題により家族と生活していない子どもたちがいる。これらの子どもたちは施設養護や家庭養護などの社会的養護を受けている。社会的養護の歴史、社会的養護の仕組み（制度）、社会的養護の実施体系、社会的養護の理念、施設養護の原理、子どもの保護理由、保育士や児童指導員による支援、子どもの権利擁護、自立支援などについて学ぶ。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築：（基礎的知識の獲得目標） ・社会的養護とは何かを説明できる ・社会的養護のあゆみ（歴史）の大筋を説明できる ・児童相談所における養護相談の受け入れから子どもの施設措置・里親委託までの流れを説明できる ・社会的養護を担う施設（乳児院、児童養護施設など）の役割と機能を説明できる ・社会的養護における里親と特別養子縁組についての基本的事項の大筋を説明できる						
③ 理念・理解・探究：（包括的な実践的知形成のための習得目標） ・社会的養護の理念である「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」の意味を説明できる ・社会的養護の基本理念である「家庭的養護と個別化」、「発達の保障と自立支援」、「回復をめざした支援」、「家族との連携・協働」を説明できる						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画【AL】D：ディスカッション、GW：グループワーク、P：プレゼンテーション、F：フィールドワーク、E：実技、実習、課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	ガイダンス 授業ガイダンス、社会的養護の現代的課題 ⇒ 教科書、1～5 ページ	事前学習：シラバスの内容を確認し、今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）				D
第2回	社会的養護の歩み ① 明治期以前の子どもの養護、明治期の子どもの養護、大正・昭和期の社会的養護 ⇒ 教科書、15～23 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）				D
第3回	社会的養護の歩み ② 第2次世界大戦後の社会的養護、ホスピタリズム論争 ⇒ 教科書、23～28 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）				D
第4回	社会的養護の基本的な考え方 社会的養護の基本理念、社会的養護の基本原則 ⇒ 教科書、5～6、35～40 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（134分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（133分）				D

第5回	社会的養護の仕組み ⇒ 教科書、47～52 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
第6回	社会的養護の法律・実施体系 社会的養護の法体系、社会的養護の実施体系 ⇒ 教科書、52～67 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
第7回	社会的養護の対象と求められる環境 社会的養護の対象、社会的養護に求められる生活環境 ⇒ 教科書、69～78 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
第8回 ㊦	前半授業の総括 第1～7回目の学習内容の振り返り・確認 (小試験を行い、内容の解説を行う)	事前学習: 第1～7回目のプリントを見直し、理解できていない内容を教科書などで確認する (134 分) 事後学習: 配られたプリントを熟読する (133 分)	D
第9回	後半授業の案内 / 社会的養護の動向確認 社会的養護を担う施設の役割と機能 ① (社会的養護を担う主な施設の概要) (乳児院) ⇒ 教科書、79～91 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
第10回	社会的養護を担う施設の役割と機能 ② (児童養護施設) ⇒ 教科書、91～103 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
第11回	社会的養護を担う施設の役割と機能 ③ (母子生活支援施設) ⇒ 教科書、103～112 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
第12回	家庭養護を担う機能・制度 (里親とファミリーホーム、社会的養護から見る養子制度) ⇒ 教科書、163～177 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
第13回	社会的養護を担う人々 (社会的養護に関わる専門職、専門職の倫理と責務) ⇒ 教科書、179～189 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
第14回 ㊦	児童福祉施設の運営管理 (施設運営の基本理念、設備運営基準、施設の設置主体、利用方式、財源) ⇒ 教科書、191～196 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (134 分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (133 分)	D
テキスト			
小川恭子・坂本健編集『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 実践に活かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ			
参考書・参考資料等			
授業中で紹介する。			

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・理解度を確認するための小テストについては、授業中に返却し、説明・解説を行う
- ・前半・後半の試験については、必要に応じて個別的にフィードバックと指導を行う

学生に対する評価

授業学習に取り組む姿勢・態度（20%） 小試験（40%） 期末試験（40%）の総評価

実務経験

岡本 眞幸：児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援業務等）、児童養護施設の第三者委員会委員

スティーヴン・トムソン：児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）、児童養護施設アドバイザー、児童養護施設の第三者委員会委員。

実務経験を活かした教育内容

岡本 眞幸：提示し検討する事例の中に、実務経験を活かした体験的事例も含める。

スティーヴン・トムソン：授業では、内容をより理解できるように随時施設の子どもが抱えている課題や職員の支援活動の具体的な事例を紹介する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
社会的養護Ⅱ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2 学年 前期		スティーヴン・トムソン
授業の概要						
社会的養護の授業では、社会的養護の施設体系、施設養護、家庭的養護などを入門的に取り上げた。この授業では、社会的養護を必要としている子どもやその保護者の視点やニーズを基に行われる支援について学ぶ。特にアドミッションケアからアフターケアの一連の援助過程で行われる個別支援について理解を深める。様々な事例(ケース)を検討し、子ども・保護者の視点、個別援助、子どもの権利擁護、保育士に求められている倫理観などを学ぶ。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築：(形式的知・基礎的知識の獲得目標)						
・アドミッションケアからアフターケアの一連の援助過程を説明できる						
・小規模グループケアやグループホームのメリットや意義を説明できる						
・施設養護における保育者の里親・ファミリーホーム支援を説明できる						
② 技能・スキル形成：(実践的知の獲得目標)						
・児童養護施設でのインケアの具体的な内容を説明できる						
・心的トラウマを抱えている子どもの感情爆発の発展過程とその支援方法を説明できる						
・施設養護における子どもの権利擁護の具体的な内容を説明できる						
ディプロマポリシーとの関連						
D P Ⅱ②, D P Ⅱ④						
授業計画【AL】 D：ディスカッション、GW：グループワーク、P：プレゼンテーション、F：フィールドワーク、E：実技、実習、課題						
回数	内容・方法			事前(準備)・事後学習の内容		AL
第1回	ガイダンス 社会的養護の形態、社会的養護の援助課程 (アドミッションケアからアフターケア) ⇒ プリントを配布する			事前学習：シラバスの内容を確認し、社会的養護Ⅰのテキストの57～66ページを復習する(34分) 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す(33分)		D
第2回	子どもの一時保護 子どもの一時保護、保護された兄弟の事例 ⇒ プリントを配布する			事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する(34分) 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す(33分)		D
第3回	アドミッションケア ①(児童相談所) 児童相談所が行うアドミッションケア、施設入所が検討されている子どもの事例 ⇒ プリントを配布する			事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する(34分) 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す(33分)		D
第4回	アドミッションケア ②(施設) 施設が行う入所する子どもへの支援、施設入所する子どもの支援内容の検討 ⇒ プリントを配布する			事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する(34分) 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す(33分)		D

第5回	インケア（施設環境） 施設養護の養護環境、小規模グループケアの事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第6回	インケア（子どもの行動上の問題） 施設における治療的養育、子どもの感情的爆発 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第7回 ㊦	インケア（親子関係の調整） 施設における親子調整、親子の面会の事例 ⇒ プリントを配布する ⇒ 課題①提出	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第8回	インケア（子どもの自立支援） 子どもの自立支援、自立支援計画の内容 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第9回	リービングケア（子どもの退所支援） 子どものリービングケア（退所支援）の内容 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第10回	アフターケア アフターケアの必要性、アフターケアの内容 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第11回	家庭養護 家庭養護（里親、ファミリーホーム）、週末里親、家庭養護の事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第12回	子どもの権利擁護 子どもの権利養育、苦情解決、職員の専門性、施設内虐待の事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第13回	保育者の疲労・ストレス 保育者の「共感的疲労」、不規則な勤務、「燃え尽き症候群」、「燃え尽き症候群」の事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
第14回	児童養護施設職員に求められる倫理 全国児童養護施設協議会倫理綱領など ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（34分） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（33分）	D
テキスト 指定しない。プリントなどを授業で配布。			

参考書・参考資料等

小川恭子・坂本健編集『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 実践に活かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ
櫻井 奈津子（編）「社会的養護の実践：保育士のための演習ワークブック」青踏社
河合高鋭・石山直樹 編集『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・事例検討課題や課題 ① については、授業時間内で講評等フィードバックを行う
- ・課題 ② について、について、必要に応じて個別的にフィードバックと指導を行う

学生に対する評価

授業学習に取り組む姿勢・態度（20％） 課題 ①（40％） 課題 ②（40％）の総評価

実務経験

スティーヴン・トムソン：児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）、児童養護施設アドバイザー、児童養護施設の第三者委員会委員。

実務経験を活かした教育内容

スティーヴン・トムソン：授業では、内容をより理解できるように随時施設の子どもが抱えている課題や職員の支援活動の具体的な事例を紹介する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの保健 (専門教育科目)	選択	本学 指定	必修	開講期：1学年 前期		田中 文子
授業の概要 保健学的・医学的な視点から保育を学ぶ授業である。子どもの保健の意義、身体発育、運動機能・精神機能の発達、健康状態の把握方法、児童虐待などの保健分野から、感染症と予防接種、アレルギー、口・菌の病気、先天異常、身体各臓器の病気、発達障害など保育者として最低限知っておきたい小児期の疾病まで概説する。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築：胎児期より青年期に至るまでの子どもの身体発育、運動機能、精神機能の発達の概略を知る。						
② 技能・スキル形成：子どもによく見られる病気の症状、病態を学び、その予防と保育施設での適切な対応方法がとれるようにGWにてロールプレイを行う。						
③ 理念・理解・探究：子どもの成長・発達に影響を与える環境因子や虐待などを理解し、健やかな成長・発達に必要な保育の視点について理解する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	子どもの保健の意義と目的 健康の概念と健康指標 ※授業ごとに小テストを行い、次の授業時に解説する	事前：テキスト2～12、112～117ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（134分） 事後：授業内容を復習し、「子どもの保健」の意義と目的について、また子どもの健康指標の最新データを確認して要点をまとめる（133分）				
第2回	地域における保健活動 子ども虐待の防止 GW：保育の場で、どんな所見の場合に虐待を疑い、どう行動するか話し合う	事前：テキスト13～20、98～106ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（134分） 事後：授業内容を復習し、健やか親子21（第2次）と子ども虐待について理解を深め、要点をまとめる（133分）				GW
第3回	身体発育および運動機能の発達	事前：テキスト24～36ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（134分） 事後：授業内容を復習し、出生から青年期までの身体発育と運動発達について理解を深め、要点を整理する（133分）				
第4回 ○	生理機能の発達 精神機能の発達	事前：テキスト37～44ページおよび参考書36～38ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（134分） 事後：授業内容を復習し、小児期の生理機能発育と精神発達について理解を深め、要点を整理する E課題：子どもの身体発育・運動機能・生理機能・精神機能などの発達について一つを選びレポートを作成する（133分）				E
第5回	子どもの心身の健康状態とその把握 子どもに多い症状 GW：授業の後半に、急ぐ必要のある症状・所見につき話し合う	事前：テキスト46～64ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（134分） 事後：健康状態の評価方法、主な症状と病気との関係を理解し、症状が出現した場合の対応の要点を整理する（133分）				GW
第6回	感染症	事前：テキスト66～71ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（67分） 事後：授業内容を復習し、子どもに多い感染症の理解を深め、要点を整理する（200分）				
第7回	予防接種 GW：感染症あるいは予防接種についてグループごとに1つ次の授業時に発表する内容を決める	事前：参考書の該当ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（67分） 事後：授業内容を復習し、最新の予防接種に関する情報を公的機関のホームページ等で調べ、要点を整理する（200分）				

第8回	P: 感染症・予防接種に関する発表 授業: 口と歯の健康	事前: 第7回のGWのまとめをしておく テキスト76～81ページを熟読し、不明な点を明確にしておく (134分) 事後: 授業内容を復習し、年齢毎の歯の発育状況、う歯(むし歯)予防について理解し、要点を整理する (133分)	P
第9回	A: レルギーの病気 E: 実技 エピペンの使い方	事前: テキスト72～75ページを熟読し、不明な点を明確にしておく (134分) 事後: 授業内容を復習し、小児期に代表的なアレルギー性疾患への理解を深め、要点を整理する (133分)	E
第10回	先天性疾患	事前: テキスト82～83ページを熟読し、不明な点を明確にしておく (67分) 事後: 授業内容を復習し、先天異常の種類、日常生活における対応について理解を深め、要点をまとめる (200分)	
第11回	循環器、呼吸器、消化器の病気	事前: テキスト84～87ページを熟読し、不明な点を明確にしておく (67分) 事後: 授業内容を復習し、各臓器・器官の小児期の主な病気について理解を深め、要点を整理する (200分)	
第12回	脳・神経、運動器、血液の病気	事前: テキスト88、90、93、95ページを熟読し、不明な点を明確にしておく (67分) 事後: 授業内容を復習し、各臓器・器官の小児期の主な病気について理解を深め、要点を整理する (200分)	
第13回	皮膚、泌尿器、眼、鼻、耳の病気	事前: テキスト89、91～92ページを熟読し、不明な点を明確にしておく (67分) 事後: 授業内容を復習し、各臓器・器官の小児期の主な病気について理解を深め、要点を整理する (200分)	
第14回	心の病気(心身症など) 発達障害 GW: 第10-14回の中で印象に残った疾患についてディスカッションする	事前: テキスト93～94ページ、参考書の該当ページを熟読し、不明な点を明確にしておく (67分) 事後: 授業内容を復習し、心身症、発達障害について理解を深め、要点をまとめる (200分)	GW
テキスト 遠藤郁夫・三宅捷太編集 『子どもの保健』 学建書院			
参考書・参考資料等 高内正子編著 『子どもの保健と安全』 教育情報出版 また、授業で用いるパワーポイントの内容を資料として配付する。			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 理解度確認のためのレポートは、評価終了後、授業時に解説を行ったうえで返却する。			
学生に対する評価 14回の授業の後に前期末筆記試験を行う。 積極的に授業、課題に取り組む姿勢(20%)と前期末筆記試験点数(80%)の総合評価でおこなう。 授業中は私語、居眠り、スマホの操作等は行ってはならず、行った場合は評価に影響する。			
実務経験 長年、小児科診療に従事し、日本専門医機構認定小児科専門医の資格を有する小児科医師。			
実務経験を活かした教育内容 成長発育上の問題、健康被害や病気について、実際の事例・症例を元に解説する。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの健康と安全 (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2 学年 前期		渡邊 悦子
授業の概要 母子保健から小児保健への流れと地域保健、及び対象に必要な保健的な援助について理解する。 子どもの健康及び安全にかかわる保健活動を計画し、その実践と評価について理解する。 保育における感染症対策、アレルギー対応、事故防止及び事故発生時の対応や安全施策について、子どもの発達や状態に則した適切な対応について理解する。救急法は、心肺蘇生、窒息解除を人形で実施できる。						
授業の到達目標 ①保育における保健的観点をふまえた保育環境や援助、衛生管理、事故防止、危機管理及び安全対策について理解できる。②③子どもの体調不良、感染症対策について学び保健的な対応を理解し一部実施できる。子どもの健康及び安全管理に関わる組織的な取り組みや、保健活動の計画・実施・評価について学び、一部の計画を立案し実施できる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート、GW：グループワーク、P：プレゼンテーション、F：フィールドワーク、E：実技、実習、課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	オリエンテーション、母子保健から小児保健、保育所保育指針の養護「生命の保持」について	事前事後：授業の概要や計画を把握し学習内容を確認する(各35分)				E
第2回	子どもの健康と安全 第10章保健的観点をふまえた保育環境と援助	事前：テキストP116-121を読み不明な点を明確にしておく(30分) 事後：授業内容の復習(40分)				E
第3回	第11章保育における健康と安全の管理 1節子どもの衛生管理 2節子どもの事故防止と安全対策	事前：テキストP122-126を読み不明な点を明確にしておく(30分) 事後：授業内容の復習(40分)				GW E
第4回	第11章保育における健康と安全の管理 3節子どもの危機管理と災害への備え 第12章子どもの体調不良・けがと応急手当 1節子どもの体調不良・けがと応急手当 1子どもの体調不良	事前：テキストP127-129を読み不明な点を明確にしておく(30分) 事後：授業内容の復習(40分)				E
第5回	第12章子どもの体調不良・けがと応急手当 1節1子どもの体調不良 2子どものけがと応急手当	事前：テキストP129・130を読み不明な点を明確にしておく(30分) 事後：授業内容の復習(40分)				E
第6回	第12章子どもの体調不良・けがと応急手当 1節1子どもの体調不良 2子どものけがと応急手当	事前：テキストP130・131を読み不明な点を明確にしておく(30分) 事後：授業内容の復習(40分)				E
第7回	第13章子どもの保健と感染症ガイドライン	事前：テキストP135-140を読み不明な点を明確にしておく(30分) 事後：授業内容の復習(40分)				E
第8回	応急手当と心肺蘇生法 (『子どもの事故と応急手当』のテキスト使用)	事前：観察と接触、気道確保と回復体位、心肺蘇生の部分を読んでもくる(30分) 事後：実践を振り返り、方法・手順等を再確認する(40分)				E E
第9回	応急手当と心肺蘇生法 (『子どもの事故と応急手当』のテキスト使用)	事前：観察と接触、気道確保と回復体位、心肺蘇生の部分を読んでもくる(30分) 事後：実践を振り返り、方法・手順等を再確認する(40分)				E E

第 10 回	第 14 章個別の配慮を要する子どもへの対応	事前:テキスト P141-152 を読み不明な点を明確にしておく(30 分) 事後:授業内容の復習(40 分)	D
			E
第 11 回	第 15 章子どもと保健指導 感染症予防・事故防止等、保健指導計画立案、保健便り作成	事前:テキスト P153-159 取り上げたいテーマ及び内容を考えてくる(40 分) 事後:保健便りの検討(30 分)	E
			E
第 12 回	感染症予防・事故防止等、保健指導計画立案、保健便り作成	事前:取り組んでいる内容を確認し不足分を明確する(30 分) 事後:計画と保健便りを完成させる(40 分)	E
			E
第 13 回	感染症予防、事故防止等に関する保健指導の発表	事前:保健指導の発表できるよう指導案の確認と保健便りを完成させる(50 分) 事後:発表の振り返り(20 分)	P
			P E
第 14 回	第 16 章子どもの健康と安全管理の実施体制	事前:テキスト P160-168 ここまでの講義振り返り、不明な点を明確にする(50 分) 事後:講義の振り返り(20 分)	E
テキスト ・高内昌子編 『子どもの健康と安全』 教育情報出版 ・吉田一心・伊東和雄 『子どもの事故と応急手当』 マスターワークス			
参考書・参考資料等 ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン ・保育所における感染症対策ガイドライン ・教育・保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン ・事故防止及び事故発生時マニュアルー基礎編ー ・必要時資料を配布する			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。 講義終了時に学びや感想を毎回記入し、それについて個別または全体に講評等フィードバックを行う			
学生に対する評価 ・授業・演習への参加度(60%)、授業内提出物(40%)			
実務経験 大学病院看護師・助産師			
実務経験を活かした教育内容 新生児集中治療室・小児外科・小児 HCU(High Care Unit)での小児看護の経験が、子どもの病気やケガへの対応についての学びに役立つと考えている。また助産師として母子保健に携わっていたため、母子保健から小児保健や地域保健への流れ等、具体的な事例を提示する			

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの食と栄養A (専門教育科目)	選択	本学 指定	必修	開講期：1学年 後期		五関 正江 中岡 加奈絵
授業の概要						
健康的な生活を営む上で欠かすことのできない「食」の観点から保育者として育児支援ができるよう、栄養素に関する基礎的な知識、子どもの食生活の現状と課題、子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活の意義と役割について講義する。そのうえで胎児期（妊娠期）から出生後の乳児期（乳汁期・離乳期）における栄養と食生活に関する講義を行い、理論と実践の両面から学べるよう調乳実習や離乳食実習も実施することで、母子栄養分野の知識ならびに技術の習得を目指す。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築：主要な栄養素の特徴、食事摂取基準の読み取り、妊娠前から妊娠期の食生活が胎児や乳児に及ぼす影響、子どもの食生活の現状と課題、子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活の意義と役割、母乳栄養や人工栄養の利点と留意点、離乳の必要性や離乳の進め方等に関する基本的知識を習得することができる。						
② 技能・スキル形成：人工乳の特徴や調乳の手順を理解し、正しく調乳することができる。母乳栄養を継続するポイントを理解し、授乳期の保護者に対する適切な支援内容を把握することができる。保育者として、離乳の必要性や離乳の進め方を理解し、離乳期の子どもならびにその保護者に対する食事支援に役立てることができる。						
③ 理念・理解・探究：母胎内にいるときの栄養状態や小児期の「食」が生涯にわたる健康と生活の基礎になることを理解している。乳児期の発育・発達と食生活について学ぶ中で、保育者としての関わり方を思い描き、「食」の観点からよりよい支援を行うことに対する強い探求心をもつことができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	オリエンテーション	1年前期に学んだ乳児の保育について復習した上で授業に臨む（67分）。				
第2回	栄養素に関する基本的知識	テキストの第2章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（67分）。				
第3回	食事摂取基準、献立作成と調理の基本	テキストの第3章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（67分）。				
第4回	胎児期（妊娠期）の栄養と食生活	テキストの第4章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（67分）。				
第5回	子どもの心身の健康と食生活、 子どもの食生活の現状と課題	テキストの第1章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（67分）。				
第6回	乳汁期の栄養と食生活① 母乳栄養	テキストの第5章の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（67分）。				

第7回	乳汁期の栄養と食生活② 人工栄養・混合栄養	テキストの第5章の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(67分)。	
第8回	乳汁栄養の実際 調乳実習	人工栄養についての理解を深める。また、無菌操作法による調乳の流れを確認し、実践できるようポイントを整理しておく(67分)。	E
第9回	離乳期の栄養と食生活	テキストの第5章の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(67分)。	
第10回	離乳期の食事の実際① 離乳食実習 (初期)	離乳初期の子どもの発達と離乳食の支援のポイントについて確認しておく。インターネットを用いて離乳完了期に多い悩みとその対処法について調べまとめる(67分)。	E
第11回	離乳期の食事の実際② 離乳食実習 (中期)	離乳中期の子どもの発達と離乳食の支援のポイントについて確認しておく。インターネットを用いて離乳完了期に多い悩みとその対処法について調べまとめる(67分)。	E
第12回	離乳期の食事の実際③ 離乳食実習 (後期)	離乳後期の子どもの発達と離乳食の支援のポイントについて確認しておく。インターネットを用いて離乳完了期に多い悩みとその対処法について調べまとめる(67分)。	E
第13回	離乳期の食事の実際④ 離乳食実習 (完了期)	離乳完了期の子どもの発達と離乳食の支援のポイントについて確認しておく。インターネットを用いて離乳完了期に多い悩みとその対処法について調べまとめる(67分)。	E
第14回 ⑦	まとめ：後期授業内小テスト(筆記)の実施と解説	試験に備え、全ての授業回で扱った内容について復習し、知識を定着させる(1時間)。	
テキスト 太田百合子、堤ちはる編著 『子どもの食と栄養 第3版～保育現場で活かせる食の基本』 羊土社 参考書・参考資料等 授業内で提示 課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 理解度を確認するためのミニテストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 実習時に作成するレポートについては、添削したうえで翌週以降の授業期間中に返却する。 学生に対する評価 授業学習に積極的に取り組む姿勢・態度(20%)、レポート(20%)、筆記試験(60%)の総合評価を行う。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの食と栄養B (専門教育科目)	必修		必修	開講期： 2学年 前期		中岡 加奈絵 五関 正江
授業の概要						
多様化する育児支援のニーズに「食」の観点から適切に対応できる実践力を理論と実践から養うことを目指し、子どもの発育・発達と食生活の特徴や留意点、保育所等の児童福祉施設の給食の意義、食育の基本と内容、食物アレルギー等の特別な配慮を要する子どもへの対応等、小児栄養学に関する内容について重点的に講義し、調理実習、制作やプレゼンテーションを実施する。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築：幼児期以降の子どもの心身の発達と食生活の特徴、体調不良、食物アレルギー、障がいのある子どもに対する食生活における対応、家庭や児童福祉施設における食事提供や食育の推進、成人期における食生活上の課題に関する基本的知識を習得することができる。						
② 技能・スキル形成：児童福祉施設の給食の特徴ならびに給食時に保育者が果たす役割を理解することで、入所児ならびにその保護者に対する食事支援の把握・理解に役立てること、また、自身の実生活に応用することができる。食育の必要性や基本的な内容を理解し、食育実践や食育を意識した環境づくりに役立てることができる。						
③ 理念・理解・探究：幼児期に食を営む力の「基礎」を身につけることの重要性を理解している。幼児期の発育・発達と食生活について学ぶ中で、保育者としての関わり方を思い描き、「食」の観点からよりよい支援を行うことに対する強い探求心をもつことができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画表【AL】 D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL			
第1回	幼児期の心身の発達と食生活①	テキストの第6章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（67分）				
第2回	幼児期の心身の発達と食生活②	インターネットを用いて幼児期の食生活上の課題とその対処法について調べ、自身の考えを含めてまとめておく（67分）。				
第3回	幼児期の食事の実践① 望ましい間食の実習	幼児期の間食の意義についての理解を深める。間食の与え方について確認する（67分）。	E			
第4回	食育の基本と内容① 食育の推進施策	テキストの第9章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（67分）。				
第5回	食育の基本と内容② 食育実践の事例	インターネットを用い、保育・教育現場で実践されている食育事例を複数調べ、まとめておく（67分）。				
第6回	食育の実践① 食育発表会（前期授業内課題発表）	発表の準備をする（67分）。	P			
第7回	食育の実践② 食育発表会（前期授業内課題発表）	発表の準備をする（67分）。	P			

第8回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良や疾患、障がいへの対応	テキストの第11章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(67分)。	
第9回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーへの対応	テキストの第12章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(67分)。	
第10回	幼児期の食事の実践② 食物アレルギーに対応した間食の実習	食物アレルギーについての理解を深める。保育・教育施設と家庭における、食物アレルギーの対応の違いをまとめておく(67分)。	E
第11回	家庭や児童福祉施設における食と栄養	テキストの第10章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(67分)。	
第12回	学童期・思春期の心身の発達と食生活	テキストの第7章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(67分)。	
第13回	成人期・老年期の栄養と食生活	テキストの第8章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(67分)。	
第14回 ⑦	まとめ：前期授業内小テスト(筆記)の実施と解説	試験に備え、全ての授業回で扱った内容について復習し、知識を定着させる(67分)。	
テキスト 太田百合子、堤ちはる編著 『子どもの食と栄養 第3版～保育現場で活かせる食の基本』 羊土社			
参考書・参考資料等 授業内で提示			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 理解度を確保するためのミニテストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 実習時に作成するレポートについては、添削したうえで翌週以降の授業期間中に返却する。 食育発表会の内容については、授業時間内に講評を行う。			
学生に対する評価 授業学習に積極的に取り組む姿勢・態度(20%)、レポート(20%)、制作物(10%)、 筆記試験(50%)の総合評価を行う。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
乳児保育Ⅰ (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		石田 みどり 渡邊 悦子
授業の概要						
乳児保育の意義、乳児保育の行われる場の現状と課題、心身の発達について学び、3歳未満児の具体的な保育内容・運営体制などを理解する。 また乳児保育は、職員間、保護者、関係機関との連携のもとに行われる大切さを理解する。講義科目ですが、各教員の実務経験を活かし他授業内容も取り入れることで、学びを多面的に見ること、考えることの大切さを学び理解する。						
授業の到達目標						
①乳児保育の歴史、保育所保育指針に基づく理解、乳児の対象となる年齢の発達過程等、乳児保育に必要な基本的な知識と技術を習得できる。②3歳未満児の発達や乳児保育の基礎を学び、豊かな心根と確かな知識と技術をもった望ましい保育者の在り方を学び、理解することができるようになる。③乳児保育Ⅰ・Ⅱを通して、レポートをまとめ発表できることを目標にしています。乳児保育Ⅰでは、3歳児未満の発達についてレポートにまとめることができる。						
ディプロマポリシーとの関連 D P Ⅱ③						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技、実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	ガイダンス 乳児保育の実際（DVD）	事前：シラバスを読み、不明な点を明確にしておく（120分） 事後：当授業を振り返り、必要な教材（ノート・レポート用紙等）を準備しておく（150分）				E
第2回	乳児保育の基本的考え方 乳児保育の歩み 乳児保育の現状と課題	事前：テキストP1-12を読み内容を確認する（120分） 事後：配布された資料を通し、当学習内容を深め感想を記入しておく（150分）				E
第3回	乳児保育の基本① 保育の計画と乳児保育	事前：テキストP13-18を読み内容を確認する（120分） 事後：保育所保育指針解説書P89-181を読んでもおくこと（150分）				E
第4回	乳児保育の基本② 保育士の専門性と実践力	事前：テキストP19-42を読み内容を理解する（120分） 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる（150分）				E
第5回	乳児保育の基本③ 保育その専門性、子育て支援と関連機関との連携	事前：テキストP19-42を読み内容を理解する（120分） 事後：保育所保育指針解説書P329-344を読んでもおくこと（150分）				GW E
第6回	乳幼児期の心身の発達① 発達の理解（DVD）	事前：テキストP52-55まで読み内容を理解する（120分） 事後：授業内容の復習とDVD鑑賞後の感想を書き、次回提出する（150分）				E E
第7回	乳幼児期の心身の発達② 胎児からの育ち	事前：テキストP54を読み不明な点を明確にしておく（120分） 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる（150分）				GW E
第8回	乳幼児期の心身の発達③ 身体及び運動の発達	事前：テキストP56-60まで呼び内容を理解する（120分） 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる（150分）				E

第9回	乳幼児の心身の発達④ 認知の発達	事前：テキスト P61-70 まで読み内容を理解する(120分) 事後：徐行内容の復習をしてノートにまとめる(150分)	E
第10回	乳幼児の心身の発達⑤ 人間関係の発達	事前：テキスト P71-80 まで読み内容を理解する(120分) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(150分)	E
第11回	乳幼児の心身の発達⑥ 言葉とコミュニケーションの発達 自己意識の発達	事前：テキスト P81-95 まで読み内容を理解する(120分) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(150分)	E
第12回	乳児保育の実際① 0歳児の保育(中村愛児園の保育を通して)	事前：テキスト P43-51 まで呼び内容を理解する(120分) 事後：授業内容の復習とポイントを整理してノートにまとめる(150分)	E
第13回	乳児保育の実際② 1・2歳児の保育(中村愛児園の保育を通して)	事前：テキスト P43-51 まで呼び内容を理解する(120分) 事後：授業内容の復習とポイントを整理してノートにまとめる(150分)	E
第14回	乳児保育の実際③ 中村愛児園での体験学習(見学・観察実習)に向けての課題作成	事前：テキスト P43-51 まで呼び内容を理解する(120分) 事後：体験学習(見学・観察実習)の事前レポートを完成させる(150分)	GW P
テキスト ・社会福祉法人 Cha Cha Children & Co. 編 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』 萌文書林 ・必要に応じて授業内で資料を配布			
参考書・参考資料等 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・保育用語辞典 ・保育・教職実践演習 第2版第10の扉			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価 ・授業態度、参加度、課題の提出・提出レポート、授業に積極的に取り組む姿勢(50%) ・筆記試験の成績(50%) 課題・レポート及び試験等の総合評価			
実務経験 ・石田みどり(保育所現職園長・保育士) ・渡邊悦子(大学病院看護師・助産師)			
実務経験を活かした教育内容 ・講義の中に、実務経験を生かした内容を含める ・教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論、技術及び心根を、講義、演習の中に提示することで、多面的、主体的に考えられる授業を展開する			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
乳児保育Ⅱ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 1 学年 後期		石田 みどり 渡邊 悦子
授業の概要 乳児保育の意義を理解し、乳児保育に必要な知識を講義で学び、演習を通して基本的な技術について体験を通して学びます。保育所での体験学習(見学・観察実習)やレポート課題に取り組むことで、乳児保育の内容や乳児保育のべにおける乳児保育の現状や課題について考える。各教員の実務経験を活かした授業の中で、多面的に捉えることや他職種との連携の大切さも学びます。						
授業の到達目標 ①3歳未満児の発達や乳児保育の基礎を学び、豊かな心根と確かな知識と技術をもった望ましい保育者の在り方について知り、学びの一部を説明できる。②乳児保育に必要な基本的な知識を学び、人形等を用いて保育に必要な技術の実践ができる。③乳児保育Ⅰ・Ⅱを修了した時点で、自分で決めた乳児保育に関する課題についてレポート作成し発表できる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技、実習、課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
1回	中村愛児園での体験学習(見学・観察実習) 乳児保育の実際を学ぶ 夏季休暇中に実施	事前学習：自分の学びたい視点をまとめておく(40分) 事後学習：振り返り(30分)				E E
第2回	中村愛児園での体験学習(見学・観察実習) 乳児保育の実際を学ぶ 夏季休暇中に実施	事前学習：自分の学びたい視点をまとめておく(10分) 事後学習：園での学びを、まとめ発表できるようにしておく(60分)				E E GW
第3回	ガイダンス 保育園での体験学習(見学・観察実習)の振り返り、体験の共有及びまとめ	事前学習：園での学びを、まとめ発表できるようにしておく(50分) 事後学習：学びの振り返り(20分)				GW P
第4回	乳児保育の援助の実際①講義 講義予定 危機管理	事前：テキストのP175-178、184を読み演習内容を確認する(40分) 事後：学びの振り返り(30分)				GW D
第5回	乳児保育の実際② 授乳・食事介助、沐浴	事前：テキストのP181-190を読み演習内容を確認する(40分) 事後：学びの振り返り(30分)				E E
第6回	乳児保育の実際③ 授乳・食事介助、沐浴	事前：テキストのP181-190を読み演習内容を確認する(40分) 事後：学びの振り返り(30分)				E E
第7回	乳児保育の実際④ 授乳・食事介助、沐浴	事前：テキストのP181-190を読み演習内容を確認する(40分) 事後：学びの振り返り(30分)				E E
第8回	レポート課題の説明：テーマをみつけよう お手玉をつくってみよう	事前：お手玉作りの必要物品の準備、縫い方の予習(40分) 事後：学びの振り返り・完成させる(30分)				E E
第9回	乳児保育の実際⑤ お手玉、おもちゃで遊ぼう	事前：お手玉の遊び方、3歳までの子どものおもちゃについて調べてくる(60分) 事後：学びの振り返り(10分)				E E
第10回	乳児保育の実際⑥ おんぶ・抱っこ	事前：テキストのP143-144を読み演習内容を確認する(40分) 事後：学びの振り返り(30分)				E E

第 11 回	レポート作成	事前：取り上げたいテーマと理由を考えてくる(60分) 事後：学びの振り返り(10分)	E
			E
第 12 回	レポート作成	事前：レポートの内容を確認し、本日取り組む内容を明確にする(40分) 事後：レポートの見返し(30分)	E
			E
第 13 回	レポート発表	事前：発表できるよう準備してくる(50分) 事後：学びの振り返り(20分)	P
			P
第 14 回	レポート発表	事前：発表できるよう準備してくる(40分) 事後：学びの振り返り(30分)	P
			P
テキスト ・社会福祉法人 Cha Cha Children & Co 編 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌文書林			
参考書・参考資料等 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・保育用語辞典			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・授業態度、参加度、課題の提出棟、授業に取り組む姿勢(50%)・課題レポート(50%)の総合評価			
学生に対する評価 ・授業態度、参加度、課題の提出等、授業に積極的に取り組む姿勢(50%) ・課題レポートの評価(50%)			
実務経験 ・石田みどり(保育所現職園長・保育士) ・渡邊悦子(大学病院看護師・助産師)			
実務経験を活かした教育内容 ・講義の中に、実務経験を生かした内容を含める ・教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論、技術及び心根を、講義、演習の中に提示することで、多面的、主体的に考えられる授業を展開する			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育の心理学（発達） （専門教育科目）	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		佐藤 寛之
授業の概要						
乳幼児の心身の発達過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる知識、考え方を身につけ、理解する。具体的には、発達の定義、関連概念、発達の規定因、発達の方向性等、発達の特徴・特質、発達段階と発達課題の考え方について理解し、愛着と人間関係の発達、心身の機能と遊びの発達、言語、思考の発達、自我、自己概念の発達、社会性の発達、道徳性の発達について学ぶ。発達の個人差、多様性を理解する。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築：運動・言語・認知・社会性など、幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴、発達の標準的過程と個人差・多様性等に関する基本的知識を習得することができる。						
②技能・スキル形成：発幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴、発達の標準的過程と個人差等・多様性に関する基本的知識を、子ども一人一人の発達の様態の把握・理解に役立てることができる。						
③理念・理解・探究：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴、発達の標準的過程と個人差等・多様性に関する基本的知識を、子ども一人一人の発達の様態の把握・理解に役立てることができる。子ども達の発達を理解していくことに関して、強い探究心をもつことができる。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ③						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	発達とは① 発達の定義とその規定因（遺伝と環境の相互作用）、発達段階、生涯発達の考え方 「発達の定義、発達の特性、発達段階について理解する」 ※各回の授業は、原則的に、事前学習を前提に、事前（準備）・事後学習の内容欄に記載したテキスト、授業用の資料を使用して、事項等について解説をしていく形式で進める。毎回の授業時に、その授業内容のまとめ、事後学習と、次の学習事項に関する準備学習等について指示していくので、それに基づき、毎回、各自、事後学習・課題学習に取り組み、次の準備学習を行う。	初回の準備学習（134分以上）：周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、子どもの日々の変化、年齢によってできることの違いを観察しておく。発達とは何か、各自で調べておく。 事後学習（133分）：課題「テキスト①のp.3「まえがき」、第1章Pp.10-12「発達とは」、幼稚園教育要領解説（平成30年3月）序章Pp.13-17「(2)幼児期の発達」、第1回～第4回用資料の内、第1回用資料（発達の定義について）と授業内容に基づいて、発達の定義と発達の特性についてまとめる。」				E
第2回	発達とは② 発達の特徴・特質、ヒトの発達の特殊性・特殊性 「発達の規定因（遺伝と環境の相互作用）、発達初期におけるヒトの特殊性、初期経験が及ぼす影響について理解する」	準備学習（134分）：テキスト①の2章23～34ページ「遺伝と環境」と第1回～4回用配布資料の第2回目用資料を熟読しておく。 事後学習（133分）：課題①「発達に遺伝と環境がどのように影響するかをまとめる。」 課題②「初期経験の重要性という観点から発達初期におけるヒトの特殊性についてまとめる。」				E
第3回	発達の諸理論 発達理論の変遷、ピアジェ、ヴィゴツキーの発達説等、発達と成熟、レディネス、学習、文化との関係性、生涯にわたる発達の概観 「発達の諸理論と発達を理解するための用語を理解する」	準備学習（134分）：第1回～第4回用配布資料の内、第3・4回用資料を熟読しておく。 事後学習（133分）：課題「ピアジェの発達に関する基本的な考え方、ヴィゴツキーの発達に関する基本的な考え方をまとめる。」				E
第4回	発達課題、発達段階と発達課題；ハヴィガーストの考え、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論等、発達段階と発達課題、愛着と依存の違い、愛着と人間関係の発達 「ハヴィガーストの考え、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論、愛着と依存、愛着の形成・発達、応答性と相互作用、愛着の発達段階、初期経験と愛着の形成が発達全般に及ぼす影響について理解する」①	準備学習（134分）：テキスト①の2章「発達課題」の内の13～22ページと第1回～第4回用資料の内、第3・4回用資料を再度熟読しておく。 事後学習（133分）：課題「ハヴィガーストの発達課題の定義と成人前期にいたるまでの重要な発達課題についてまとめる。」				E

第5回 ①-1 配布	愛着と人間関係の発達 愛着と依存、愛着の形成・発達、応答性と相互作用、愛着の発達段階、初期経験と愛着の形成が発達全般に及ぼす影響 「ハヴィガーストの考え、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論、愛着と依存、愛着の形成・発達、応答性と相互作用、愛着の発達段階、初期経験と愛着の形成が発達全般に及ぼす影響について理解する」②	準備学習 (134 分) : テキスト①の3章「愛着と親子関係」のp.36～p.43と1章「発達課題」p.17を熟読しておく。また、第1回～第4回用資料の内、第3・4回用資料を再度読み直しておく。 事後学習 (133 分) : 課題「エリクソンのいう基本的信頼感の獲得形成とボウルビイの愛着の形成との循環的關係性についてまとめる。」	E
第6回	心身の機能と遊びの発達Ⅰ-1 心身の機能の発達 (概要チャート) 心身の機能発達の相互関連性 「乳幼児期の発達」「0歳から6歳 (乳児期、幼児期) の発達の概要を把握する」 心身の機能と遊びの発達Ⅰ-2 「身体運動機能の発達について理解する」	準備学習 (134 分) : テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解：表1「0歳から6歳の発達過程」と表2「身体運動機能」を基軸とした発達過程を熟読しておく。 事後学習 (133 分) : 課題「表1「0歳から6歳の発達過程を表1-1・表1-2に転記、理解し覚える。」また、「テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解：表2「身体運動機能」を基軸とした発達過程を表2-1・2-2に転記、理解し覚える。」	E
第7回 ①-1 提出	心身の機能と遊びの発達Ⅰ-3 人間関係の発達、自己概念の発達 自他の分化、名前の認識、性同一性、自尊心、社会的自己、自己主張と自己抑制の発達 「人間関係と自我・自己の発達について理解する」	準備学習 (134 分) : テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解：表3「人間関係」と「自我・自己」を基軸とした発達過程を熟読しておく。 事後学習 (133 分) : 課題「テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解：表3「人間関係」と「自我・自己」を基軸とした発達過程を、表3-1・3-2に転記、理解し覚える。」	E
第8回	心身の機能と遊びの発達Ⅰ-4 思考・知能の発達 表象能力の発達、操作的思考・知能の発達 「知覚、言語、思考等認知機能の発達について理解する」 青年期以降の発達課題 「子育てと成人期以降の発達との関係について理解する」	準備学習 (134 分) : テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解：表4「認知機能」を基軸とした発達過程を熟読しておく。 事後学習 (133 分) : 課題「テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解：表4を表4-1・4-2に転記、理解し覚える。」	E
第9回	心身の機能と遊びの発達Ⅱ-1 遊びの理論、遊びの特性、遊びの展開、社会的参加度と遊びの発達 「遊びの理論、遊びの価値、遊びの特性、遊びの展開、社会的参加度の遊びの発達について理解する」	準備学習 (134 分) : テキスト①の4章「遊びの発達」のPp.48-53を熟読しておく。 事後学習 (133 分) : 課題「テキスト①のPp.48-53の内容を内、遊びの理論、遊びの価値、遊びの特性についてまとめる。」	E
第10回	心身の機能と遊びの発達Ⅱ-2 遊びから課題活動の発達へ (乳児期) 感覚運動的遊びの発達 「興味の変化による遊びの発達」Ⅰ 「興味の変化 (動機づけ) と遊び、種々の能力 (心身の機能) の発達との関係性について理解する。遊びから課題活動へとつながる発達の流れを理解する」	準備学習 (134 分) : テキスト①の4章「遊びの発達」のp.54 (特に表4-6) に関する記述) を再読しておく。第10～12回用資料 (Pp.1-7)、第10～13回用資料 (p.8) 遊びの発達・発展 (発達図) を熟読しておく。 事後学習 (133 分) : 課題「乳児期における思考・知能と遊びの発達についてまとめる準備をする。」	E
第11回 ①-2 配布	心身の機能と遊びの発達Ⅱ-3 遊びから課題活動の発達へ (幼児前期、幼児後期) 機能遊び、象徴/見立て遊び、構成遊び、ごっこ遊びなど 「興味の変化による遊びの発達」Ⅱ 「興味の変化 (動機	準備学習 (134 分) : テキスト①の4章「遊びの発達」のp.54 (特に表4-6) と1章「発達課題」のp.19「自主性 幼児後期の発達課題」 (ごっこ遊びの発達に関する記	

	づけ)と遊び、種々の能力(心身の機能)の発達との関係性について理解する。遊びから課題活動へとつながる発達の流れを理解する」 遊びから課題活動の発達へ(幼児後期以降)	述)を再読しておく。第10～13回用資料(Pp.1-7)、第10～13回用資料(p.8)遊びの発達・発展(発達図)を再読しておく。 事後学習(133分):課題「幼児前期、幼児後期における遊びと課題活動の発達(機能遊び、象徴遊び、ごっこ遊び、構成遊び、忍耐遊び、競争遊びの発達)についてまとめを進める。」	E
第12回	心身の機能と遊びの発達Ⅱ-3 遊びから課題活動の発達へ(乳児期～幼児後期以降) 構成遊び、忍耐遊び、競争遊び、規則遊び、練習行動、自尊心の発達と課題意識の発達 「興味の変化による遊びの発達」Ⅱ「興味の変化(動機づけ)と遊び、種々の能力(心身の機能)の発達との関係性について理解する。遊びから課題活動へとつながる発達の流れを理解する」	準備学習(134分):テキスト①の4章「遊びの発達」のp.54(特に表4-6)と1章「発達課題」のp.19「自主性 幼児後期の発達課題」(ごっこ遊びの発達に関する記述)を再読しておく。第10～13回用資料(Pp.1-7)、第10～13回用資料(p.8)遊びの発達・発展(発達図)を再読しておく。 事後学習(133分):課題「乳児期～幼児期における遊びと課題活動の発達(機能遊び(破壊遊びも含まれる)「感覚運動遊び」、象徴遊び(虚構遊び/見立て遊び)、ごっこ遊び、構成遊び、忍耐遊び、競争遊び、課題意識・課題活動等の発達)についてその流れが理解できるようにまとめる。」	E
第13回 ①-2 提出 ①-3 配布	幼児期の発達の特徴 社会性、向社会性、規範意識の発達と諸機能の発達との関連性、視点取得能力の発達 「幼児期の発達の特徴と、ピアジェの「三つ山問題」を使った実験結果(教科書:個人で課題に取り組んだ場合)を理解する」	準備学習(134分):テキスト①の10章「ことばの発達」(特に、Pp.121-128)、11章「認知機能の発達」(特に、Pp.133-136)を熟読しておく。 事後学習(133分):課題「ピアジェ、ヴィゴツキーの発達観の差異を再考しつつ、幼児期の発達の特徴についてまとめる。」	E
第14回 ①-3 定められた期日までに提出	他者との関わりによる発達の促進現象 社会的・認知的葛藤(Socio-Cognitive Conflict)の影響 「社会的・認知的葛藤(Socio-Cognitive Conflict)の影響:視点取得能力の発達について、ピアジェの「三つ山問題」を使った実験結果(教科書:個人で課題に取り組んだ場合)とミニユイらの実験結果(第15回用資料:2人で協同して課題に取り組んだ場合)を比較することで、知的機能などの発達にどのような影響が生じる可能性があるのかを理解する」	準備学習(134分):テキスト①の10章「ことばの発達」(特に、p.121, p.128)、11章「認知機能の発達」(特に、p.133～p.135, p.136)を熟読し、第1回～第4回用配布資料の内、第2回用資料を再度読み直し、さらに、第15回用配布資料p.1～p.3を熟読しておく。 事後学習(133分):課題「視点取得能力の発達について、テキスト①P.136記載の「三つ山問題」を使った実験結果とミニユイらの実験結果を比較することで、子ども同士の関わり、集団活動が発達に及ぼす可能性について自分の考えも含めてまとめる。」	D E
テキスト ① 新井邦二郎 編著『図でわかる発達心理学』福村出版 ② 佐藤寛之他 編著『保育・教職実践演習—子どもによりそう保育とその学びの総合性—』(第2版改訂) 横浜女子短期大学 ※テキストの他に、説明用資料、学習教材、学習課題を授業内で配布。			
参考書・参考資料等 小田豊・森真理 編著『子どもの発達と文化のかかわり』光生館 文部科学省 編 『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 ※別途参考書を授業の中で紹介する。			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法(レポートは最終定期試験期間等の定められた期日までに提出) 授業で行う課題学習については、原則として、授業時間内で解説と講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(32%)と提出レポート3本(68%)の総合評価			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育の心理学（学習） （専門教育科目）	選択	必修	本学 指定	開講期：1学年 後期		佐藤 寛之
授業の概要						
本授業では、現代社会に対応した学習能力の育成という観点から、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、幼児理解の基礎としての観察、学習と知能の理論、適性処遇交互作用と教授学習理論、特にアクティブ・ラーニングとその基礎となる学習に関わる動機づけの概念、集団づくり、評価と、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築：学習に関する基礎的知識、特に動機づけに関する知識を習得することができる。						
②技能・スキル形成：学習に関する基礎的知識、特に動機づけに関する知識を、子どもの学習、発達支援に役立てることができる。						
③理念・理解・探究：子ども達の学習能力育成のために、学習に関する基礎的知識、特に動機づけに関する知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導・支援の基本的考え方を理解できる。子ども達の「主体的・対話的で深い学び」の実現について、強い探究心をもつことができる。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ③						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・デバート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	教育と心理学の関係性 教育心理学とは 教育心理学：発達と教育、学習の関係性 教育心理学の3つのとらえ方：①心理学の基礎研究を教育に応用するという考え方、②教育現象を研究する心理学という考え方、③心理学的見方を通して教育に貢献するという考え方 実用主義に根ざす心理学（教育に役立つという観点の重要性） 「心理学は、教育にどのように貢献してきたのか、どのように貢献できるのかについて理解する。」 ※各回の授業は、原則的に、事前学習を前提に、事前（準備）・事後学習の内容欄に記載したテキスト、授業用の資料を使用して、事項等について解説をしていく形式で進める。	初回の事前学習（134分以上）として、周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、1年次教育実習では、子どもの発達の様子・年齢による違いと、保育者の子どもへの関わり方を観察しておく。保育の心理学（発達）の内容を復習しておく。子どもに自信、意欲を持たせる関わり方について事前に調べ、自分なりに有効と思える方法を考えておく。 事後学習（133分）：課題「心理学は、教育にどのように貢献できるのかについてまとめる。」 ※毎回の授業時に、事後学習と、次回の学習事項に関する準備学習等について指示していくので、それに基づき、各自事後学習・課題学習に取り組み、次回の準備学習を行う。				E
第2回	学習理論：学習の基礎様式 学習の最適化について：一般的法則性と個人差 心理学の基礎研究の教育への応用例：プログラム学習の原理と現代教育学：Adaptive Learning；ICTの進化とプログラム学習 教育現場を研究した心理学の例：有意味受容学習	事前学習（134分）：テキストの第3章1.「知識を獲得し理解する」と、2.「新しい行動を形成し、自動化する」Pp.49-61を熟読しておく。 事後学習（133分）：課題「学習の基礎様式、プログラム学習の原理、ICTの進化と結びついたプログラム学習についてまとめる。」				E
第3回	さまざまな指導法を探る 一斉学習、バズ学習、オープン教育、発見学習、視聴覚教育、メディア教育、体験学習、アクティブ・ラーニング：問題解決技能の育成を図る主体的学習、アダプティブ・ラーニング	事前学習（134分）：テキストの第3章4.「さまざまな指導法を探る」のp.68～p.72を熟読しておく。 事後学習（133分）：課題「一斉学習、バズ学習、オープン教育、発見学習、視聴覚教育、メディア教育、体験学習、アクティブ・ラーニング、アダプティブ・ラーニングの特徴、長所、短所についてまとめる。」				E

第4回 ①-1 配布	適性処遇交互作用 (ATI) 処遇と個人の適性・特性の組み合わせがもたらす学習効果の差異 クローンバックのATI、サロモンのATIの3モデル分類：特惠モデル、治療モデル、補償モデル 「個に応じた目標を効果的に達成する、教育効果を最適化する、最大化するとはどういうことなのか。適性処遇交互作用について理解する。」	事前学習 (134分)：テキストの第3章5.「個に応じた目標を効果的に達成する」Pp. 77-81を熟読しておく。 事後学習 (133分)：課題「適性処遇交互作用 (ATI) についてまとめる。特に、サロモンのATIの3モデルのそれぞれが、目的とすること、最適化を図ろうとするものは何であるのかをまとめ、保育・幼児教育において活用すべきATIモデルを考察する。」	E
第5回	動機づけと学習① 欲求の階層説、動機づけの要因—外発的動機づけと内発的動機づけ、動機づけと学習過程の関係性、動機付けとしての自尊感情 (self-esteem) 社会的比較：物理的現実・真実と社会的現実・真実 期待効果=予言の自己成就/自己成就的予言、ピグマリオン効果とは何か	事前学習 (134分)：第6-8回用資料①「動機づけ (motivation)」(Pp. 1-6)、第6-8回用資料②「ピグマリオン効果」(Pp. 1-2)を熟読しておく。 事後学習 (133分)：課題「欲求の階層説、動機づけの要因—外発的動機づけと内発的動機づけ、動機づけと学習過程の関係性、動機付けとしての自尊感情、社会的比較、物理的現実と社会的真実についてまとめる。」	E
第6回 ①-1 提出	動機づけと学習② 期待がもたらす効果について、「期待効果」とは何か、「ピグマリオン効果」とは何か、「教室におけるピグマリオン効果 (教師期待効果)」について 教室場面におけるピグマリオン効果の関する実演、実験：①偏見の形成の実演：負の期待の自己成就/社会的現実・真実の構成	事前学習 (134分)：第6-8回用資料①(Pp. 1-6)、第6-8回用資料②(Pp. 1-2)を熟読しておく。 事後学習 (133分)：課題「期待効果」とは何か、「ピグマリオン効果」とは何か、「教室におけるピグマリオン効果 (教師期待効果)」について、期待の自己成就をもたらす媒介的要因と子どもの自己認知の変化の過程についてまとめ、保育の際に「期待」がもたらす効果・影響、注意点を考察する。」	E
第7回 ①-2 配布	動機づけと学習③ 動機付けと期待 教室場面におけるピグマリオン効果の関する実演、実験：正の期待の自己成就/②教師期待効果、③ジグソー学習 ピグマリオン効果、教師期待効果において期待が自己成就する媒介的要因の影響と自己認知の変容のプロセスについて 一般的期待と個別的期待、保育・教育における期待の影響、子どもに対する期待	事前学習 (134分)：第6-8回用資料①(Pp. 1-6)、第6-8回用資料②(Pp. 1-2)を熟読しておく。 事後学習 (133分)：課題「期待効果」とは何か、「ピグマリオン効果」とは何か、「教室におけるピグマリオン効果 (教師期待効果)」について、期待の自己成就をもたらす媒介的要因と子どもの自己認知の変化の過程、子どもと接するときに「期待」を持つことの効果・影響、注意点をまとめる。」	E
第8回	動機付けと学習④ 達成動機づけ—成功追求動機と失敗回避動機、自己決定理論、学習の統制感 帰属とは何か：ハイダー (1954, 1958) の原因帰属の考え方：素朴心理学者としての人、レビンの公式と原因帰属 原因帰属の歪み：基本的帰属錯誤とは、原因帰属と自尊維持・高揚バイアス/自己奉仕バイアス：自尊感情と原因帰属の関連性、観察者と行為者での原因帰属の差異 (視点と原因帰属)、保育者として心がけるべき点とは ロッター (1966) の統制 (原因) の位置 (locus of control)	事前学習 (134分)：第9-12回用資料「帰属過程」(Pp. 1-6)、テキスト第3章3.「学ぶ行動を動機づけ、意欲を高める」Pp. 63-68の内、「(2) 成功・失敗の原因帰属と学習意欲の関係」、「(3) 学習意欲を高める工夫」の節を熟読しておく。 事後学習 (133分)：課題「原因帰属、原因帰属の歪みについてまとめ、視点の違いと自尊感情の影響を踏まえて、保育者としてどのようなことを心がけて子どもの言動を捉え、関わる必要がまとめる。」	E
第9回 ①-2 提出	動機付けと学習⑤-1 帰属と動機づけ—ワイナーの原因帰属の2次元、3次元モデル (1972, 1979)	事前学習 (134分)：第9-11回用資料「帰属過程」(Pp. 1-6)、テキストPp. 63-68の「(2) 成功・失敗の原因帰属と学習意欲の	

	統制（原因）の位置、原因の安定性、原因の統制可能性、原因帰属の仕方と感情の関係性	関係」、「(3)学習意欲を高める工夫」の節を熟読しておく。 事後学習（133分）：課題「①ワイナーの原因帰属の三次元モデルについて説明し、原因帰属の仕方によって生じる感情の違いをまとめる。」	E
第10回 ①-3 配布	動機づけと学習⑤-2 帰属と動機づけ—「学習された無力感」、原因帰属の誘導による「学習された無力感」の克服、自己効力感の育成 ②セリグマンの「学習された無力感」と「学習された楽観主義」、③無気力な状態から脱却させるためのドウエックの「帰属訓練」、バンデューラの「自己効力感」の考え方、④原因帰属の仕方を誘導することと、「自己効力感」を育てることのどちらが、子どもの意欲を育てるうえで重要なのか、⑤固定的能力と拡張的能力：暗黙の能力観の変容と内発的動機付け	事前学習（134分）：第9-11回用資料（Pp. 1-6）、テキストのPp. 63-68の「(2)」、「(3)」の節を再読、テキストのPp. 204-205を熟読しておく。 事後学習（133分）：課題「②セリグマンの「学習された無力感」、無気力な状態から脱却させるためのドウエックの「帰属訓練」、バンデューラの「自己効力感」についてまとめ、④最後に、②のように原因帰属の仕方を導くことと、③のように「自己効力感」を育てることのどちらが、子どもの意欲を育てるうえで重要だと思うか、テキストの記述内容を踏まえ、自分の考えをまとめる。」	E
第11回	保育内容を多重知能理論の枠組で捉え直してみる：コンピテンシー・ベイズ保育／教育のさらなる実現に向けて 知能・能力の諸理論：知能の三部理論と多重知能理論 多重知能＝独立的な8つの知能と発達個人差、能力のプロフィール：発達障害も、天才も含めた多様性、多重知能と脳、多重知能と専門職者 学習と評価 学習目標の設定とその評価方法について	事前学習（134分）：第12-14回用資料①「頭が良いとはどういうことか」、第12-14回用資料②「保育現場における科学的思考とその根拠に関する研究～5領域を超えて～」（Pp. 1-21）を熟読しておく。 事後学習（133分）：課題「多重知能理論、8つの多重知能の概要・特性、対応する専門職等についてまとめる。また、保育専門職者として育むべき、重要度の高い多重知能の組合せについて考察する。」 「学習の目標の設定とその評価方法についてまとめる。」	E
第12回 ①-3 提出	保育内容を多重知能理論の枠組で捉え直してみる：コンピテンシー・ベイズ保育／教育のさらなる実現に向けて ①コンピテンシー・ベイズ保育／教育とコンテンツ・ベイズ保育／教育の違い、②幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿：発達課題／コンピテンシー ③-1 保育内容5領域と8つの多重知能の発達・伸張の関係：多重知能の発達・伸張に関連する保育場面での遊びと対応する保育内容の5領域の例	事前学習（134分）：第12-14回用資料①、第12-14回用資料②（Pp. 1-21）、保育所保育指針の「育みたい資質・能力」（Pp. 60-61）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（Pp. 62-83）を再読しておく。 事後学習（133分）：課題「育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と多重知能の対応づけを授業・資料を参考にまとめる。」	E
第13回 ①-4 配布	カウンセリング・マインド：寄り添い発達成長を見守る教育・保育 カウンセリング・マインドとは：教師・保育者に求められる特質・条件、子どもの感情、考え、人格を尊重し、自己成長力を育む子どもとのかかわり方 カウンセリング・マインドの効用と対人的技能	事前学習（134分）：テキストの「来談者中心カウンセリング」Pp. 168-170と、「カウンセリング・マインド：教師と子どもの望ましい関係形成のために」Pp. 180-182の箇所を熟読しておく。 事後学習（133分）：「来談者中心カウンセリングの特徴と、日本でカウンセリング・マインドという呼び方で普及しているロジャース（1983）の教師・保育者に求められる3条件についてまとめる。」	E

第14回 ①-4 定められた期日までに提出	カウンセリング・マインド: 寄り添い発達成長を見守る教育・保育 保育に関する2つの心理学的アプローチについて 人間性心理学 (Humanistic Psychology) から見た望まれる教師・保育者像 まとめ	事前学習 (134 分): テキストの「来談者中心カウンセリング」Pp. 168-170 と、「カウンセリング・マインド: 教師と子どもの望ましい関係形成のために」Pp. 180-182 の箇所を再読しておく。 事後学習 (133 分): 「日本でカウンセリング・マインドという呼び方で普及しているロジャース (1983) の教師・保育者に求められる3条件についてまとめる。さらに、このカウンセリング・マインドがもたらす効用、カウンセリング・マインドの3条件を備えた教師・保育者の対人的技能の特徴をまとめ、保育者となるための自分自身の課題を明確にする。」	D E
テキスト 藤土圭三 監修『心理学からみた教育の世界』北大路書房 ※説明用資料、学習教材、学習課題を授業内で配布。			
参考書・参考資料等 厚生労働省 編 『保育所保育指針解説 (平成30年3月)』フレーベル館 渡部雅之・豊田弘司 著『教育心理学Ⅰ: 発達と学習』サイエンス社 ※別途参考書を授業の中で紹介する。			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 (①-4 は定期試験期間中の定められた期日までに提出) 授業で行う課題学習については、原則として、授業時間内で解説と講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度 (32%) と提出レポート4本 (68%) の総合評価			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子ども家庭支援の心理学 (専門教育科目)	選択		必修	開講期：2学年 前期		鈴木 淳子
授業の概要						
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。 2. 初期経験の重要性、発達課題、各時期の移行等について理解する。 3. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 4. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 5. 子どもと養育者の精神保健とその課題について理解する。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築：生涯発達に関する心理学における基礎的な知識（初期経験の重要性、発達課題、各時期の移行等）について理解する。 ② 技能・スキル形成：家族、家庭の意義や機能を理解し、子どもとその過程を包括的に捉え、支援に活かすスキルを形成する。 ③ 理念・理解・探究：現代の社会状況を理解し、子どもと養育者の精神保健とその課題について理解、探求する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ②, DPⅡ④						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート, GW：グループワーク, P：プレゼンテーション, F：フィールドワーク, E：実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				E
第1回 ①	授業オリエンテーション（授業方針等の説明） 発達Ⅰ	事前学習：事前にテキストの第1講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：事後学習：アタッチメントについて整理する（133分）				①
第2回 ①	発達Ⅱ：幼児期の発達	事前学習：事前にテキストの第2講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：ピアジェの認知発達理論について整理しておく（133分）				
第3回 ①	発達Ⅲ：学童期の発達	事前学習：事前にテキストの第3講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：幼保小中接続について、何が求められているのかを整理する（133分）				E ①
第4回 ①	発達Ⅳ：青年期の発達	事前学習：事前にテキストの第4講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：青年期に身体的発達、認知的発達、対人関係、親子関係の発達について整理する（133分）				①
第5回 ①	発達Ⅴ：成人期・中年期、老年期の発達	事前学習：事前にテキストの第5, 6講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：成人期及び老年期に関する課題を整理する（133分）。				E ①
第6回 ①	家族・家庭の意義と機能	事前学習：事前にテキストの第7講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：家族や家庭の歴史を整理し、現在の自分の家族について考察する（133分）。				E ①

第7回 ⑫	家族関係・親子関係の理解	事前学習：事前にテキストの第8項を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：家族関係や親子関係を支援していく為の理論や技法について整理する（133分）。	E ⑫
第8回 ⑫	子育て経験と親の育ち	事前学習：事前にテキストの第9講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：親の意識や心理を理解し、親としての育ち、悩みについて理解する（133分）。	E ⑫
第9回 ⑫	子育てを取り巻く社会的環境	事前学習：事前にテキストの第10講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：社会的状況を理解し、子どもをとりまく環境について整理する（133分）。	E ⑫
第10回 ⑫	ライフコースと仕事・子育て	事前学習：事前にテキストの第11講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：ライフコースの視点を活かした親理解、親支援について整理する（133分）。	E ⑫
第11回 ⑫	多様な家庭とその理解	事前学習：事前にテキストの第12講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：多様化している近年の過程のあり様を理解し、柔軟に支援できるように整理する（133分）。	E ⑫
第12回 ⑫	特別な配慮を要する家庭	事前学習：事前にテキストの第13講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：特別な教育的ニーズにはどんなことがあるのかについて整理する（133分）。	E ⑫
第13回 ⑫	子どもの生活・生育環境とその影響	事前学習：事前にテキストの第14講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：特殊な環境課でのそれぞれの支援の在り方について整理する（133分）。	E ⑫
第14回 ⑫	① 子どものこころの健康 ② 授業内前期期末小テスト（筆記・レポート）：第1回～13回までの授業内容の中から、選択問題およびレポート作成（2題） ※テキストの持ち込みは可とする。	事前学習：事前にテキストの第1～15講を熟読し、不明な点を明確にしておく（134分）。 事後学習：子どもや家庭を支援していく為に保育士に求められている専門的知識を整理する（講義全般から）。	E
テキスト 白川佳子・福丸由佳（編）公益財団法人児童育成協会（監）「子ども家庭支援の心理学」中央法規、2020年			
参考書・参考資料等 本郷一夫・神谷哲司（編著）「子ども家庭支援に心理学」建帛社、2019年、青木紀久代（編）「子ども家庭支援の心理学」みらい、2021年、他			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・授業中に課したレポート（毎回小レポートの提出あり）に対しては、次回授業時間においてフィードバックを行う。 ・課題等の内容は授業時間内での相互閲覧・共有を可能にし、講評を行う。			
学生に対する評価 レポート・定期試験 70%、授業参加 30%、提出物			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子ども理解と援助 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：1学年 後期		小林 聡子
授業の概要						
子どもの行為や表現する事柄にもとづいて子どもを理解する方法や保育者としての対応の仕方を具体的な事例を用いて学ぶ。また、記録をもとにした子ども理解の基礎的な方法と視点を学習する。さらに、子どもを取り巻く家庭・園・地域などの環境と子ども理解についての関連性について理解し、教育相談にて心理臨床に従事してきた担当教員と実際的な子どもの育ちと子育てを支援する方法について考えていく。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築：子どもを取り巻く環境および子どもの発達に関する知識を習得できる。 ②技能・スキル形成：保育における観察と記録の方法や子ども理解に関わるカウンセリングスキルを習得できる。 ③理念・理解・探究：子ども理解に関する基礎的知識や事例を用いたディスカッションを通し、子どもを共感的にみることや子どもを協働的にみることの意義を理解できる。また子どもの行動や心情を理解することに関して強い探求心をもつことができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画表【AL】 D：ディスカッション・デバート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	保育における「子ども理解」とは	事前学習：第一章を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）				D GW
第2回	子どもを取り巻く環境の理解① ブロンフェンブレンナーの生態学モデル、地域環境について	事前学習：第二章前半を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、課題を作成（133分）				D GW
第3回	子どもを取り巻く環境の理解② 子どもの貧困と虐待、乳児期	事前学習：第二章後半を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）				P GW
第4回	子ども理解における発達の観点① 子どもの発達 ピアジェ、エリクソンの発達理論	事前学習：第三章前半を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）				P GW
第5回	子ども理解における発達の観点② 各年齢の発達段階に対する理解	事前学習：第三章後半を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）				P GW
第6回	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド、アンガーマネジメント	事前学習：第四章を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、課題を作成（133分）				P GW
第7回	日本の子育て環境への理解	事前学習：日本の子育て環境についてニュースなど確認しておくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）				P GW

第8回	保育における観察と記録の実際 記録の方法を学ぶ	事前学習：第五章を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）	P
			GW
第9回	記録にもとづく保育カンファレンス	事前学習：第六章を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）	P
			GW
第10回	保育における個と集団の関係の理解と援助	事前学習：第七章を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）	P
			GW
第11回	一人一人の子どもの特性の理解と援助 一発達に応じた援助とかわりー	事前学習：第八章前半を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、課題を作成（133分）	P
			GW
第12回	一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助—特別な配慮を必要とする子どもとのかかわりー	事前学習：第八章後半を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）	P
			GW
第13回 ①	関係者機関との連携 子育て支援と地域の関連専門機関との関わり	事前学習：第九章を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）	GW
			D
第14回	保護者理解と援助の基本 現代の子育て環境への理解および保護者の心情への理解	事前学習：第十章を事前に読み込んでおくこと（134分） 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと（133分）	GW
			D
テキスト 高嶋景子・砂上史子 編 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ワークや事例、課題については、授業時に解説を行うなどフィードバックする。			
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢・態度 28% 後期授業内課題発表 22% 後期授業内小テスト（レポート） 50%			
実務経験（実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。） 公認心理師・臨床心理士として、精神科クリニック、大学相談室、公立学校でのカウンセリングに従事			
実務経験を活かした教育内容（実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。） 検討する事例において、実務経験を活かした視点、見解を提示する。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術・実務	担当教員名
教育相談 (専門教育科目)	選択	必修		開講期：2学年 後期		小林 聡子
授業の概要						
保育士・幼稚園教諭が行う教育相談について、その役割と特徴を理解し、教育相談の方法と基礎を学ぶ。カウンセリングの基礎・技法および人間理解への臨床心理学的知識を習得し、子どもおよび保護者支援への理解を深める。実際に保護者の教育相談に従事している担当教員より、配慮の必要な保護者の支援について、ロールプレイや事例を通して学ぶ。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築：乳幼児期の子どもとその保護者をめぐるさまざまな問題に対応するための専門的知識を習得できる。 ②技能・スキル形成：ロールプレイや事例を通しカウンセリングマインドの姿勢とスキルを身につけることができる。 ③理念・理解・探究：保育士・幼稚園教諭が行う教育相談について、その役割と特徴を理解できる。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ③						
授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	教育相談とは ー教育相談の役割と特徴、子どもと保護者への支援について考える	事前学習：第一章を熟読し、不明点を明確にしておく（134分） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（133分）				GW
						D
第2回	カウンセリング態度の基礎および技法①ー来談者中心療法について	事前学習：第五章を熟読し、不明点を明確にしておく（134分） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（133分）				GW
						P
第3回	子どもの発達理解ー発達段階と発達課題、感情コントロールについて	事前学習：第2章を熟読し、不明点を明確にしておく（134分） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（133分）				GW
						P
第4回	子どもの発達と臨床①ー子どもの問題行動について、子どもを取り巻く環境の理解	事前学習：第3章および事例3を熟読し、不明点を明確にしておく（134分） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（133分）				GW
						D
第5回 ⑦	教育相談に必要な自己理解ー自分の性格傾向の把握	事前学習：第3章および事例3を熟読し、不明点を明確にしておく（134分） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（133分）				GW
						P
第6回	子どもの発達と臨床②ー発達障害について	事前学習：第4章前半を熟読し、不明点を明確にしておく（134分） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（133分）				GW
						D
第7回	配慮の必要な保護者への支援①ー障害やその傾向のある子どもをもつ保護者への支援	事前学習：第4章後半を熟読し、不明点を明確にしておく（134分） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（133分）				GW
						D
第8回	人間理解のための臨床心理学概論①ー精神障害への理解（統合失調症、うつ病、不安障害）	事前学習：プリントの該当箇所を熟読し、不明点を明確にしておく（134分） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（133分）				GW
						P

第9回	人間理解のための臨床心理学概論②ー精神障害への理解 (パーソナリティ障害、PTSD)	事前学習：プリントの該当箇所を熟読し、 不明点を明確にしておく (134分) 事後学習：プリントを見直し、キーワードな ど整理する (133分)	GW
			P
第10回	配慮の必要な保護者への支援②ー障害のある保護者への 支援	事前学習：プリントを熟読し、不明点を明確 にしておく (134分) 事後学習：プリントを見直し、キーワード など整理する (133分)	GW
			D
第11回	保育者の行う教育相談の具体的展開①ー事例検討を通 し、教育相談の進め方について学ぶ	事前学習：第7章を熟読し、不明点を明確 にしておく (134分) 事後学習：プリントを見直し、キーワード など整理する (133分)	GW
			D
第12回	子どもの発達と臨床②ー虐待への対応、トラウマを受け た子どものケアについて考える	事前学習：事例5を熟読し、不明点を明確に しておく (134分) 事後学習：プリントを見直し、キーワード など整理する (133分)	GW
			D
第13回 ⑦	子どもの社会性を育てるーSST など具体的援助方法に ついて学ぶー	事前学習：第9章を熟読し、不明点を明確 にしておく (134分) 事後学習：プリントを見直し、キーワード など整理する (133分)	GW
			D
第14回	保育者の行う教育相談の具体的展開②ー事例検討を通 し、外部専門期間との連携について学ぶ	事前学習：事例編を熟読し、不明点を明確に しておく (134分) 事後学習：プリントを見直し、キーワード など整理する (133分)	GW
			D
テキスト			
小田豊 秋田喜代美 編 『子どもの理解と保育・教育相談 第2版』 みらい			
参考書・参考資料等			
授業内にて適宜提示する。			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法			
小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価			
授業内感想レポート (28%)、発表・授業に取り組む姿勢・態度 (22%)、後期授業内小テスト (50%) の総合評価			
実務経験			
公認心理師・臨床心理士として、精神科クリニック、大学相談室、公立学校でのカウンセリングに従事			
実務経験を活かした教育内容			
検討する事例およびロールプレイにおいて、実務経験を活かした視点、見解を提示する。			

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育内容総論 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：1学年 後期		鵜野澤 武美

授業の概要

乳幼児保育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。
乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身に付ける。

授業の到達目標

①知識の獲得・構築：

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の保育の全体構造を理解し、各領域のねらいと内容についての知識を習得することができる。

②技能・スキル形成：

子どもの園生活全体を視野に入れて、指導計画の考え方や具体的な保育実践を身に付けることができる。

③理念・理解・探究：

子どもの遊びや活動は総合的なものであることを理解し、強い探究心をもつことができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	オリエンテーション 保育の基本と保育内容を理解する 保育内容とは何を指しているのかを理解し考え方の全体像を捉える	事前学習：テキスト第1章を熟読する(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	
第2回	養護と教育が一体的に展開する保育 養護と教育が一体となった保育について、乳幼児期の育ちを通して考える	事前学習：保育所保育指針第1章2「養護に関する基本的事項」を熟読する(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	
第3回	環境構成を分析して、物的環境や人的環境との関わりについて話し合う 視聴覚教材を活用しながら、外遊びでの環境構成を観察し理解する	事前学習：テキスト第3章を熟読する(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	D
第4回	子どもの生活場面を通して、保育内容を理解する 保育の1日の流れを知り、子どもがどのように発達に必要な経験を積んでいるのか考える	事前学習：テキスト第4章を熟読する(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	D
第5回	遊びを通しての指導 遊びを通して総合的に指導するという考え方を理解する	事前学習：テキスト第6章を熟読する(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	G
第6回	子どもの遊びを分析して、どのような経験をしているのか話し合う グループディスカッションで、子どもの遊びについて検討し、子ども理解を深める	事前学習：実習で経験した「子どもの遊び」に関するエピソードを記入してくる(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	D P
第7回	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と活動のつながり 乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する	事前学習：保育所保育指針・幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を熟読する(35分)	GW

		事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	
第8回	幼保小の連携について考え、就学前教育における 見方・考え方を話し合う 就学前教育と小学校教育の違いについて学ぶ	事前学習：横浜市接続期カリキュラムについて調べる(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	D
第9回	保育における計画の重要性 実際の教育課程・全体的な計画、長期指導計画、 短期指導計画について学ぶ	事前学習：テキスト第7章を熟読する(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	D
第10回	保育における記録 保育の計画、評価という視点から、記録の内容と 留意点について学ぶ	事前学習：テキスト第9章を熟読する(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	GW
第11回	園生活における行事について 行事の在り方や指導法について学ぶ	前学習：伝統行事について調べる(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	GW P
第12回	支援を要する子ども理解とクラス運営および指 導上の配慮 支援を要する子どもの生活・遊びと保育者の役割 や環境構成を理解する	事前学習：テキスト第8章を熟読する(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	D
第13回	模擬保育を目指して指導案を作成する 子ども理解、保育の構想、具体的な指導案作成と いう一連の流れを理解する	事前学習：どのような模擬保育をしたい か構想を立ててくる(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	GW GW
第14回	模擬保育をグループで実施する 模擬保育/ロールプレイ、振り返り・評価、指導案 の改善というサイクルを理解する	事前学習：模擬保育の準備をする(35分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(35分)	E E
テキスト 神蔵幸子 宮川満寿美 編『保育内容総論』青踏社 二階堂邦子 編『保育学のはじめの一步 -おさなごにまなぶ-』横浜女子短期大学 参考書・参考資料等 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 講義で取り扱う課題や提出物については、授業内で解説を行いフィードバックする。			
学生に対する評価 授業に関して取り組む姿勢・演習への参加度(30%)、提出物(30%)、定期試験(40%)の総合評価			
実務経験 幼稚園教諭・幼稚園園長・認定こども園園長・保育士			
実務経験を活かした教育内容 揭示し検討する事例の中に、実務経験を活かした体験的事例を含める。 授業内容の中に実務経験を活かした実践的視点を揭示する。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術	担当教員名
保育内容研究 (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 後期2コマ	・実務	滝口 節子 兼子 真理
授業の概要 子どもたちにとってよりよい表現活動を展開するためにはどうしたらよいかをグループで考え、テーマの選定と発表内容の構成を行います。その後、メンバー一人ひとりの役割(舞台上の出演者および音響、照明など)を決め、脚本、衣装・大道具・小道具などをグループのメンバー全員での協力のもとで創作します。そして、最終的には1月に実施する「保育内容研究発表会」において、発表をします。						
授業の到達目標 子どもの発達、保育内容(5領域を意識して)の成り立ちについて学習してきたことをもとに、子どもの視点を通した表現活動をグループで行う。また、保育の総合性を理解し、グループ活動のなかでお互いに認め合い・助け合い・高めあっていくことによって、学生一人ひとりの人間性や保育者としての資質を高めていくことができる。さらに、活動にあたっては、一人ひとりが自分の考えを述べることができ、主体的に活動することで、保育者となるにあたっての自信がもてる。						
ディプロマポリシーとの関連 ※教学課で追加します						
授業計画【AL】 D:ディスカッション・デバート, GW:グループワーク, P:プレゼンテーション, F:フィールドワーク, E:実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				AL
第1回	オリエンテーション(授業のねらい)	事前学習: 授業が計画通りに進むよう必要なもの 事後学習: 学習内容の記録をとり、次の授業へ繋げる(67分)				P
第2回	ビデオ鑑賞	事前学習: 授業が計画通りに進むよう必要なもの 事後学習: 学習内容の記録をとり、次の授業へ繋げる(67分)				P D
第3回	グループ分け	事前学習: 授業がスムーズに進むように準備をする(34分) 事後学習: 学習内容の記録をとる(33分)				D F
第4回	グループ分け 発表内容を考える	事前学習: 発表内容を考えておく(34分) 事後学習: 学習内容の記録をとり、次の授業へ繋げる(33分)				GW F
第5回	テーマの選定に向け、発表内容を考える	事前学習: グループメンバーで準備をし、計画について話し合う(34分) 事後学習: 学習内容の記録をとり、次の授業へ繋げる(33分)				GW F
第6回	テーマの選定に向け、発表内容を考える	事前学習: グループメンバーで準備をし、計画について話し合う(34分) 事後学習: 学習内容の記録をとり、次の授業へ繋げる(33分)				GW F
第7回	テーマ、発表内容の調整(発表内容の決定)	事前学習: 授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する(34分) 事後学習: 学習内容の記録をとり、次の授業へ繋げる(33分)				GW F
第8回	グループでの活動(活動計画書の作成)	事前学習: 授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する(34分) 事後学習: 学習内容の記録をとり、次の授業へ繋げる(33分)				GW F

第9回	グループでの活動（脚本完成、読み合わせ）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			F
第10回	グループでの活動（音響・照明に関する説明）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			F
第11回	グループでの活動（立ち稽古、道具制作）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	E
			F
第12回	グループでの活動（立ち稽古、道具作成）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			E
第13回	グループでの活動（立ち稽古を鑑賞しての振り返り）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			F
第14回	前半の取り組みについての振り返り	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			F
第15回	後半の取り組み（活動計画）	事前学習：必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容を振り返り、記録をとる（33分）	GW
			F
第16回	グループでの活動（立ち稽古）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			F
第17回	グループでの活動（立ち稽古）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			F
第18回	全体での立ち稽古	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			F
第19回	相互鑑賞と評価	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	GW
			F
第20回	リハーサル（音響業者立会い）①	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	E
			F
第21回	リハーサル（音響業者立会い）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33分）	E
			F

第 22 回	リハーサル（音響業者立会い）②	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34 分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33 分）	E F
第 23 回	リハーサル（音響業者立会い）③	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34 分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33 分）	E F
第 24 回	リハーサル（音響業者立会い）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（34 分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33 分）	E F
第 25 回	「保育内容研究発表会」本番	事前学習：本番に向けグループで最終確認をし、準備をする（34 分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33 分）	E F
第 26 回	「保育内容研究発表会」本番	事前学習：本番に向けグループで最終確認をし、準備をする（34 分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（33 分）	E F
第 27 回	片付け	事前学習：グループで話し合う（34 分） 事後学習：記録をとる（33 分）	GW F
第 28 回	ビデオ鑑賞 活動の取り組みの振り返り	事前学習：発表会を振り返る（34 分） 事後学習：学習内容を振り返り、記録をとる（33 分）	GW F
テキスト 特に指定しません。適宜プリントを配付して授業を行います。			
参考書・参考資料等 幼少年教育研究所 編著「新版 遊びの指導」 同文書院 各グループの発表内容に応じて適宜紹介し、必要に応じて資料配布。			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 個人用・グループ用の活動記録をとり、提出しフィードバックする			
学生に対する評価 グループ活動（プロセス・発表）の内容（60％）、グループ活動への参加度（20％）、レポート（自己の振り返り）（20％）			
実務経験（実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。） 滝口節子 保育所の保育士 兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師			
実務経験を活かした教育内容（実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。） 保育の現場経験がある教員により、子どもの発達や 5 領域を活かし、保育における楽しめる発表を学び、理解を深める。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
健康 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 後期		堀内 弓子
授業の概要						
本授業は、保育所保育指針・幼稚園教育要領に示される5領域のうちの一つ「健康」について学ぶ。その上で、保育所や幼稚園等における健康とは何かを考えていく。さらに、子どもが健康で安全な生活を作り出す力をどのように幼稚園教諭・保育士が育んでいくのかについて考える。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築：健康とは何かを理解し、述べることができる。 ②技能・スキル形成：子どもの視点に立った運動、生活習慣、安全のために必要な考え方を身につける。 ③理念・理解・探究：子どもの「健康」課題について理解し、具体的な支援場面を想定した保育計画が立案できる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	乳幼児期の健康課題 健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康			事前学習：「健康」の定義について調べたことをまとめる(30分)。 事後学習：乳幼児の健康の意義とその支援を考える(40分)。		GW
第2回	領域健康のねらい・内容 保育者の支援方法(テキスト、以下(㊦)とする)p14, 17, 29, 77, 78			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：領域健康のねらいを実現するための保育者の知恵を知り、自分ならどうするかを考える(40分)。		GW
第3回	領域健康と他の領域との関連性 公開行事運動会のねらいと指導の留意点			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：他領域の知識も踏まえて健康のねらいを実現していくことや、意欲的に運動に取り組む子どもを育てていく保育の実践事例から、考えたことをまとめる(40分)。		GW
第4回	日常の保育と運動会のつながり 実践事例から考える			事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：日常の保育の中で、運動遊びを通して子ども同士の関わりを育むための保育者の支援の在り方考える(40分)。		GW
第5回 (㊦)	1～4回までの学習内容の確認(小テスト①) 乳幼児期の生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄)の獲得及び生活リズムの形成とその意義(1)(㊦)p34, 35, 37			事前学習：ここまでの学びを復習する。 テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：子どもの生活習慣の問題点を各種データから知り、保護者との連携方法を考える(40分)。		GW
第6回	乳幼児期の生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣及び生活リズムの形成とその意義(2)(㊦)p. 40			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：健康な生活リズムの確立に向け、保育者にできる具体的な取り組みを知り、子どもとどのような関係を作るか考える(40分)。		GW
第7回	子どもの体力・運動能力の現状と問題点 社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方(㊦)p. 2～3			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：子どもの様々な動きの経験を支える必要性を考える(40分)。		GW

第8回	乳幼児期の運動発達の特徴 運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味、及び両者の関係(7)p. 68, 110～112, 77	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：子どもの運動発達の特徴を知り、適切な環境づくりや援助を考える(40分)。	GW
第9回	遊びとしての運動 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方(7)p. 142	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：運動遊びを行う方法や、運動好きになる理由を理解し、運動遊びの行い方を考える(40分)。	GW
第10回 ㊦ ㊧	5～9回までの学習内容の確認(小テスト②) 幼児期の怪我や事故の特徴(7)p. 139～142 1～10回までの配布資料内の課題を実施提出	事前学習：ここまでの学びを復習する。 テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：怪我や自己の発生状況を知り、保育者の援助を考える(40分)。	GW
第11回	幼児の安全教育と危険(リスクとハザード) 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理(1)(7)p. 142～147	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：安全管理と安全教育のねらいと内容を知り、遊びへの意欲を削ぐことなく安全への意識を育む方法を考える(40分)。	GW
第12回	幼児の安全教育と危険(リスクとハザード) 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理(2)	事前学習：配布資料を読む(30分)。 事後学習：子どもが自然に安全に注意が払えるようになるための環境構成を考える(40分)。	GW
第13回	乳幼児期形態的な体の発育と機能的発達に伴う保育者の配慮(7)p. 67～70, p. 70～71	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：形態的な体の発育を知り、それを援助する上で、配慮すべき点を考える(40分)。	GW
第14回 ㊨	第1回～13回のまとめと振り返り	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：体の機能的な発達を知り、配慮すべき点を考える。 学んだことのまとめと整理をする(40分)。	GW

テキスト

池田裕恵編著『子どもの元気を取り戻す 保育内容「健康」』杏林書院、2024

参考書・参考資料等

近藤充夫著『幼児の運動と心の育ち』世界文化社、1994

文部科学省編『幼児期運動指針ガイドブック』2012

その他、授業の中で紹介する。また、説明用参考資料を授業内で配布。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・提出レポートについては、評価した後、授業内でフィードバックする。
- ・理解度を確認するための小テストを実施し、返却時に授業内で解説を行う。

学生に対する評価

課題を含め、授業への取り組み・討論への貢献度（10%）、小テストや提出レポート（30%）、後期末筆記試験（60%）の総合評価

実務経験

保育所体育指導

実務経験を活かした教育内容

授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
健康の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 2学年 後期		佐久間 博子

授業の概要

乳幼児が主体的に健康で安全な生活をつくり出す力を養うための保育者の役割を理解する。また乳幼児期の身体機能の発達に必要な「基本的な動き」を理解し、「子どもが安全で楽しいと思える」運動あそびの指導案を立て、実践する。さらに子どもの健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けるための指導法や家庭との連携について学修する。

授業の到達目標

①知識面：乳幼児が主体的に安全で楽しい運動あそびを実践するための保育者としての知識を修得する。
 ②技術面：保育者として子どもと一緒に楽しみながらこどもの主体性を引き出す運動あそびの創作力及び指導力のスキルを高める。また他者と連携・協働して作品や教材を作り上げることができる。
 ③理念・理解・探求：幼児期の身体機能の発達に必要な多様な動きを理解し、保育計画が立案できる。

ディプロマポリシーとの関連
DPⅡ④

授業計画【AL】 D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技、実習，課題

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	オリエンテーション 子どもが「健やかに伸び伸びと育つ」ための具体的な指導とは 子どもの発達段階を踏まえた遊戯の指導法	事前学習：テキストの「目次」を確認し、これから学ぶ概要を確認しておく。(30分) 事後学習：本授業で学んだことをまとめておく。(30分)	E GW
第2回	遊戯の指導法① 子どもの運動機能の発育発達を押さえた指導とは 自己の意見、他者の意見を交えてのグループワーク	事前学習：遊戯の創作を行う上で、対象とする子どもの運動機能の発達段階を配布資料で確認しておく(30分)。 事後学習：グループワークでディスカッションした内容や課題をまとめておく。(30分)。	GW D
第3回	遊戯の指導法② 遊戯の創作技術のポイントを押さえながら、仲間と協力して創作活動に取り組む。 創作におけるポイントを押さえる。	事前学習：配布資料を参考に遊戯創作のポイントを押さえる。(30分)。 事後学習：作品を図解にまとめておく。(30分)。	GW E
第4回 ⑦	遊戯の指導法③ 創作活動のまとめ（発表）	事前学習：創作におけるポイントを確認しておく（対象年齢に合った動きの選択・隊形移動・体を大きく動かすコツ等）(30分) 事後学習：他のグループの作品を評価し、課題を明確にする。(30分)。	GW P
第5回	遊戯の指導法④ 子どもの気持ちに寄り添った運動遊びの指導法を考える	事前学習：ここまでの学びを復習する。(30分)。 事後学習：遊戯の創作を通して苦労した点や気づき、感想等をまとめておく。(30分)	GW E

第6回	運動あそびから引き出される多様な動き 環境設定から引き出される動きのバリエーション（理論編）	事前学習：配布資料を読み、動きの種類を理解しておく（30分）。 事後学習：運動あそびから引き出される具体的な運動要素をまとめる。（30分）	GW E
第7回	運動あそびから引き出される多種多様な動き 環境設定から引き出される動きのバリエーション（実践編）	事前学習：年齢による運動機能の発達段階を理解しておく（30分）。 事後学習：本授業で学んだことをまとめる。（30分）	GW E
第8回	保育・教育の中の安全・衛生指導のあり方を考える ークラスだより（健康だより）づくりー	事前学習：テキスト p.131～141 を読む（30分）。 事後学習：乳幼児への安全・衛生指導の具体的方法をまとめる（30分）。	GW
第9回	保育現場でのリスクとハザードの考え方を知り、乳幼児の安全に関する知識を修得する。	事前学習：テキスト p.141～159 を読み理解しておく。（30分）。 事後学習：本授業で学んだことをまとめる。（30分）。	GW
第10回 ㊦	準備運動の目的と必要性①	事前学習：準備運動の意味と必要性について調べておく。（30分）。 事後学習：授業を振り返り、主運動に対する準備運動の指導法をまとめる。（30分）。	P
第11回 ㊧	準備運動の目的と必要性② まとめのレポート	事前学習：グループで考えた準備運動が思い通り表現できたか振り返る。（30分）。 事後学習：準備運動のバリエーションを調べてまとめる。（30分）。	E
第12回	意欲を引き出すための「運動あそび」の指導法 「ワクワク・ドキドキ」の体験とは	事前学習：テキスト p.7～12 を読んでおく。（30分）。 事後学習：「ワクワク・ドキドキ」の運動体験が子どもに与える影響についてまとめる。（30分）。	GW
第13回	幼児期の健康にまつわる今日の課題 子どもの体力と運動能力の現状	事前学習：テキスト p.183～189 を読んでおく。（30分）。 事後学習：本授業で学んだことをまとめる。（30分）。	D
第14回 ㊨	乳幼児の健康に関わる生活習慣の獲得 保護者の連携とその必要性	事前学習：テキスト 163～181 を読む。（30分）。 事後学習：本授業で学んだことをまとめる。（30分）。	D
テキスト 宮崎 豊・田澤 里喜 著『改訂第2版 健康の指導法』玉川大学出版部、2019			
参考書・参考資料等 鹿野晶子, 田中浩二, 土田豊, 並木真理子, 堀内弓子 著『子どもの運動・遊び ー健康と安全を目指してー』アイ・ケイコーポレーション、2021 その他、授業の中で紹介する。			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・提出レポートについては、評価した後、授業内でフィードバックする。			
学生に対する評価 授業への参加度（30%） 授業に関して仲間と連携・協働して積極的に演習活動に取り組む姿勢（貢献度）（40%） 提出レポート（30%）の総合評価			

実務経験

幼稚園 体育講師

実務経験を活かした教育内容

授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介,解説する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
人間関係 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 後期		石山 直樹

授業の概要

乳幼児期の子どもの人間関係の発達過程および領域「人間関係」のねらいと内容を学習します。また、現代社会において乳幼児期の子どもが人と関わる力を育むうえでの問題点や課題を考えます。さらに、自己理解・他者理解の重要性に関する学習を通して、保護者と保育者および保育者同士の人間関係のあり方についても学習します。

授業の到達目標

①知識の獲得・構築

- ・乳幼児期の子どもの人間関係の育ちに関する基本的知識を習得することができる。
(DPⅡ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能、DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能)
- ・保育の基本のひとつである、領域「人間関係」のねらいと内容について理解することができる。
(DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能)

②技能・スキル形成

- ・領域「人間関係」のねらいと内容、および乳幼児期の人間関係の育ちを総合的に捉え、保育実践においてその知識を適切に活用することができる。(DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能)
- ・自己理解・他者理解を深め、保育者を目指す者としての他者(子ども・保護者・保育者など)との適切な関わりを行うことができる。(DPⅡ②保育者としての基本的な対人関係能力)

③理念・理解・探究

- ・社会で生活していく者として「人と関わること」の意味を的確に捉え、それを説明することができる。
(DPⅠ-2①知識・技能とそれを活かす思考力、DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能)

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート、GW：グループワーク、P：プレゼンテーション、F：フィールドワーク、E：実技、実習、課題

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容	AL
第1回	・オリエンテーション(授業内容と展開方法、評価方法などの説明) ・保育の基本として重視すべき事項について	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第1章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	AL E
第2回	・領域「人間関係」のねらいと内容	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第2章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	E
第3回	・0歳以上3歳未満の子どもの人間関係の発達	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第3章第1～2節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E

第4回	・3歳以上の子どもの人間関係の発達	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第4章第1～2節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E
第5回 ㊦	・人との関わりの基盤 ～アタッチメントの形成～ ・授業内小テスト(筆記試験)(第1回)	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第3章第2節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	E
第6回	・自我の発達	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第3章第3節、第4章第3節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E
第7回 ㊦	・道徳性・規範意識の芽生え ・授業内小テスト(筆記試験)(第2回)	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第7章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E
第8回	・思いやりと社会性(協働して物事に取り組む力)の発達	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第8章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E
第9回 ㊦	・子どもと家族との関わり ・授業内小テスト(筆記試験)(第3回)	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第9章第1節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	E
第10回	・子どもと保育者との関わり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第9章第2節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E GW
第11回	・遊びを通じた人間関係の育ち	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第10章)を熟読して、	

		その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E
第12回	・友達との関わり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第7～10章)を通読して、学習内容を振り返る。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E
第13回	・保護者と保育者との関わり ・子どもと保護者を支える保育者同士の関わり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前にテキスト(第13章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキスト、プリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。	D・E GW
第14回 ㊦	・まとめ～領域「人間関係」の新しい課題～ ・学習内容の振り返りと確認(期末筆記試験) ・学習内容の振り返りと確認(期末筆記試験)のポイント解説	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して70分) ・授業前に第1回～第14回授業の学びを振り返り、その内容を整理する。また、テキスト(第15章第1節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後は期末テストのポイント解説の内容を振り返り、理解が不十分であったと考えられる箇所について、学びを再整理する。	E
テキスト ・近喰晴子・小泉裕子編著『保育内容「人間関係」と指導法 考える・調べる・学び合う』中央法規 ・二階堂邦子・石山直樹・本田幸編著『保育学のはじめの一步ーおさなごにまなぶー』横浜女子短期大学			
参考書・参考資料等 ・谷田貝公昭監修、小櫃智子・谷口明子編著『新版 実践保育内容シリーズ② 人間関係』一藝社 ・佐々木正美『子どもへのまなざし』ミネルヴァ書房 ・菊地篤子『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』株式会社みらい ・田宮縁『体験する・調べる・考える 領域「人間関係」〈第2版〉』萌文書林 ・森上史朗・柏女霊峰編『保育用語辞典〔第8版〕』ミネルヴァ書房			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 ・授業内課題およびテストの内容などに関するフィードバックは、授業内で全体を対象に行います。 ・事後学習で不明な点が生じた場合などには、必要に応じて個別のフィードバックも行います。			
学生に対する評価 前期末筆記試験(30%)、授業内課題授業内課題(リアクションペーパー、事例検討など)の取り組み状況(55%)、授業に取り組む姿勢(15%)			
実務経験 (実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。)			
実務経験を活かした教育内容 (実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。)			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
環境 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		平澤 順子
授業の概要 保育所などにおける保育士としての実務経験を持つ担当教員により、子どもが環境と関わる事での学びについて、体験的事例を提示し検討を行っていく。また、子どもを取り巻く環境(物的、人的、自然環境、社会的事象)についての理解を深め、乳幼児がそれらに自ら心を動かし、主体的に関わる事の重要性について学ぶ。さらに、それらを通して子どもの活動が豊かになる為の環境構成についても理解を深める。						
授業の到達目標 1) 幼児を取り巻く環境の重要性、乳幼児にとっての環境の意義を理解し、説明できる。 2) 乳幼児の思考・科学的概念の発達を理解し、それらを育むための環境の在り方について知り、応用できる。 3) 幼児期の標識・文字や数字等や情報・施設との関わりを通しての学びを理解し、実施できる。 4) 自然物に触れ、それらの名称や遊びへの取り入れ方を知り、実施できる。						
ディプロマポリシーとの関連：DPⅡ④						
授業計画【AL】D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィールドワーク、E:実技等						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				AL
第1回	オリエンテーション ・現代社会の乳幼児を取り巻く環境とその課題	事前学習：子どもを取り巻く環境について調べておく(135分) 事後学習：子どもを取り巻く環境についてポイントの整理⇒理解を深める(135分)				GW
第2回	乳幼児の発達における環境との関わり - DVD視聴を通して学ぶ -	事前学習：プリント(事前配布)の読み込み(135分) 事後学習：DVDの振り返り⇒乳幼児期にふさわしい生活の要点をまとめる(135分)				D
第3回	乳幼児期・児童期の認知的発達	事前学習：プリント(事前配布)の読み込み⇒気づきを整理する(135分) 事後学習：乳幼児の発達の特徴及び道筋について理解を深める(135分)				P
第4回	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり	事前学習：プリント(事前配布)の読み込み⇒まとめ(135分) 事後学習：乳幼児の数や図形との関わり、それらを通しての学びを理解する(135分)				GW P
第5回	栽培活動(野菜) ・グループワーク ①栽培方法 ②収穫物を使った活動への展開の計画	事前学習：栽培する野菜の特徴および栽培法について調べておく(135分) 事後学習：栽培し、収穫する野菜を使った活動の計画を考える(135分)				GW
第6回	乳幼児の生物・自然との関わり(1) - 学内探索を通して野草に触れる -	事前学習：自分の身の回りの野に咲く季節の草花を調べておく(135分) 事後学習：学内マップを作成し、草花の自生場所を確認し、理解を深める(135分)				F
第7回	幼児と自然環境との関わり(2) - 身近な野草を使った遊びの体験 -	事前学習：身近な野草を使った遊びを考えておく(135分) 事後学習：秋冬の草花についても調べ、まとめておく(135分)				P E
第8回	動物・小動物に関わる環境	事前学習：身近にいる動物や小動物の生態や生息場所等を調べておく(135分) 事後学習：動物・小動物との自らの体験をまとめ、それらが子どもに与える影響を考える(135分)				P

第9回	乳幼児の標識・文字との関わり	事前学習：子どもたちの周りにある標識や文字環境について調べておく（135分） 事後学習：子どもたちの活動を円滑に進めるための標識を考え、作成する（135分）	P
第10回	乳幼児の情報・施設との関わり	事前学習：子どもたちに天気を分かり易く伝える方法を考える⇒まとめる（135分） 事後学習：身近にある公園や図書館などに行く⇒それらと子どもたちとの関わりを調査・まとめる（135分）	P GW
第11回	領域のあり方と、環境を通して行う教育の意義	事前学習：『保育所保育指針』を基に、乳児、3歳未満児、3歳以上児の領域「環境」のねらい・内容に目を通す（135分） 事後学習：5領域と資質・能力や10の姿との関連について整理しておく（135分）	GW
第12回	園内で行われる乳幼児の遊びや活動における環境	事前学習：提示した園内での遊びや活動がより発展するための環境を考える（135分） 事後学習：乳幼児の日課を知り、それに即した環境構成を整理する（135分）	P
第13回	園庭で行われる乳幼児の遊びや活動における環境	事前学習：子どもに砂や水などとの関わりがなぜ大切かを考え、まとめておく（135分） 事後学習：園庭での活動に対する安全への配慮について整理しておく（135分）	GW P
第14回	幼稚園・保育所クラス的环境構成の作成	事前学習：乳児クラス的环境を構成する際の注意事項を考えておく（135分） 事後学習：乳児クラス、幼児クラス、異年齢保育の環境構成の違いを理解する（135分）	GW P
テキスト： 新・保育内容「環境」、永淵泰一郎編，教育情報出版			
参考書・参考資料など 保育所保育指針、幼稚園教育要領，ポートフォリオ入門，森眞理、小学館，その他随時授業内で提示する			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。			
学生に対する評価：総合評価： レポート（40%）、講義の参加態度（20%）、小テスト（40%）			
実務経験： 保育所の保育士、認定こども園の保育士			
実務経験を活かした教育内容 提示する事例において、実務経験を活かした視点から分析及び検討を行っていく。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 梅原 正美
環境の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：1学年 後期		

授業の概要
人的環境や物的環境を通して、乳・幼児期の五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる）を豊かにする方法を探り、子どもの好奇心や探求心を深める環境方法について学ぶ。また、地域の社会環境を活用しながら、子ども達の遊びを豊かなものにし、夢が膨らむ環境方法について学ぶ。

授業の到達目標
①知識の獲得・構築： 5領域「環境」の人的・物的・社会的な部分に触れ、各々の環境構成を知る。
②技能・スキル形成： 五感を活かした様々な環境に触れ、好奇心や探究心から起きる「なぜ・どうして」の答えを「なぜならば」に変えるスキルを身に付け、保育実践に繋がる技術を習得する。
③理念・理解・探究： 様々な環境構成の技術習得から、子どもの生きる力を育むための方法を探究し、より深い環境構成の実践方法を探究する。

ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④

授業計画表【AL】D：ディスカッション・ディベート、GW：グループワーク、P：プレゼンテーション、F：フィールドワーク、E：実技、実習、課題			
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	子どもの育ちと「環境」の関りを知り、領域「環境」のねらいと内容について学ぶ	事前学習：(67分) テキスト①第1章と第2章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。	
第2回	環境構成と子どもの発達について学ぶ	事前学習：(67分) テキスト①第3章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。	
第3回	子どもを取り巻く人的環境について学ぶ	事前学習：(67分) テキスト①第4章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。	
第4回	子どもを取り巻く物的環境について学ぶ	事前学習：(67分) テキスト①第5章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。	
第5回	子どもを取り巻く社会的環境について学ぶ 身近な社会環境について、グループワークを行う	事前学習：(67分) テキスト①第6章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。	GW
第6回	子どもを取り巻く自然環境について学ぶ	事前学習：(67分) テキスト①第7章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。	
第7回	子どもの生きる力を育む環境①（自立する心や好奇心、探究心を育む環境について） 子どもが興味関心を持つ遊びの玩具を作り、発表を行う	事前学習：(67分) テキスト①第8章1節から3節までを熟読し、事例の質問事項を考えておく。	P
第8回	子どもの生きる力を育む環境②（表現する心や道徳心を育む環境について）	事前学習：(67分) テキスト①第8章4節から5節までを熟読し、事例の質問事項を考えておく。	

第9回	季節に合った植物や昆虫の採集し、身近な自然環境の知識を深める 採取したものを作品にし、発表を行う	事前学習：(67分) テキスト①第8章のまとめ、及び好きな昆虫か植物の標本を制作し、発表の準備をする。	P
第10回	子どもの守り育てる環境や気になる子どもとの環境の設定について考える テキスト①について、まとめのテストを実施	事前学習：(34分) テキスト①第9章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。 事後学習：(33分) テキスト①のまとめ	
第11回	子どもの発達にかかわる数・量・形（年齢における数量や図形）への関心を持てる環境設定を学ぶ。	事前学習：(67分) テキスト②より、子どもの発達における数量や図形への興味の持ち方、興味の持たせ方を調べ、予備知識を得ておく。	
第12回	保育者にかかわる数・量・形（消毒液のつくり方、濃度、割合） 保育で消毒を実施する場所や物、及び薬液の作り方をグループで討議、確認を行う	事前学習：(67分) テキスト②より、溶液の濃度計算、割合計算、市販消毒液の調整の仕方等の計算ができるようにしておく。	GW
第13回	園生活でみられる数学（野菜から学ぶ形や大きさ、数量）	事前学習：(67分) テキスト②より、野菜の形や切断面を知っておく。	
第14回	遊びの中でみられる数学（サイコロのづくりとすごろく遊び、紙や鉄の図形遊び） テキスト②について、まとめのテスト実施	事前学習：(34分) テキスト②より、サイコロを2個以上作り、サイコロ遊びを考えておく。 事後学習：(33分) 第1回から第13回の授業を振り返り、まとめておく。	
テキスト ①酒井幸子・守巧 編著 保育内容『環境』 萌文書林 ②吉田明史・田宮縁 編著 保育者が身につけておきたい『数学』 萌文書林			
参考書・参考資料等 福元真由美 編著 事例で学ぶ保育内容『領域 環境』 萌文書林 森のムッレ協会新潟 編集 身近な自然と遊んで育つ保育実践 わかば社 大豆生田啓友 編著 草花のある園庭と季節の自然遊び フレーベル館 佐藤純子 編著 環境ワークブック 基礎理解と指導法 萌文書林			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。 講義で取り扱う提出物については、最終回にフィードバックする。 実践のスキル向上のために行う造作品の課題等については、授業時間内で学生同士評価したうえ、講評等を行った後にフィードバックする。			
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度、課題レポート、課題発表等で(60%)と 後期末筆記試験(40%)の総合評価			
実務経験 中学校教諭 高等学校教諭 保育園（園長） 日本保育学会（会員） 神奈川県保育会（企画運営委員）			
実務経験を活かした教育内容 実務経験の中で、体験した事例を提示・活用し、保育に携わる者へのスキルを具体的に向上させる。			

授業科目名 言葉 (専門教育科目)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：1学年 前期	学術 ・ 実務	担当教員名 本田 幸
授業の概要 幼児が豊かな言葉や表現を身につけるために必要な基礎的知識を学ぶ。人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、乳児期から幼児期後期の言葉の発達過程を学習する。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識や技術について基礎的事項を学ぶ。						
授業の到達目標 ① 知識の獲得・構築： 人間にとっての言葉を持つことの意義、乳幼児期の言葉の発達について基本的事項を理解している。 ② 技能・スキル形成： 言葉の楽しさや美しさに対する感覚を育てるために、絵本、紙芝居等の児童文化財の意義を理解し、基礎的な技術を身に付けている。 ③ 理念・理解の形成： 子どもの言葉を豊かに育み、言葉の感覚を育てるための保育実践と保育者の役割を学ぶことについて探求心を持っている。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画【AL】 D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	オリエンテーションー身近な生活から言葉の意義について考えるー	【事前準備（30分）】 日常生活の中で心に残る言葉、好きな言葉、嬉しかった言葉など、自分にとって大切な言葉について考えておくこと。 【事後学習（37分）】 授業やプリントで学んだことをもとに、言葉の持つ力や言葉の大切さについて自分の考えをまとめる。				E
第2回	人間にとって「言葉」とは何かー言葉の持つ機能ー	【事前準備（30分）】 テキスト『子どもの育ちを支える子どもと言葉』序編第1章に目を通し、様々な角度からの言葉についての知見に触れる。 【事後学習（37分）】 授業プリント等を参考にして、人間にとって言葉の持つ意味を考える。				D
第3回	保育者の言葉、実習生の言葉	【事前準備（30分）】 普段自分が語る言葉について振り返り、これから社会人としてどのような言葉遣いを身に付けていきたいかを考える。 【事後学習（37分）】 授業で学習した社会人としての挨拶や言葉遣いの大切さ、自分自身の課題について整理し、さらに磨きをかける。保育者として子どもと関わる上での言葉について考える。また、保育現場で必要とされる保育用語について、正しく記述できるように復習しておく。				E

第4回	言葉の発達過程を学ぶ ①前言語期のコミュニケーションの発達	【事前準備（30分）】参考図書『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 pp. 112 - 116 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントをもとに、乳児との応答的な関わり的重要性について理解する。	E
第5回	言葉の発達過程を学ぶ ②おおむね1歳から2歳児の言葉の発達	【事前準備（30分）】参考図書『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 p. 112 ~ p. 116 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントをもとに、言葉話す前の発声や泣き、喃語の意味、および指さしによるコミュニケーションの意味について復習する。	E
第6回	言葉の発達過程を学ぶ ③おおむね2歳児の言葉の発達	【事前準備（30分）】参考図書『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 pp. 116 - 117 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントをもとに、初語、一語文、二語文の発達、語彙の爆発的増加、象徴機能の発達等、この時期の言語の発達に関連する事項についてしっかりと復習する。	E
第7回	言葉の発達過程を学ぶ④ 3歳児の言葉の発達	【事前準備（30分）】参考図書『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 p. 118 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントをもとに、この時期の言語の発達に関連する事項についてしっかりと復習する。	E
第8回	言葉の発達過程を学ぶ⑤ 4～5歳児の言葉の発達 ①	【事前準備（30分）】参考図書『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 pp. 118 - 121 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントをもとに、この時期の言語の発達に関連する事項についてしっかりと復習する。	E
第9回	保育内容 領域「言葉」	【事前準備（30分）】参考図書『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 pp. 213 - 214 を読み、保育内容 領域「言葉」について理解しておく。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントをもとに、保育内容 領域「言葉」のねらい及び内容についてしっかりと復習する。	E

第10回 ⑫	言葉を育てる児童文化財Ⅰ（絵本） 絵本とは何か、絵本の与え方	【事前準備（30分）】自分の好きな絵本、子どものころに読んでもらい印象に残っている絵本などを改めて読み直し、絵本の楽しさ、面白さを発見しておくこと。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントなどをもとに、乳幼児期の子どもにとっての絵本の意味について自分の考えをまとめること。	GW
			F
第11回	言葉を育てる児童文化財Ⅱ（絵本） 絵本の読み聞かせの実践（演習）	【事前準備（30分）】図書館や書店などで多くの絵本に触れ、保育実践の場で読んでみたい絵本を予め準備しておくこと。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントなどをもとに、保育実践の場での絵本の活用について理解を深め、読み聞かせについての基本的技術を身につけるために繰り返し練習をすること。	GW
			F
第12回	言葉を育てる児童文化財Ⅲ（紙芝居） 紙芝居について理解を深める	【事前準備（30分）】テキスト『子どもの育ちを支える 子どもと言葉 改訂版』浅見均編著 大学図書出版「児童文化と言葉」を読み、児童文化財としての紙芝居について概観を知っておくこと。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントなどをもとに、紙芝居の特徴や児童文化財としての意義について理解すること。	GW
			F
第13回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財Ⅳ（ことばあそび） ことばあそびの実践（演習）	【事前準備（30分）】しりとり、なぞなぞ等、今まで経験したことのあることばあそびについて振り返り、ことばあそびの楽しさ、魅力について整理しておくこと。 【事後学習（37分）】授業で学んだこと、プリントなどをもとに、保育実践の場でのことばあそびについて理解を深め、保育現場で実践したいことばあそびについて自分で調べてみる。	
			GW F
第14回 ⑬	子どもの言葉を育むこと（まとめ）	【事前準備（30分）】授業で学んだこと、テキストやプリントを参考に、子どもが言葉話すことの意味、言葉の機能について整理しておくこと。また、子どもの発達過程を理解し、言葉の発達と認知機能の発達との関わり、言葉の発達と人間関係の発達との関わりなど、総合的に理解すること。 【事後学習（37分）】授業で学んだことをもとに、保育内容領域「言葉」に関する保育実践について、9月の教育実習で学びたいこと、課題を明確にすること。	
			E
テキスト 『子どもの育ちを支える子どもと言葉 改訂新版』浅見均編著 大学図書出版			
参考書・参考資料等 『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 ＊ その他、適宜授業内で資料を配布する。			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・各授業の最後にその授業のまとめ、振り返りと課題等に関するコメントを伝達する。 ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			

学生に対する評価

前期末レポート試験(40%)、授業後のレポート及び提出物(40%)、授業に対して取り組む姿勢(20%)、
の総合評価

実務経験

幼稚園教諭

実務経験を活かした教育内容

子どもにとっての言葉の意味や子どもの言葉の発達過程を学習する際に、保育実践の場での事例や具体的な
子どもの姿を交えて学ぶ。特に、第 11 回目、第 12 回目の授業では、保育教材としての絵本、紙芝居につい
て、実践での場を想定し基礎的な技術が身に付く演習を行う。また、13 回目の授業では言葉の楽しさを体験
することができることばあそびの実践を行う。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
言葉の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1 学年 後期		本田 幸
授業の概要						
幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、「幼稚園教育要領」に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、理解を深める。その上で、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するための保育実践について学ぶ。保育者と子どもとの関わりから生まれる言葉、友達との関わりを通して豊かになる言葉など、事例を通して学習する。具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を学ぶ。保育活動として行われる絵本の読み聞かせや児童文化財の活用など計画・実践・評価を含む授業から、互いの学び合いにつなげる。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築： 保育内容の構造を踏まえて、領域「言葉」のねらい及び内容について理解している。						
② 技能・スキル形成： 絵本の読み聞かせや紙芝居、言葉遊びなどの具体的な指導案作成、実践、振り返りを行い、保育を構成する力が身についている。						
③ 理念・理解・探求： 子どもの発達過程や一人一人の幼児理解にもとづく保育のあり方や子どもの言葉を育む保育者の関わりについて理解し、子どもの言葉の育ちを育む保育実践を目指そうとする姿勢を持っている。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・デバート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	保育における「言葉」とは？ ー保育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容ー			【準備学習（30分）】『子どもの育ちを支える 子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版を読み、「理論編 第1章 乳幼児教育の基本」について概要を学んでおくこと。 【事後学習（37分）】授業内容やプリントをもとに、学習したことをしっかりと復習しておくこと。		E
第2回	子どもの言葉を育む保育技術① ーおはなしについて学ぶー			【準備学習（30分）】『子どもの育ちを支える子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編第4章」を読み、「おはなし」について調べておくこと。 【事後学習（37分）】授業内容やプリントをもとに、児童文化財である「おはなし」について理解を深めること。		E
第3回	子どもの言葉を育む保育技術② ー絵本の読み聞かせ、絵本の選び方ー			【準備学習（30分）】9月の教育実習の経験をふまえて、絵本の選び方、環境設定、読み聞かせの仕方等、担当保育者からの指導や学んだことを整理しておくこと。 【事後学習（37分）】絵本リストなどを参考に絵本に関する知識を広げること。子どもの興味・関心、発達や季節などを考慮した絵本の選び方について理解すること。		E
第4回	保育の内容① ー乳児保育に関わるねらい及び内容ー			【準備学習（30分）】参考資料『保育所保育指針解説』p.101～p.109を予め読んでおくこと。		

		【事後学習（37分）】授業内容やプリントを復習し、乳児期の子どもの言葉の育ちと保育者の関わりについて復習しておくこと。	E
第5回	保育の内容② －1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容－	【準備学習（30分）】参考資料『保育所保育指針解説』p.156～p.167を予め読んでおくこと。 【事後学習（37分）】授業内容やプリントを復習し、1歳以上3歳未満児の子どもの言葉の育ちと保育者の関わりについて復習しておくこと。	E
第6回	保育の内容③ －3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容－	【準備学習（30分）】参考資料『保育所保育指針解説』p.248～p.266を予め読んでおくこと。 【事後学習（37分）】授業内容やプリントを復習し、3歳以上児の子どもの言葉の育ちと保育者の関わりについて復習しておくこと。	E
第7回 ①	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 －ペープサートについて学ぶ－	【準備学習（30分）】『子どもの育ちを支える子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編第4章」を読み、「ペープサート」について概要を学んでおくこと。 【事後学習（37分）】子どもが楽しめるペープサートを製作するために、文献や資料を集めておくこと。	E
第8回	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 －ペープサートの製作（演習）－	【準備学習（30分）】配布したプリントを読み、ペープサート作りの手順を理解し、材料などを準備しておくこと。 【事後学習（37分）】授業内での説明や配布したプリントから、ペープサートの持ち方、動かし方等、演じ方について復習しておくこと。	E
第9回	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 －ペープサートの発表（演習）－	【準備学習（30分）】製作したペープサートを使い、導入、展開、まとめの流れをふまえて保育実践ができるように練習すること。 【事後学習（37分）】クラスでのペープサートの実践発表を通して、互いの作品の良い所に気づいたり、自分の保育実践の改善点を見つけたりして、2月の保育実習（保育所）での教材準備につなげること。	P P
第10回	子どもの言葉を育む保育の構想 －指導計画の考え方－	【準備学習（30分）】保育の指導計画の意義や基本的な考え方について、保育実習指導、教育実習指導、カリキュラム論、保育内容総論等、関連の教科で学んだことをしっかりと理解し、復習しておくこと。 【事後学習（37分）】授業内容やプリントなどをもとに、指導計画の具体的作成について復習しておくこと。言葉の領域に関する保育活動についても、図書館等で調べておくこと。	E
第11回	子どもの言葉を育む保育の構想 ー 具体的な保育場面を想定した指導案の作成	【準備学習（30分）】2月の保育実習Ⅰ（保育所）に備えて、言葉の領域に関連する部分実習指導案を作成すること。 【事後学習（37分）】授業内の学びを参考に、自分で作成した部分実習指導案をあらためて見直すこと。	E

第12回	言葉での関わりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援	【準備学習（30分）】『子どもの育ちを支える子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編第8章 言葉のかかわりに配慮を要する子ども」を読み、概要を学んでおくこと。 【事後学習（37分）】授業内容やプリントをもとに、「言葉の関わりに配慮を必要とする子どもへの指導」について理解を深めること。	E
第13回	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財—ことばあそびについて学ぶ—	【準備学習（30分）】前期に学んだことばあそびに関連する事柄についてプリント等を復習しておくこと。 【事後学習（37分）】授業内容やプリントをもとに、児童文化財である「ことばあそび」について理解を深め、保育実践につなげる準備をしておくこと。	GW E
第14回 ⑬	言葉の発達を支える保育者のかかわり	【準備学習（30分）】『子どもの育ちを支える子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編第7章 子どもの育ちを支える保育者の言葉」を読み、概要を学んでおくこと。 【事後学習（37分）】今まで授業で学んだことを総合し、子どもの言葉の育ちを育む保育者の関わりについて重要であると思われることを整理すること。	E
テキスト 『子どもの育ちを支える子どもと言葉 改訂新版』浅見均編著 大学図書出版			
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館、『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 *その他、適宜授業内で資料を配布する。			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・各授業の最後にその授業のまとめ、振り返りと課題等に関するコメントを伝達する。 ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価 後期末レポート試験（40%）、授業後のレポート及び提出物（40%、後期授業内課題発表（20%）の総合評価			
実務経験 幼稚園教諭			
実務経験を活かした教育内容 ・第4回目、第5回目、第6回目の保育の内容の授業については、具体的な実践事例などを踏まえて、子どもの興味・関心や発達過程を踏まえた保育について学習する。 ・絵本、紙芝居、お話し、ペープサート、ことばあそび等、保育に活用される教材に関する授業では、児童文化財としての知識を学ぶとともに、指導案作成や保育場面を想定した発表等、実践力を高める。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
音楽表現 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		持齋 寛匡 篠原 万喜子
授業の概要						
領域「表現」で示されている音楽表現に関わる内容を踏まえて、子どもの表現の姿やその発達を理解する。また、季節の歌や楽器の奏法の学習を通して、子どもの表現を支えるための基礎的な表現技術高めるとともに、音楽を楽しむ心を養う。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築： 子どもの音楽的な表現遊びを豊かに展開するための音楽基礎理論、音楽表現活動についての知識を習得できる。						
② 技能・スキル形成： 保育者として基礎的な発声方法や楽器の奏法を習得し、音楽表現活動における基本的な支援技術を身に付けることができる。						
③ 理念・理解・探究： 保育における音楽表現遊びや音楽活動の意義、及びそれらを支援するための方法について理解できる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	ガイダンス ・声の出る仕組みや発声方法について学習する。 ・校歌を学ぶ。 ・『にじ』を学習する。			事前学習：自分自身と音楽の関わりについて発表できるようにしておく。(33分) 事後学習：授業時に行った発声練習を毎日行う。(34分)		E
第2回	・生活の歌を学ぶ（『朝のごあいさつ』『おかえりのうた』『せんせいとおともだち』『おべんとう』）。			事前学習：「童謡カレンダー」の目次に目を通し、掲載曲を把握する。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌を復習する。(34分)		E
第3回	・春を題材にした歌を学ぶ（『はるのおがわ』『チューリップ』『ぶんぶんぶん』）。 ・鈴とタンブリンの奏法を学習する。			事前学習：春がテーマの子どもの歌を調べる。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌と楽器の奏法を復習する。(34分)		E GW
第4回 ㊦	・校歌の歌唱テストを実施する。 ・動物を題材にした歌を学ぶ（『いぬのおまわりさん』『こたりのうた』『アイアイ』）。 ・鈴とタンブリンを用いて合奏を行う。			事前学習：校歌の歌詞と旋律を暗譜する。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌と楽器の奏法を復習する。(34分)		E GW
第5回	・『幼稚園教育要領』における「表現」のねらいについて学ぶ。 ・動物を題材にした歌を学ぶ（『おつかいありさん』『ぞうさん』）。 ・トライアングルの奏法を学習する。			事前学習：『幼稚園教育要領』の「表現」の項目に目を通す。(33分) 事後学習：「表現」のねらい、学習した歌、楽器の奏法について復習する。(34分)		E GW
第6回	・鍵盤ハーモニカの奏法や息づかいについて学ぶ。 ・自然を題材にした歌を学ぶ（『あおいそらにえをかこう』『にじのむこうに』）。 ・トライアングルとタンブリンを用いて合奏を行う。			事前学習：インターネットを用いて、鍵盤ハーモニカの奏法について調べる。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌と楽器の取り扱いについて復習する。(34分)		E GW
第7回	・梅雨の時期や夏を題材にした歌を学ぶ（『あめふりくまのこ』『南の島のハメハメハ大王』『とんでったバナナ』）。 ・カスタネットの奏法を学習する。 ・鍵盤ハーモニカの練習			事前学習：梅雨の時期に歌う子どもの歌について調べる。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌と楽器の奏法について復習する。(34分)		E GW

第8回	・夏を題材にした歌を学ぶ（『おばけなんてないさ』『うみ』）。 ・カスタネットと鈴を用いて合奏を行う。 ・鍵盤ハーモニカの練習	事前学習：夏に関連した子どもの歌について調べる。（33分） 事後学習：授業時に学習した歌と楽器の奏法について復習する。（34分）	E
			GW
第9回	・子どもを題材にした歌を学ぶ（『ハッピーチルドレン』『ともだちさんか』『世界中の子どもたちが』）。 ・小太鼓の奏法を学習する。 ・鍵盤ハーモニカの練習	事前学習：子どもをテーマとする歌について調べる。（33分） 事後学習：授業時に学習した歌と楽器の奏法について復習する。（34分）	E
			GW
第10回	・手遊びや身体を使いながら歌う歌を学ぶ（『ちゃつみ』『線路は続くよどこまでも』）。 ・木琴の奏法を学習する。 ・鍵盤ハーモニカの練習	事前学習：手遊びをしながら歌う子どもの歌について調べる。（33分）。 事後学習：授業時に学習した歌と楽器の奏法について復習する。（34分）	E
			GW
第11回 ㊦	・歌唱のテスト ・鍵盤ハーモニカのテスト	事前学習：歌唱及び鍵盤ハーモニカの試験曲の練習を行う。（33分） 事後学習：テストの反省を踏まえて課題曲をもう一度練習する。（34分）	E
第12回 ㊦	・筆記テスト ・鉄琴の奏法を学習する。 ・鍵盤ハーモニカの練習	事前学習：筆記テストに向けて学習する。（34分） 事後学習：合奏の楽譜に目を通し、各自のパートを把握する。（33分）	E
			GW
第13回	・新しいこどもの歌を学ぶ（『きみのこえ』『ぼよよん行進曲』『あしたははれる』）。 ・既習の楽器を用いて合奏を行う。	事前学習：授業で取り上げる曲を事前に聴いておく。（33分） 事後学習：授業時に学習した歌を復習し、音の重なりについて考える。（34分）	E
			GW
第14回	前期のまとめ ・前期に学習した歌や合奏をグループで楽しむ。	事前学習：前期の内容の振り返りをする。（33分） 事後学習：前期を経て身につけた技能や音楽表現に対する考え方をまとめる。（34分）	E
			GW
テキスト 「幼児のための音楽教育」教育芸術社 「ポケットいっぱいうた」教育芸術社 「合奏楽譜ベストセレクション」ひかりのくに 「童謡カレンダー」東亜音楽出版			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 / ※別途参考書を授業の中で紹介する。			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢・各回の履修カルテ（30%）、実技テスト及び筆記テスト（70%）			
実務経験 小学校及び中学校の音楽科教員、専門学校講師（音楽表現）、声楽家、合唱指揮者 ※中学校及び高等学校教諭一種免許（音楽）、幼稚園教諭二種免許、子どものためのリトミック指導資格（ディプロマA）			
実務経験を活かした教育内容 様々な教育現場、及び社会における活動の中で得た知識・技能・表現方法をもとに、実践的な授業を行う。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
音楽表現の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1 学年 後期		持齋 寛匡
授業の概要 幼児期に育みたい資質・能力を理解し、子どもの発達を踏まえた上で、表現領域の一分野である音楽の楽しさを子どもに伝え、また子どもから様々な表現を引き出すことのできる指導法を身に付ける。						
授業の到達目標 ① 知識の獲得・構築： 保育に音楽を取り入れる有用性について述べることができる。 ② 技能・スキル形成： 子どもが強い興味関心を持ち、音楽表現を楽しむことができる指導技術・技能を習得できる。 ③ 理念・理解・探究： 子どもの日頃の遊びを豊かにするための音楽表現を探究し、その指導・支援方法について理解できる。						
ディプロマポリシーとの関連 D P II④						
授業計画【A L】 D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	ガイダンス ・保育現場を想定した発声の指導法について学習する。 ・秋を題材にした歌を学ぶ（『きのこ』『どんぐりころころ』『とんぼのめがね』）。 ・既習の楽器を用いて『さんば』の合奏を行う。			事前学習：前期に学習した発声方法について復習しておく。(33分) 事後学習：授業時に学習した発声の指導法についてまとめる。(34分)		E
						GW
第2回	・校歌を復習する。 ・『てのひらをたいように』『やきいもグーチャーパー』『ホ・ホ・ホ』を学ぶ。 ・鍵盤ハーモニカの練習			事前学習：校歌の歌詞や旋律を復習しておく。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌を復習する。(34分)		E
						GW
第3回	・日本に伝承されているわらべ歌について学習する(1)。 ・学習した歌に楽器を取り入れる。			事前学習：知っているわらべ歌についてまとめる。(33分) 事後学習：授業時に学習したわらべ歌と手遊びを復習する。(34分)		E
						GW
第4回	・日本に伝承されているわらべ歌について学習する(2)。 ・学習した歌に楽器を取り入れる。			事前学習：学習したわらべ歌を手遊び付きで覚える。(33分) 事後学習：授業時に学習したわらべ歌と手遊びを復習する。(34分)		E
						GW
第5回	・新しい子どもの歌を学ぶ（『おはよう』『まほうのくつ』『きみイロ』）。 ・ダルクローズ、オルフ、コダーイ、スズキなどの音楽教育メソッドの特色を学ぶ。			事前学習：学習したわらべ歌を手遊び付きで覚える。(33分) 事後学習：授業時に学習した音楽教育メソッドの特色をまとめる。(34分)		E
						GW
第6回	・『おもちゃのチャチャチャ』『歌えバンバン』『ドレミの歌』を学ぶ。 ・グループに分かれて合奏を行う。			事前学習：授業で取り上げる曲を事前に聴いておく。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌を復習する。(34分)		E
						GW
第7回	・『カレンダーマーチ』『あらかどだ』『ぼくのミックスジュース』を学ぶ。 ・子どもの年齢に応じた楽器編成を学ぶ(1)。			事前学習：子どもの年齢に応じた楽器編成について調べる。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌を復習する。(34分)		E
						GW
第8回	・『にんげんていいな』『もりのくまさん』『小さな世界』を学ぶ。 ・『やさいのきもち』のリズム練習を行う。 ・子どもの年齢に応じた楽器編成を学ぶ(2)。			事前学習：授業で取り上げる曲を事前に聴いておく。(33分) 事後学習：授業時に学習した歌を復習する。(34分)		E
						GW

第9回	・冬を題材にした歌を学ぶ（『北風小僧の寒太郎』『雪』『お正月』）。 ・子どもの年齢に応じた楽器編成を学ぶ（3）。	事前学習：冬に関連した子どもの歌について調べる。（33分） 事後学習：子どもの年齢に応じた楽器編成について整理する。（34分）	E
			GW
第10回	・クリスマスを題材にした歌を学ぶ（『きよしこのよる』『おめでとうクリスマス』『あわてんぼうのサンタクロース』）。 ・ハンドベルの奏法について学習する。	事前学習：クリスマスに関連した子どもの歌について調べる。（33分） 事後学習：授業時に学習したハンドベルの奏法を復習する。（34分）	E
			GW
第11回 ㊦	・歌唱のテスト ・楽器のテスト	事前学習：歌唱及び鍵盤ハーモニカの試験曲の練習を行う。（33分） 事後学習：テストの反省を踏まえて課題曲をもう一度練習する。（34分）	E
第12回 ㊦	・筆記テスト ・『おにのパンツ』を歌と踊り付きで学習する。	事前学習：筆記テストに向けて学習する。（34分） 事後学習：授業時に学習した歌を振り付きで復習する。（33分）	E
			GW
第13回	・卒園に向けた歌を学ぶ（『一年生になったら』『思い出のアルバム』『ありがとうの花』）。 ・既習の楽器を用いて合奏を行う。	事前学習：クリスマスに関連した子どもの歌について調べる。（33分） 事後学習：授業時に学習した歌を復習する。（34分）	E
			GW
第14回	後期のまとめ ・後期に学習した歌や合奏をグループで楽しむ。	事前学習：後期の内容の振り返りをする。（33分） 事後学習：後期を経て身につけた技能や音楽表現に対する考え方をまとめる。（34分）	E
			GW
テキスト 「幼児のための音楽教育」教育芸術社 「ポケットいっぱいのおうた」教育芸術社 「合奏楽譜ベストセレクション」ひかりのくに 「童謡カレンダー」東亜音楽出版			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 / ※別途参考書を授業の中で紹介する。			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。			
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢・各回の履修カルテ（30%）、実技テスト及び筆記テスト（70%）			
実務経験 小学校及び中学校の音楽科教員、専門学校講師（音楽表現）、声楽家、合唱指揮者 ※中学校及び高等学校教諭一種免許（音楽）、幼稚園教諭二種免許、子どものためのリトミック指導資格（ディプロマA）			
実務経験を活かした教育内容 様々な教育現場、及び社会における活動の中で得た知識・技能・表現方法をもとに、実践的な授業を行う。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
造形表現 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		兼子 真理
授業の概要 幼稚園・保育園での造形・絵画指導の経験をもつ担当教員により、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的視点を提示しながら学ぶ。幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につけると同時に演習を通して表現活動の楽しさを体験する。						
授業の到達目標 ① 知識面：基礎的な造形に関する知識・技能について習得することができる ② 技能・スキル形成：子どもが強い興味関心を持ち、造形表現を楽しむことができる指導技術・技能を習得できる ③ 理念・理解・探究：子どもの表現活動を支援するための感性を身につけると同時に発達段階を踏まえ、表現活動について理解することができる						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法		事前（準備）・事後学習の内容			AL
第1回	ガイダンス 5領域 表現のねらい等授業展開の説明		事前学習では教科書 第1章 P.90～92 を読む (34分) 事後学習では学んだことを次回に活かせるよう準備をする (33分)			P D
第2回	「新聞紙であそぶ」意義、目的を学ぶ		事前学習では教科書をP.69とP.71を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33分)			GW E
第3回	身の周りの紙の特徴を学ぶ		事前学習では教科書をP.68～69を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33分)			P E
第4回	描画材料 クレヨン・クレパス・コンテパステルの種類と特徴		事前学習では教科書をP.12～13を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33分)			P E
第5回	絵の具の性質を学ぶ		事前学習では教科書をP.8～11を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33分)			P E
第6回	絵の具の機能と技法あそび①		事前学習では教科書をP.23を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33分)			P E

第7回	絵の具の機能と技法あそび② 技法あそびの目的と意義	事前学習では教科書を P. 24 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34 分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33 分)	P
			E
第8回	絵の具の導入① 筆を使用する前段階	事前学習では教科書を P. 15～17 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34 分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33 分)	P
			E
第9回	絵の具の導入②	事前学習では教科書を P. 10 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34 分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33 分)	P
			E
第10回	版画①フロタージュ	事前学習では教科書を P. 33 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34 分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33 分)	P
			E
第11回	版画②糸引き模様	事前学習では教科書を P. 26～28 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34 分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33 分)	P
			E
第12回	版画③デカルコマニー	事前学習では教科書を P. 25 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34 分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33 分)	P
			E
第13回	版画④マーブリング	事前学習では教科書を P. 29 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34 分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33 分)	P
			E
第14回	版画⑤スタンピング	事前学習では教科書を P. 23 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34 分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33 分)	E
テキスト 吉田収 宮萬万寿美 編著「造形表現」青踏社			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 授業で取り扱う提出物について最終回に解説しながら、フィードバックする			
学生に対する評価 演習・授業への取り組み・態度（50％）提出物スケッチブック課題（50％）の総合評価			

実務経験

幼稚園、保育所の造形絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師

実務経験を活かした教育内容

保育所、幼稚園での造形・絵画指導の実務経験を活かし、実践的な造形技法を提示する

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
造形表現の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期		兼子 真理
授業の概要						
乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深める。幼稚園・保育所の造形絵画指導の経験をもつ担当教員により、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。						
授業の到達目標						
① 知識面：保育内容の各領域を総合的に捉えることができる						
② 技能：表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導方法を習得することができる						
③ 理念・理解・探究：実践を重ね、総合的な表現活動を計画・指導・実践する力を身につけることができ、子どもの発達を理解し、好奇心や探究心をもつことができる						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画【AL】 D：ディスカッション・デバート、GW：グループワーク、P：プレゼンテーション、F：フィールドワーク、E：実技、実習、課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	描画の発達段階			事前学習では教科書P.44～51を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（34分） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にまとめる（33分）		P D
第2回	折り紙を使用した制作			事前に教科書P.85～86を読み必要な材料を準備する（34分） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容をわかりやすくまとめる（33分）		GW E
第3回	壁面制作			事前学習では教科書をP.84を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（34分） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる（33分）		P E
第4回	紙版画			事前学習では教科書をP.34を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（34分） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容をまとめる（33分）		P E
第5回	パクパク人形①			事前学習では教科書をP.80を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（67分） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる		P E
第6回	パクパク人形②			事前学習では教科書をP.79を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（34分） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる（33分）		E
第7回	幼児造形で使用される粘土①（紙・油・泥・小麦粉）			事前学習では教科書をP.53を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（34分） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる（33分）		P E
第8回	クリスマスカード（ステンシル）			事前学習では教科書をP.36～37を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（67分）		P E

第9回	クリスマスの飾り①	事前学習ではクリスマスオーナメントについて調べ、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33分)	P E
第10回	クリスマスの飾り②	事前学習では、子どもの発達を考え、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる (33分)	P E
第11回	実践を踏まえた制作	事前学習では教科書P.78を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容をまとめる (33分)	P E
第12回	パネルシアター作成	事前学習では教科書をP.81を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (34分) 事後学習では演じ方の本を読み、実際に演じてみる (33分)	P E
第13回	指導案に沿って模擬保育を行う	事前学習では指導案を作成する (34分) 事後学習では学習を振り返り、改善点を考える (33分)	P E
第14回	まとめ	事前学習では学んだことを振り返り、まとめる (67分) 事後学習ではスケッチブックに学んだ技法や対象年齢、留意点をまとめ実践力を身につける	P E
テキスト 吉田収 宮川萬寿美 編著「造形表現」 青踏社			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 授業で取り扱う提出物について最終回に解説しながら、フィードバックする			
学生に対する評価 演習・授業への取り組み・態度（50%）提出物スケッチブック課題（50%）の総合評価			
実務経験 幼稚園、保育所の造形絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師			
実務経験を活かした教育内容 保育所、幼稚園での造形・絵画指導の実務経験を活かし、実践的な造形技法を提示する			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術	担当教員名
子どもの生活と遊びⅠ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2 学年 前期	・ 実務	滝口 節子 鵜野澤 武美 兼子 真理 佐々木 美奈子
授業の概要						
乳幼児期の子どもは、日常の生活の中から様々な体験を積み重ねている。子どもが豊かな生活を送るために保育者として必要な知識や技術を実践的に学ぶ。また、季節や日本の自然や風土に根差した、子どもの遊びや生活について理解を深める。						
授業の到達目標						
① 知識面：子どもは環境の中で自らを発揮しながら、遊びを通して園生活を楽しむ。日本の春・夏の季節を感じ、日本の伝統文化、行事を総合的に実践し、子どもの生活を質の高い生活へと援助する知識を習得することができる。						
② 技術面：豊かな保育実践に必要な生活の基礎を身につけることができる						
③ 理念・理解・探究：学んだことを指導案作成の作業を通し、保育と関連付けられる考え方を理解し、技術を習得することができる						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ④						
DPⅠ－2②						
授業計画【AL】 D：ディスカッション・イベント、GW：グループワーク、P：プレゼンテーション、F：フィールドワーク、E：実技、実習、課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	ガイダンス(授業の概要説明・導入) ファイル作り(技法：コラージュ) 夏祭りに向けて			事前学習：コラージュについて調べ、必要なもの(広告・雑誌)を準備する(34分) 事後学習：学習内容を振り返り、ファイルにまとめる(33分)		GW
第2回	日本の伝統文化や行事について知る 園で行われている行事を知り、子どもの生活にどのように取り入れられているか学ぶ			事前学習：園ではどのような伝統行事を行っているかインターネット等で調べる(34分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(33分)		D
第3回	子どもが親しむ季節の遊びを知る 子どもの遊びや、環境について学ぶ 季節の遊びについて、グループディスカッションを行う			事前学習：自分が子どもの頃に遊んだ各季節の遊びを書き出してくる(34分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(33分)		GW D
第4回	お祭りの音楽に親しむ。 お祭りの音楽のリズムパターンを楽器や手拍子で表現する。			事前学習：お祭りの音楽について調べ、音楽の特徴を把握する(34分)。 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(33分)。		D GW
第5回	お囃子の旋律や、リズムパターンを組み合わせ、お祭りの音楽(合奏)を練習する。			事前学習：リズムパターンを手拍子できるようにする(34分)。 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(33分)。		GW E
第6回	お祭りの音楽(合奏)を通して、お囃子の旋律やリズムを体感する。			事前学習：合奏曲全体を把握し、リズムを手拍子できるようにする(34分)。 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(33分)。		GW E
第7回	園行事「夏まつり」「縁日ごっこ」等の夏の行事について知る			事前学習：縁日について、どのようなものがあるのか調べる(34分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(33分)		P D
第8回	実際に担当するお店屋さんについて話し合う			事前学習：グループを分け内容を決める(34分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(33分)		P D

第9回	伝統行事「七夕」の由来等について知る	事前学習：「七夕飾り」について調べる（34分） 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）	P E
第10回	「夏まつり」の準備①	事前学習：グループ内で必要な材料を集め、制作する準備をする（34分） 事後学習：学習した内容を振り返りファイルにまとめる（33分）	GW F
第11回	「夏まつり」の準備②	事前学習：グループ内で実際に行う準備をする（34分） 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）	E F
第12回	「夏まつり」の片付け	事前学習：グループ内で担当する役決め・話し合い（34分） 事後学習：学習した内容を写真添付し、ファイルにまとめ（33分）	D E
第13回	水を使った遊びの実践 色水遊び 泡ヨーヨー	事前学習：水を使った遊びについて本やインターネットで調べる（34分） 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）	GW
第14回	まとめ	事前学習：今までの資料を読み返し整理しておく（67分） 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる	
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業内で随時、紹介する			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・子どもの生活と遊びⅠ・Ⅱ・Ⅲを通じて、一つのファイルにまとめ、発表する。			
学生に対する評価 授業学習に関して積極的に取り組む姿勢（30%）、課題・発表（70%）の総合評価			
実務経験 兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師 鵜野澤武美 幼稚園の幼稚園教諭・園長、認定こども園園長、保育士 滝口節子 保育所の保育士			
実務経験を活かした教育内容 音楽担当は、行事に沿った音楽を通して、音遊びを学ぶ。造形担当は、幼稚園、保育所での絵画指導、幼児対象の造形ワークショップの指導経験のある教員による授業である。夏の行事「夏まつり」の遊び「縁日ごっこ」について造形の技法を用いて具体的に学ぶ。第2回、第3回、13回は、幼稚園教諭・園長の経験を持つ教員による授業である。子どもの遊びや伝統行事を知り、事例の検討や体験を通して園での子どもの生活について理解を深める。また、学んだことが実践に結びつくよう実務経験を活かした掲示をする。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 滝口 節子 兼子 真理 佐々木 美奈子
子どもの生活と遊びⅡ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 後期		
授業の概要						
・乳幼児期の子どもは、日常の生活の中から様々な体験を積み重ねている。子どもが豊かな生活を送るために保育者として必要な知識や技術を実践的に学ぶ。						
・季節や自然・風土に根差した、子どもの遊びや生活について理解を深める。						
① 知識面：子どもは環境の中で自らを発揮しながら、遊びを通して園生活を楽しむ。日本の秋・冬の季節を感じ、日本の伝統文化、行事を総合的に実践し、子どもの生活を質の高い生活へと援助する知識を習得することができる。						
② 技術面：豊かな保育実践に必要な生活の基礎を身に着けることができる。						
③ 理念・理解・探究：学んだことを指導案作成の作業を通し、保育と関連付けられる考え方を理解し、技術を習得することができる。また、子どもの好奇心や探究心の芽生えをはぐくむことができる。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ④						
DPⅠー2②						
授業計画【AL】 D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	ガイダンス 「音楽表現」「造形表現」の専門領域を活かし 保育の実践力とは			事前学習：乳幼児期の楽しかった思い出を書き出す（34分） 事後学習：学習した内容をファイルにまとめる（33分）		D
						F
第2回	秋の遊び 「オータムボックス」作り			事前学習：葉っぱを広い、集めた葉っぱの種類について調べる（34分） 事後学習：制作した「オータムボックス」の写真を撮り、ファイルにまとめる（33分）		P
						E
第3回	冬の遊び 「毛糸遊び」 ポンポン作りや雪の結晶、			事前学習：子どもの頃にした冬の遊びについて調べる（34分） 事後学習：学習した内容をファイルにまとめる（33分）		E
						F
第4回	オリジナルバッグ作り			事前学習：日本の四季について調べる（34分） 事後学習：制作したバッグの写真を撮り、ファイルにまとめる（33分）		P
						E
第5回	クリスマスカード制作			事前学習：クリスマスカードに必要な材料を準備し、デザインを考える（34分） 事後学習：制作したカードの写真を撮り、ファイルにまとめる（33分）		E
						F
第6回	クリスマスソングや賛美歌の演奏を通して、曲の雰囲気やハーモニーの美しさを知覚する。			事前学習：クリスマスの歌について調べ、音楽の特徴を把握する（34分）。 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）。		D
						GW
第7回	ハンドベルの音色や基本的な演奏方法を理解する。			事前学習：クリスマスソングや賛美歌のメロディーを歌えるようにする（34分）。 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）。		GW
						E
第8回	様々な楽器を組み合わせて、クリスマスの音楽（合奏）を行う。			事前学習：クリスマスの音楽（合奏）の予習を行う（34分）。 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）。		GW
						E

第9回	音楽を通して、クリスマスを楽しむを味わう。	事前学習：合奏の担当部分をリズム打ちできるようにする（34分）。 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）。	GW E
第10回	みんなで楽しむ「クリスマス会」 子どもが好きな行事について知る	事前学習：クリスマスについて調べる（34分） 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）	P F
第11回	「クリスマス会」準備①	事前学習：グループ内で必要な材料を集め、制作する準備をする（34分） 事後学習：学習した内容を振り返りファイルにまとめる（33分）	GW E
第12回	「クリスマス会」準備②	事前学習：グループ内で実際に行う準備をする（34分） 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる（33分）	GW E
第13回	「クリスマス会」片付け	事前学習：グループ内で担当する役決め・話し合い（34分） 事後学習：学習した内容を写真添付し、ファイルにまとめ（33分）	GW F
第14回	まとめ	事前学習：授業時の配布資料をまとめる（67分） 事後学習：学習内容を振り返る I、II、IIIの全てをファイルにまとめる	P F
テキスト ・説明用資料を授業内で配布する			
参考書・参考資料等 ・「保育を支える生活の基礎」萌文書林 ・授業内で随時、紹介する			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 ・子どもの遊びと生活 I・II・IIIを通じて、課題はファイルにまとめ授業内で発表する			
学生に対する評価 授業学習に関して積極的に取り組む姿勢（30%）、課題・発表（70%）の総合評価			
実務経験 兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師 滝口節子 保育所の保育士			
実務経験を活かした教育内容 行事に沿った音楽を通して、音遊びを学ぶ。造形担当は、幼稚園、保育所での絵画指導、幼児対象の造形ワークショップの指導経験のある教員による授業である。冬の行事「クリスマス会」を迎えるまでの準備等を造形の技法を用いて具体的に学び、自然・素材・教材への理解を深める。また、学んだことが実践に結びつくよう実務経験を活かした掲示をする。			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの生活と遊びⅢ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2 学年 前期		堀内 弓子 佐久間 博子
授業の概要						
保育の基本を踏まえた保育内容を展開するために、子どもの生活や発達の連続性を考慮し、遊びを通して多様で活発な動きを引き出す指導力を身につける。身近な素材や親しみのある童謡を活用した「身体表現」や保育所等で大切にされてきた運動文化財を使った遊びを取り上げる。それぞれの運動特性、遊具の取り扱いの習熟、指導の目標と方法について理解を深める。特に運動発達の視点から「育みたい資質・能力」を育てる指導援助のあり方について学ぶ。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得：保育の基本を踏まえた多様で活発な運動遊びの展開方法についての知識を得る。						
② 技能・スキル形成：子どもの発達の連続性を考慮した運動遊び指導ができ、子どもと一緒に楽しむことができる。						
③ 理念・理解・探究：子どものからだと心の健康を保証するため、自らが熱心に教材研究できる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ②③④						
授業計画【AL】D：ディスカッション・デバート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	ガイダンス(授業の進行・テキストの活用法) 「いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす」(1) 『普段しない動きをする(発達に役立つ多様で活発な動きをする)』運動遊びを考える。テキスト(以下(7)とする)p46～49 歌って運動・小型遊具(縄)遊び発表			事前学習：保育所保育指針、幼稚園教育要領等を熟読しておく(30分)。 事後学習：子どもの遊びを変化発展させるポイントを実践的に学んだ上で、子どもと関わる工夫を考える(40分)。		E GW
第2回 ㊦	多様で活発な動きをする「遊びのポケット」を増やすため、図書を活用して指導案を作成し、提出する。			事前学習：第1回のテキスト該当箇所を読み、実践したことで、わかったことや考えたことを復習しておく(30分)。 事後学習：子どもをイメージして考えた運動遊びの環境構成を考える(40分)。		E
第3回	「いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす」(2) イメージを膨らませて行う身体表現遊びや異年齢の運動遊びを実践し、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ。(7) p 58～61 新聞紙、折り紙、紙コップ、トイレットペーパー芯、ダンボールなど「身近な素材を使った遊び」を発表			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：子どもがもっと遊びたい身体表現遊びや異年齢の遊びを実践的に学んだことから、保育の中での環境構成や援助方法を考える(40分)。		E GW
第4回	「日常の運動遊びを生かした運動会の工夫を知る」(1)(7) p 70～72 体操、各種リレー、平均台、大小三角コーン、リバーシ、フープ、跳び箱、巧技台、マットなどを活用 運動会に生かせる日常の運動遊びを発表			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：運動会に生かせる日常の運動遊びを体験して、保育への活かし方を考える(40分)。		E GW
第5回	「いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす」(3) 異年齢という特徴を生かした運動遊びを知る。(7) p 62～65 布(バルーンやスカーフ)を使った遊びを発表			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：子どもと行ってみたい異年齢で遊べる伝承遊びの遊び方を考える(40分)。		E GW
第6回	「日常の運動遊びを生かした運動会の工夫を知る」(1)(7) p 70～72 親子体操、障害物競走、玉入れ 他 作成した指導案実現のために必要なものを準備する。			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：運動会に生かせる日常の運動遊びを体験して、保育への活かし方を考える(30分)。		E GW

第7回	親子で遊ぶ準備① 指導者役、サポート役、実際の親子役と役割を決めて考えた遊びを発表する。 改善点を見出し、遊び案を修正し、提出する。	事前準備：親子遊びの目的や内容を思い起こし、発表に向けての準備をしておく(30分)。 事後学習：考えた遊び案で親子がどのように遊ぶかイメージしておき、指導や援助内容を考えておく(30分)。	D
			GW
第8回	親子で遊ぶ準備② 指導者役、サポート役、実際の親子役と役割を決めて考えた遊びを発表する。	事前準備：これまでの活動を思い起こし、手際よく準備できるようにしておく(30分)。 事後学習：考えた遊び案を実践してみたことで、わかったことや今後の課題をまとめておく(30分)。	GW
第9.10回	親子で遊ぶ準備③ 遊べる空間をつくり、遊び指導を実践する。	事前準備：これまでの活動を思い起こし、スムーズに実践できるように自分の役割を再確認しておく(30分)。 事後学習：考えた遊び案を実践してみたことで、わかったことや今後の課題をまとめておく(30分)。	E
			GW
第11回 ㊦	幼児期の模倣あそびとその実際(新聞紙ダンス) 幼児期の模倣運動から得られる発育発達を理解し、子どもが楽しめる模倣あそびを体験する。 親子遊び指導の振り返りレポート提出	事前学習：配布資料を読み、子どもにとっての模倣あそびの意義を押さえておく。(30分) 事後学習：授業で学修した模倣あそびを参考にして年齢ごとの発達段階の違いによって「できる動き」をまとめておく。(30分)	E
			GW
第12回	「あそびの動き集」づくり 乳幼児における年齢ごとの運動機能の発達を押さえながら、前回実施した「新聞紙ダンス」の動きを拾い上げ、レポートする。	事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。(30分) 事後学習：本教材である「新聞紙あそび」を素材とした運動遊びを調べてまとめておく。(30分)	D
			GW
第13回	身近な遊具を使った運動遊び 「ボール・なわ・つな」を用いた運動遊びを考え、グループで体験する。	事前学習：「ボール・なわ・つな」を用いた運動遊びを調べておく。(30分) 事後学習：本時で学んだ運動遊びをまとめておく。(30分)	GW
			E
第14回 ㊦	身体表現の簡単創作 いくつかの童謡の中から各自が選択した歌の歌詞を身体で表現してみる。対象年齢の子どもが模倣しながらその場で楽しめる動きを考える。	事前学習：予め歌詞からイメージする身体表現のイメージづくりをしておく。(30分) 事後学習：創作した身体表現をまとめておく。(30分)	E
テキスト 石濱加奈子・堀内弓子著(他)『子どもの運動・遊び』アイ・ケイ コーポレーション、2021年			
参考書・参考資料等 授業内で随時、紹介する。			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 理解度を確保するためのテストや提出レポート等については、返却時に授業内で解説を行う。			
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(30%)と提出レポート等(70%)の総合評価			
実務経験 堀内弓子(保育所体育指導)、佐久間博子(幼稚園体育講師)			
実務経験を活かした教育内容 授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。			

授業担当：堀内→1～5、8～10回 佐久間→6～14回

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育方法論 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 2学年 後期		神蔵 幸子
授業の概要						
保育は「環境を通して行う」ことを基本としており、保育者には乳幼児の発達を理解し、それぞれの段階にふさわしい保育を展開することが求められている。年間を通した保育の流れを確認しながら、「遊びを通しての総合的な指導」の観点のもとに、さまざまな保育方法の具体的展開と工夫について学ぶ。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築：保育方法に関する基礎的知識、特に年間を通した保育内容に関連する知識を習得することができる。 ②技能・スキル形成：獲得した知識を保育計画に活かし、豊かな保育内容の実践に役立てることができる。 ③理念・理解・探究：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を理解して、年間の生活を見通しながら子どもの発達段階に応じた適切な保育内容の工夫ができるようになる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ②						
授業計画表【AL】 D：ディスカッション・ディベート，GW：グループワーク，P：プレゼンテーション，F：フィールドワーク，E：実技，実習，課題						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				AL
第1回	保育を支える生活の基礎について 「方法」を考えるとときに大切なこと	事前学習：各回の内容をシラバスで確認する。（34分） テキスト第1章を読み、興味をもった箇所に下線を引く。（33分）				GW D
第2回	4月の保育 子どもたちの遊びの始まりを視野に入れた環境構成	事前学習：テキスト第2章第1節に目を通し、年間の活動を確認しておく。また自分の実習で体験できた遊びを整理しておく。（67分）				GW P
第3回	5月の保育 日本の祝日や伝統行事を子どもたちに伝える	事前学習：教育要領、保育指針、教育。保育要領の各解説書の、第2章「環境」の内容の取扱い（4）を熟読し、理解を深めておく（67分）				GW P
第4回 ㊦	6月の保育 子どもたちの遊びを援助する方法を探る	事前学習：責任実習で行った活動を見直し、新たに気付いた援助のポイントを整理しておく。（67分）				D
第5回	7月の保育 子どもの発達にふさわしい季節の行事の活動内容を考える	事前学習：テキスト第2章第2節に目を通し、各月に行いたい行事について必要な準備期間を見通しておく。（67分）				GW P
第6回	8月の保育 生活習慣を育てる保育の方法を探る	事前学習：テキスト第3章全体に目を通し、生活に関する活動について気付いたことを整理しておく。（67分）				GW
第7回	9月の保育 高齢者との交流の保育内容を考える 避難訓練の計画を概観する	事前学習：教育要領、保育指針、教育。保育要領の各解説書の、第2章「人間関係」の内容（13）を熟読し、理解を深めておく（67分）				D
第8回	10月の保育内容 子どもの育ちに即した援助の方法について	事前学習：発達心理学等のテキストを見直し、子どもの発達段階について確認しておく。（67分）				D
第9回	11月の保育 保育方法における人権を尊重した関わりについて	事前学習：インターネットで「人権週間」について調べ、保育における人権尊重について考えておく。（67分）				D

第10回	12月の保育 外国にルーツをもつ子どもへの援助の方法を探る	事前学習：保育所保育指針、幼稚園教育要領における関連箇所を確認し、実習での体験を振り返っておく。(67分)	GW
第11回 ㊦	1月の保育 家庭との連携を視野に入れた保育の方法について	事前学習：実習園からいただいた園だより等の資料を見直して、家庭との連携に関する記事を持参する。(67分)	GW
第12回	2月の保育 小学校との接続に関する保育方法の留意点	事前学習：5歳児教育プログラムを確認し、就学前と就学後の学び方の違いを理解しておく。(67分)	D
第13回	3月の保育 保育内容5領域を総合的にとらえる視点	事前学習：教育要領、保育指針、教育。保育指針の3歳以上児の5領域のねらい・内容を確認しておく。(67分)	D
第14回 ㊦	第1～13回目の学習内容の振り返り 授業内小テスト(筆記)と解説	事前学習：配布資料やノートを整理し、不明な点はテキスト等で確認する。(67分)	
テキスト 神蔵幸子・中川秋美編著『保育を支える生活の基礎』萌文書林 プリント資料(各回の内容に関する事例を配布する。)			
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 久富陽子・梅田優子『保育方法の実践的理解』萌文書林			
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 各回の授業の省察の記録については、内容を確認し必要に応じてコメントを付して返却する。 授業内小テストについては、終了後解説を行う。			
学生に対する評価 指定用紙による授業の省察の記録(40%)、小テスト(30%)、授業への意欲・参加度(30%)			

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育環境構成技術(音楽) I A (専門教育科目)	選択	必修	本学 指定	開講期： 1 学年 前期		篠原 万喜子 佐々木 美奈子 大石 由起子 花田 えり佳
授業の概要						
表現活動を行うための基礎知識・基礎技能を習得し、表現力を身に付ける。 現場に備えられていることの多い鍵盤楽器（ピアノ他）を用いながら、表現する技術を習得する。 保育環境構成技術(音楽) I Aは、春と夏の童謡を中心に取り組む。 実習に備え、実習園などで歌われている曲や「生活のうた」なども習得する。						
授業の到達目標						
各自の基礎知識や実技経験に合わせた内容に沿って学ぶ。 初心者は、楽典の基礎知識を習得し、五線譜の音符と鍵盤の位置関係を理解する。また、現場で歌われている季節の童謡を知る。 ピアノ実技の基礎的な技術を習得する。指を片手ずつ動かすことから始め、両手で異なる動きができるようになる。そして保育現場で必要な童謡や生活のうたなどを、やさしい伴奏で弾き歌いができるようになる。 経験者は、今までに学習してきた楽典の基礎知識を復習し、また実技のスキルを確認し、必要な場合は修正をしながら習得していく。 保育現場で必要とされる童謡や、生活の流れの中にある音楽に取り組むことで、子どもと楽しく過ごすための活動ができるようになる。 童謡や行事のうたを中心に、季節に関わらず弾き歌いや合奏ができるようになる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	MLシステムの楽器の使い方 指番号と、高音部譜表の音符の読み方の習得 (メト・ローズ P. 4～7)			事前学習：入学前サポート学習で行った内容を復習する。(34分)		GW
				事後学習：第1回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。(33分)		E
第2回	五線、音部記号（楽典テキスト P. 4～7） 高音部譜表と低音部譜表の音符の読み方 (メト・ローズ P. 6～11)			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、前回課題となった内容を練習する。 (34分)		GW
				事後学習：第2回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 4～7 (33分)		E
第3回	譜表、音名（楽典テキスト P. 8～10） 異なる音部記号を見ながら右手と左手を同時に動かす練習(メト・ローズ P. 8～13)			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、前回課題となった内容を練習する。 (34分)		GW
				事後学習：第3回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 8～10 (33分)		E
第4回	広音域の音名（楽典テキスト P. 10～12） スラーとスラーを切る練習(メト・ローズ P. 12～14) 0.1 才児へ向けた童謡			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、第3回で課題となった内容を練習する。 (34分)		GW
				事後学習：第4回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 10～12 (33分)		E
第5回	音符（楽典テキスト P. 15～17） 左手の分散和音の伴奏形態を習得 (メト・ローズ P. 14～15) 0,1 才児へ向けた童謡			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、第4回で課題となった内容を練習する。 (34分)		GW
				事後学習：第5回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 15～17 (33分)		E

第6回	休符（楽典テキスト P. 15～17） ソのポジションを習得（メト・ロズ P. 15～17） 2才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第5回で課題となった内容を練習する。 （34分）	GW
		事後学習：第6回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 15～17（33分）	E
第7回	オクターブ（楽典テキスト P. 13～14） いろいろのポジションを習得 （メト・ロズ P. 17～19） 2, 3才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第6回で課題となった内容を練習する。 （34分）	GW
		事後学習：第7回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 13～14（33分）	E
第8回	リズムと拍子（楽典テキスト P. 18～21） 6度音程の習得（メト・ロズ P. 20～21） 3, 4才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第7回で課題となった内容を練習する。 （34分）	GW
		事後学習：第8回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 18～21（33分）	E
第9回	音符と休符2（楽典テキスト P. 22～23） 付点音符の練習（メト・ロズ P. 20～23） 4, 5才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第8回で課題となった内容を練習する。 （34分）	GW
		事後学習：第9回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 22～23（33分）	E
第10回	変化記号（楽典テキスト P. 38～41） 1年次教育・保育実習の準備 シャープ記号の練習（メト・ロズ P. 22～25） 4, 5才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第9回で課題となった内容を練習する。 （34分）	GW
		事後学習：第10回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 38～41（33分）	E
第11回	1年次教育・保育実習の準備 休符の練習（メト・ロズ P. 24～27） 課題曲演奏の準備 4, 5才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第10回までに取り組んだ内容を復習する。 （34分）	GW
		事後学習：第10回までに指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 「おべんとう」「おかえりのうた」を練習する。 （33分）	E
第12回	第1～11回までの復習（楽典テキスト） 8分音符の習得（右手のみ）（メト・ロズ P. 28～29） 課題曲の準備 2才児、5才児へ向けた童謡	事前学習：課題の発表曲を練習する。 （34分）	GW
		事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト第1～11回までの復習をする。 （33分）	E
第13回	第1～11回までの学習内容の振り返り・確認 （楽典テキスト） 8分音符の習得（左手にも8分音符を入れる） （メト・ロズ P. 28～31） 課題曲演奏の準備 0才児～5才児へ向けた童謡	事前学習：課題の発表曲を練習する。 （34分）	GW
		事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。（33分）	E
第14回	課題発曲演奏の準備	事前学習：課題の発表曲を練習する。 （34分）	GW
		事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次週の課題発表曲を練習する。（33分）	E
㊦	課題曲の演奏		

テキスト 内藤雅子著『楽譜の基礎をやさしく学ぶ おとなの楽典テキスト・ワーク』（株）デプロ MP エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド 安川加寿子訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社 吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1. Vol.2』音楽之友社
参考書・参考資料等 基礎的楽典等のプリントやピアノ実技計画一覧 必要に応じて、弾きやすい簡易楽譜を作成し資料として使用
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 課題曲演奏発表後、未習得者へは、補習を行い指導する。
学生に対する評価 音楽の基礎知識定着度（40％）、課題発表における音楽表現力（40％） グループ授業を受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢（20％）の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 篠原 万喜子 佐々木 美奈子 大石 由起子 花田 えり佳
保育環境構成技術(音楽) I B (専門教育科目)	選択	必修	本学 指定	開講期： 1学年 後期		
授業の概要						
表現活動を行うための基礎知識・基礎技能を習得し、表現力を身に付ける。 現場に備えられていることの多い鍵盤楽器（ピアノ他）を用いながら、表現する技術を習得する。 保育環境構成技術（音楽）I Bは、秋と冬の童謡を中心に取り組む。 実習に備え、実習園などで歌われている曲や「生活のうた」なども習得する。						
授業の到達目標						
各自の基礎知識や実技経験に合わせた内容に沿って学ぶ。 初心者は、楽典の基礎知識を習得し、五線譜の音符と鍵盤の位置関係を理解する。また、現場で歌われている季節の童謡を知る。 ピアノ実技の基礎的な技術を習得する。指を片手ずつ動かすことから始め、両手で異なる動きができるようになる。そして保育現場で必要な童謡や生活のうたなどを、やさしい伴奏で弾き歌いができるようになる。 経験者は、今までに学習してきた楽典の基礎知識を復習し、また実技のスキルを確認し、必要な場合は修正をしながら習得していく。 保育現場で必要とされる童謡や、生活の流れの中にある音楽に取り組むことで、子どもと楽しく過ごすための活動ができるようになる。 童謡や行事のうたを中心に、季節に関わらず弾き歌いや合奏ができるようになる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		AL
第1回	付点音符(楽典テキストP.22～23) 9月教育実習の振り返り 付点音符の習得（「ト・ド・レ」 P.32～33）			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 I Aの授業でI Bに向けて課題となった内容を予習する。（34分） 事後学習：第1回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキストP.22～23（33分）		GW
						E
第2回	3/8拍子、6/8拍子（楽典テキストP.18～21） 付点音符の習得（「ト・ド・レ」 P.32～33） 1,2才児へ向けた童謡			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第1回で課題となった内容を練習する。（34分） 事後学習：第2回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキストP.18～21（33分）		GW
						E
第3回	異名同音（楽典テキストP.42～43） フラット記号の習得（「ト・ド・レ」 P.33～35） 1,2才児へ向けた童謡			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第2回で課題となった内容を練習する。（34分） 事後学習：第3回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキストP.42～43（33分）		GW
						E
第4回	シンコペーション、強弱記号、楽語 （楽典テキストP.24～29） 3/8拍子と6/8拍子の習得（「ト・ド・レ」 P.36） 3,4才児へ向けた童謡			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第3回で課題となった内容を練習する。（34分） 事後学習：第4回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキストP.24～29（33分）		GW
						E
第5回	反復記号（楽典テキストP.30～31） 第5回目の応用曲（「ト・ド・レ」 P.36～37） 3,4才児へ向けた童謡			事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第4回で課題となった内容を練習する。（34分） 事後学習：第5回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキストP.30～31（33分）		GW
						E

第6回	音程①(楽典テキスト P. 44~47) 親指をくぐらせる練習 (メトードローズ P. 38) 3, 4 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第5回で課題となった内容を練習する。 (34分)	GW
		事後学習: 第20回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 44~47 (33分)	E
第7回	音程②(楽典テキスト P. 48~50) 復習と4課のまとめ (メトードローズ P. 38~39) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第6回で課題となった内容を練習する。 (34分)	GW
		事後学習: 第7回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 48~50 (33分)	E
第8回	音程③(楽典テキスト P. 48~50) 2つ以上の音を一度におさえる練習 (メトードローズ P. 40) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第7回で課題となった内容をする。 (34分)	GW
		事後学習: 第8回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 48~50 (33分)	E
第9回	ハ長調の音階とカデンツ(楽典テキスト P. 53) 第9回目の応用曲 (メトードローズ P. 40~41) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第8回で課題となった内容を練習する。 (34分)	GW
		事後学習: 第9回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 53 (33分)	E
第10回	ト長調の音階とカデンツ(プリント) ラの短調のポジションを習得 (メトードローズ P. 40~43) 課題発表の準備 2才児~5才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第9回で課題となった内容を練習する。 (34分)	GW
		事後学習: 第10回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。(33分)	E
第11回	簡単な和音付け ソの短調のポジションを習得 (メトードローズ P. 43~45) 課題発表の準備 2才児~5才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第10回で課題となった内容を練習する。 (34分)	GW
		事後学習: 第11回の復習と後期課題発表曲 を練習し、次回の授業へ臨む。(33分)	E
第12回	第1~24回までの復習(楽典テキスト) 後期学習内容の振り返り レの短調のポジションを習得 (メトードローズ P. 45~46) 課題発表の準備 2才児~5才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第11回までに取り組んだ内容を復習する。 (34分)	GW
		事後学習: 第12回の復習と後期課題発表曲 を練習し、次回の授業へ臨む。I Aの楽典 テキスト第1~13回、I Bの楽典テキスト 第1~12回の復習をする。(33分)	E
第13回	第1~24回までの復習(楽典テキスト) 課題曲演奏の準備 5課の復習 (メトードローズ P. 46~47) 2才児~5才児へ向けた童謡	事前学習: 後期課題の発表曲を練習する。 (34分)	GW
		事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。I Aの楽典テキスト 第1~13回、I Bの楽典テキスト第1~13 回の復習をする。(33分)	E
第14回	第1~24回までの復習(楽典テキスト) 課題曲演奏の準備	事前学習: 後期課題の発表曲を練習する。 (34分)	GW
		事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次週の課題曲演奏を練習する。(33分)	E
㊦	課題曲の演奏		

テキスト

内藤雅子著『楽譜の基礎をやさしく学ぶ おとなの楽典テキスト・ワーク』(株)デプロMP
エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド 安川加寿子訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社
吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1.Vol.2』音楽之友社

参考書・参考資料等 基礎的楽典等のプリントやピアノ実技計画一覧 必要に応じて、弾きやすい簡易楽譜を作成し資料として使用
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 課題曲演奏発表後、未習得者へは、補習を行い指導する。
学生に対する評価 音楽の基礎知識定着度（40％）、課題発表における音楽表現力（40％） グループ授業を受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢（20％）の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 篠原 万喜子 佐々木 美奈子 大石 由起子 花田 えり佳
保育環境構成技術(音楽)Ⅱ (専門教育科目)	選択	本学 指定	本学 指定	開講期： 2学年 通年		
授業の概要 保育現場に備えられていることの多い鍵盤楽器(ピアノ他)を用いながら、子どもと楽しく豊かに過ごせるよう、幅広い知識や技術を習得する。 ピアノ教則本を最後まで習得し、幅広い知識や表現技術を身につける。 教則本を終了した学生は、リズムを適格に弾き幅広い表現力を身につけるため、マーチや小曲集の中から選曲し取り組む。並行して、童謡を中心に、実習園や現場で行われている曲を習得する。						
授業の到達目標 保育現場で行っている曲の弾き歌いが自由にできるようになる。また、実習へ向けて、各園独自の曲などを習得する。 子どもが楽しく過ごせるよう、音楽活動を取り入れることができる。実習園より指定の曲などが弾けるようになる。 子どもの様子を見ながら、活動を展開させていくことができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				AL
第1回	2月・3月保育実習での音楽表現振り返り 指を広げる練習と連打音の習得 (メト・ローズ P.48～49)	事前学習：保育環境構成技術(音楽)Ⅰの内容を復習するとともに前期課題を予習する。(34分)				GW
		事後学習：第1回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。(33分)				E
第2回	へ長調の音階とカデンツ(プリント) 2年次教育・保育実習の準備「おべんとう」 強弱をつけながら表現することを学ぶ (メト・ローズ P.50) 3.4. 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、第1回で課題となった内容を練習する。(34分)				GW
		事後学習：第2回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。へ長調の音階とカデンツを復習する。(33分)				E
第3回	ニ長調の音階とカデンツ(プリント) 2年次教育・保育実習の準備「おはよう」 強弱をつけながら表現することを学ぶ (メト・ローズ P.50～51) 3.4 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、第2回で課題となった内容を練習する。(34分)				GW
		事後学習：第3回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。ニ長調の音階とカデンツを復習する。(33分)				E
第4回	調と調号(楽典テキスト P.56～58) 2年次教育・保育実習の準備「おかえり」 右手と左手を交互に強弱をつける(メト・ローズ P.52) 4.5 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、第3回で課題となった内容を練習する。(34分)				GW
		事後学習：第4回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P.56～58 (33分)				E
第5回	調と調号(楽典テキスト P.56～58) 右手に表情をつけながら左手の伴奏にも強弱をつける(メト・ローズ P.52～53) 4.5 才児へ向けた童謡他	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、第4回で課題となった内容を練習する。(34分)				GW
		事後学習：第5回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P.56～58 (33分)				E

第6回	短調(楽典テキスト P. 54~55) 和音を弾く練習(メトロノーム P. 54) 4.5才児へ向けた童謡他	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第5回で課題となった内容を練習する。 (34分) 事後学習: 第6回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 54~55 (33分)	GW E
第7回	イ短調(楽典テキスト P. 54~55) 音をのびしながら和音を弾く練習 (メトロノーム P. 55) 3才~5才児へ向けた童謡他	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第6回で課題となった内容を練習する。 (34分) 事後学習: 第7回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 54~55 「生活のうた」を練習する。(33分)	GW E
第8回	2年次教育・保育実習の準備、生活のうた 音階の習得(メトロノーム P. 56) 3才~5才児へ向けた童謡他	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第7回で課題となった内容を練習する。 (34分) 事後学習: 第8回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。「生活のうた」を 練習する。(33分)	GW E
第9回	三和音(楽典テキスト P. 60~62) 全課のまとめ(メトロノーム P. 57) 3才~5才児へ向けた童謡他	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第8回で課題となった内容を練習する。 (34分) 事後学習: 第9回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。「生活のうた」を 練習する。(33分)	GW E
第10回	七の和音(楽典テキスト P. 61~63) 2年次教育実習の振り返り	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第9回で課題となった内容を練習する。 (34分) 事後学習: 第10回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P. 61~63 (33分)	GW E
第11回	リズムとソルフェージュ 0才~3才児へ向けた童謡 付点音符のリズムとそうではないリズムの組 み合わせを習得	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第10回で課題となった内容を練習する。 (34分) 事後学習: 第11回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキストの演習問題 (33分)	GW E
第12回	第1~11回目の復習 0才~5才児へ向けた童謡 和音で付点音符のリズムを習得 前期課題発表の準備	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、 第11回までに取り組んだ内容を復習する。 (34分) 事後学習: 第11回までに指導を受けた内容 を復習し、次回の授業へ臨む。(33分)	GW E
第13回	第1~11回目の学習内容の振り返り・確認 0才~5才児へ向けた童謡 前期課題発表の準備	事前学習: 前期課題の発表曲を練習する。 (34分) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。(33分)	GW E
第14回	第1~11回目の学習内容の振り返り・確認 0才~5才児へ向けた童謡 前期課題発表の準備	事前学習: 前期課題発表曲を練習する。 (34分) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復 習し、次週の課題発表曲を練習する。(33分)	GW E
㊦	グループごとに広い教室で課題曲を発表		

第 15 回	前期課題発表結果の確認 9 月教育・保育実習での音楽表現振り返り	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 後期の課題となった内容を予習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 15 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。(33 分)	E
第 16 回	和音の基本形と転回形(楽典テキスト P.64～ 65) マーチを活用し、付点音符とそうではない音 符の組み合わせリズムを習得 4.5 才児へ向けた童謡や合奏	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 15 回で課題となった内容を練習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 16 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P.64～65 (33 分)	E
第 17 回	コードネーム(楽典テキスト P.66～68) マーチを活用し、付点音符とそうではない音 符の組み合わせリズムを習得 4.5 才児へ向けた童謡や合奏	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 16 回で課題となった内容を練習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 17 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。 楽典テキスト P.66～68 (33 分)	E
第 18 回	ハ長調の 3 コード、伴奏パターン① リトミックに活用できるよう、和音での付点 音符とそうではない音符の組み合わせリズム を習得 4.5 才児へ向けた童謡や合奏	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 17 回で課題となった内容を練習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 18 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。ハ長調の 3 コー ド、伴奏パターン①の練習をする。(33 分)	E
第 19 回	ハ長調の 3 コード、伴奏パターン② リトミックに活用できるよう、和音での付点 音符とそうではない音符の組み合わせリズム を習得 4.5 才児へ向けた童謡や合奏	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 18 回で課題となった内容を練習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 19 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。ハ長調の 3 コー ド、伴奏パターン②の練習をする。(33 分)	E
第 20 回	ト長調の 3 コード、伴奏パターン① 4.5 才児へ向けた童謡や合奏	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 19 回で課題となった内容を練習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 20 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。ト長調の 3 コー ド、伴奏パターン①の練習をする。(33 分)	E
第 21 回	ト長調の 3 コード、伴奏パターン② 4.5 才児へ向けた童謡や合奏	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 20 回で課題となった内容を練習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 21 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。ト長調の 3 コー ド、伴奏パターン②の練習をする。(33 分)	E
第 22 回	ヘ長調の 3 コード、伴奏パターン① 0 才児～5 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 21 回で課題となった内容を練習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 22 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。ヘ長調の 3 コー ド、伴奏パターン①の練習をする。(33 分)	E
第 23 回	ヘ長調の 3 コード、伴奏パターン② 0 才児～5 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 22 回で課題となった内容を練習する。 (34 分)	GW
		事後学習：第 23 回で指導を受けた内容を復 習し、次回の授業へ臨む。ヘ長調の 3 コー ド、伴奏パターン②の練習をする。(33 分)	E

第 24 回	「聖夜」伴奏付け 伴奏付け課題発表、指導、提出 後期課題発表の準備	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 23 回で課題となった内容を練習する。 (34 分) 事後学習：第 24 回で指導を受けた内容を復 習し、次の授業へ臨む。(33 分)	GW E
第 25 回	移調、楽譜作成① 後期課題発表の準備	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、 第 24 回までに取り組んだ内容を復習する。 (34 分) 事後学習：後期課題発表曲を練習し、次の 授業へ臨む。(33 分)	GW E
第 26 回	移調、楽譜作成② 後期課題発表の準備	事前学習：後期課題の発表曲を練習する。 (34 分) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習 し、次の授業へ臨む。(33 分)	GW E
第 27 回	コードネームまとめ 後期課題発表の準備	事前学習：後期課題の発表曲を練習する。 (34 分) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習 し、次の授業へ臨む。(33 分)	GW E
第 28 回	後期課題発表の準備	事前学習：後期課題の発表曲を練習する。 (34 分) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習 し、次の課題発表曲を練習する。(33 分)	GW E
㊦	グループごとに広い教室で課題曲を発表		
テキスト 内藤雅子著『楽譜の基礎をやさしく学ぶ おとなの楽典テキスト・ワーク』(株) デプロ MP エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド 安川加寿子訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社 吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol. 1. Vol. 2』音楽之友社 マーチのプリント配布 吉田梓編著『ピアノ・レッスン』エー・ティー・エヌ 参考書・参考資料等 楽典他のプリントやピアノ実技計画一覧を配布する。 必要に応じて弾きやすい簡易楽譜を作成し授業内で紹介、配付する。 課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 課題発表後、未習得者へは補習を行い指導する。 学生に対する評価 実技授業を受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢、態度（40%）と半期ごとの課題発表における音楽表現力と筆記による知識定着度（60%）の総合評価			

授業科目名 保育・教職実践演習 (幼稚園) (専門教育科目)	卒業 選択	幼免 必修	保育士 必修	授業形態：演習 単位数：2単位 開講期：2学年 後期	学術 ・ 実務	担当教員名 佐藤 寛之 本田 幸 他
授業の概要 幼稚園教諭・保育士になるために必要な実践力に関して、「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任感、使命感、教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」の観点から、各自の修得状況を総合的に自己分析・診断する。保育及び福祉の各専門分野の教員の授業から、保育の理論と実践をもう一度振り返る。保育者となるために、各自新たな課題を意識するとともに、それぞれの専門性を自分のものとすしきる。特に、保育における記録の意義について学び、「保育ドキュメンテーション」についての概要を知る。この科目全般を通して、「子どもに寄り添う保育」とは何か、「保育の総合性」を学ぶ授業を行う。						
授業の到達目標 ① 知識の獲得・構築： 幼稚園教諭、保育士等に必要な基礎知識及び技能、幼稚園教諭、保育士等、保育者としての使命感・役割・教育的愛情を備えていることが確認できる。 ② 技能・スキル形成： 保育の総合性の理解にもとづいた指導計画作成と、保育実践における記録の意義の理解にもとづいた、PDCA サイクルの活用に関与する保育記録の作成に取り組むことができる。 ③ 理念・理解の形成： 履修カルテに取り組み、2年間全ての学びを振り返りとして受け止め、保育専門職である保育者になるにあたり、自らの目標と課題を明確にすることができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①, DPⅡ②, DPⅡ③, DPⅡ④						
授業計画表【AL】 D:ディスカッション・ディベート, GW:グループワーク, P:プレゼンテーション, F:フィールドワーク, E:実技, 実習, 課題						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				AL
第1回	この科目の目的・趣旨(履修カルテ、学習成果の振り返り)	【事前学習】 これまでの全教科の学習内容特に2回の教育実習、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ等の学習内容をしっかり再確認しておくこと。今までの学びを通して、幼児教育者・保育者に求められることは何かを整理しておくこと。テキスト『保育・教職実践演習第2版改訂』p.6～9「第1の扉 この授業の目的・趣旨」(事前学習2時間間)。 【事後学習】 履修カルテの記入により明確になった自己課題達成に向けて、具体的な学習の取り組み方を考え、後期授業に臨む心構えを持つ(事後学習2時間)。				E
第2回	保育という営み	【事前学習】 テキスト『保育・教職実践演習第2版改訂』p.10～13をよく読んでおくこと(事前学習2時間)。 【事後学習】 すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること(事後学習2時間)。				

第3回	保育内容について学ぶ 領域【健康】	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版改訂』p.14～21をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	E
第4回	保育内容について学ぶ 領域【表現】音楽	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版改訂』p.26～33をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	E
第5回	保育内容について学ぶ 領域【表現】造形	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版改訂』p.34～37をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	E
第6回	保育と記録（1）	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版改訂』p.38～41をよく読んでおくこと。特に保育の計画の基本的考え方、PCDAサイクルの重要性について復習しておくこと。事前に配布した資料についてあらかじめ目を通しておくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】授業で学んだ保育記録の意義、方法、保育実践に向けての活用について復習しておくこと（事後学習2時間）。	E
第7回	保育と記録（2）	【事前学習】保育記録における映像の活用に向けて、カメラ、ビデオ、などを使った保育記録の在り方や、保育施設のHPなどを見て調べておくこと。（事前学習2時間） 【事後学習】実際に映像を使った保育記録を用いて、子ども理解にどのようにつながるかについてまとめること。（事後学習2時間）	GW E
第8回	文化と保育（1）手あそびうたで育ちあう	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.42～45をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	
第9回	文化と保育（2）保育の中の多文化	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版改訂』p.46～49をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	E

第10回	健康及び安全	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習 第2版改訂』p.50～53をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	E
第11回	保育と福祉の接点（1）	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習 第2版改訂』p.54～57をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	E
第12回	保育と福祉の接点（2）	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習 第2版改訂』p.58～61をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	E
第13回	保育とコミュニケーション	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習 第2版改訂』p.62～65をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。	E
第14回	まとめ（履修カルテ、学習成果の振り返り）	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習 第2版改訂』p.66～69をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】履修カルテの記入により、2年間の学習の成果を振り返る。自己評価の分析をもとに、今後、保育者となる心構えを持つこと（事後学習2時間）。	E

テキスト

佐藤寛之他編著、授業担当教員著『保育・教職実践演習第2版』 学校法人白峰学園 横浜女子短期大学
授業内容に応じて必要な教材資料を配布。必要な図書資料について指示。

参考書・参考資料等

必要な参考書、参考資料については授業内で紹介を行う。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・各授業の最後にその授業のまとめ、振り返りと課題等に関するコメントを伝達する。
- ・各授業で提出された課題は、各自の学びのポートフォリオとして取りまとめ、フィードバックを行う。

学生に対する評価

- ・後期授業内小テスト（筆記・レポート・実技／口述）
- ・授業に積極的に取り組む態度（10%）、各授業の演習課題評価点の合計（90%）を合わせて総合的に評価する。

鵜野澤武美（幼稚園教諭，保育士，保育教諭，認定こども園園長，幼稚園園長），佐久間博子（幼稚園体育講師），兼子真理（幼稚園、保育所での造形絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師），平澤順子（保育所保育士），滝口節子（保育所保育士），渡邊悦子（看護師，助産師），本田幸（幼稚園教諭）

実務経験を活かした教育内容

実務経験のある教員による授業は、具体的な保育実践に結び付く内容を積極的に取り入れ、保育実践力の向上につながるような内容である。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：実習 単位数：4単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育実習Ⅰ (専門教育科目)	選択		必修	開講期：1・2学年 通年		岡本 眞幸 スティーブントムソン 石山 直樹 鵜野澤 武美 平澤 順子

① 保育実習Ⅰ（保育所）

授業の概要

保育所における実習（12日間）

保育所の機能および乳幼児の理解を深めるために、保育所の生活に参加し、参与観察実習を行う

授業の到達目標

① 知識の獲得・構築：

- ・実習施設の概要・特徴を説明できる
- ・実習施設の子どもの観察・理解する視点を説明できる
- ・実習施設の保育者の支援・援助内容を説明できる

② 技能・スキル形成：

- ・個別や集団場面での子どもへの適切な声掛けや関わりなど基本的な保育実践力が身につく
- ・子ども理解が深まり、子どもとの関係形成のための基本的姿勢が身につく

③ 理念・理解の形成：

- ・保育者としての専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる
- ・実習の総括と自己評価により、保育における自己課題が明確になる

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表（保育所実習）

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
12日間	1. 以下、保育所について学ぶ (1) クラス編成の様子を知る (2) 安全及び疾病予防についての配慮を知る (3) 建物や遊具、園庭などの環境整備について知る 2. 以下、保育所における乳幼児について知る (1) 乳幼児の遊びや生活の実態について知る (2) 子どもの心身の発達状態を知る 3. 以下、保育者の保育方法・内容を理解する (1) 保育所の1日の流れを知る (2) 保育者の関わり方や配慮を知る (3) 可能な範囲以内で保育活動をする 4. 以下、実習への姿勢を向上させる (1) 基本的な実習態度を身に付ける (2) 指導者からの助言を素直に受け入れる	<u>事前学習</u>：テキスト PP21-22 を読み、実習に必要なことを確認しておく。PP27-29 を読み、実習の心構えを再確認しておく。 <u>事後学習</u>：年齢に応じた発達について調べ、担当した各クラスの子どもと照らし合わせるなど、心身の発達について理解を深める

テキスト

- ・横浜女子短期大学 実習テキスト
- ・『新版 遊びの指導 乳幼児編』同文書院

参考書・参考資料等

- ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省
- ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省
- ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」内閣府
- ・『すてきカンタン おりがみ事典』同文書院

学生に対する評価 実習評価表（40％）日誌（60％）を基本配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する		
実務経験 鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長、認定こども園園長、保育士 平澤順子 保育所の保育士		
② 保育実習Ⅰ（施設）		
授業の概要 児童養護施設を中心とした児童福祉施設で、原則12日間90時間以上の宿泊または通所の実習を行う。施設職員の指導を受けながら実習に臨み、施設の基本的な機能・役割や、施設の子どもの心情や生活状況、施設の保育者の援助内容・方法について学ぶとともに、実習を通して自分の課題を明確にする。		
授業の到達目標 ・施設の基本的な役割や機能が具体的に理解できる。 ・施設の子どもの生活の状況や心情への理解が深まる。 ・施設の保育者の具体的な業務内容や援助方法への理解が深まる。 ・実習の自己評価により、今後の学習に向けた自己の課題が明確になる。		
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④		
授業計画表（施設実習）		
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
1日目 ～ 12日目	a. 施設の機能・役割の理解 ・実習施設の概要（定員、沿革、養育理念など） ・施設のケア形態（大舎制、ユニット制など） ・生活集団の構成（年齢や男女の構成など） ・職員の構成・役割 など b. 施設の子どもの理解 ・子どもの一日の生活の流れ（平日、休日） ・部屋の子どもの様子（他児との関係、試し行動等） ・学校生活の様子（学業の状況、級友との関係など） ・子どもの親子関係 など c. 施設の保育者の援助内容・方法の理解 ・日常生活業務（衣食住全般） ・子どもへの日常的ケア（学習指導、余暇の充実など） ・子どもへの個別的援助 ・子どもとの関係形成の工夫 など d. 実習の自己評価と自己の課題・目標の明確化 ・子どもとの関係づくりについて ・施設の保育者業務への補助的取り組みについて ・日誌の記録について など	事前学習： ・実習園の事前オリエンテーションでの資料や学内事前指導のプリント、実習テキストを熟読する。 ・実習日誌の中の「自己紹介票」「事前オリエンテーション記録」「実習課題」は事前に記入しておく。また、「実習園の概要」も、可能な限り記入しておく。 事後学習： ・12日間の実習を振り返り、自分の中で特に印象に残っていることや特に大きな学びとなったことなどのエピソードを列挙し、整理しておく。 ・実習の自己評価により、今後の学習に向けた、自分の課題を自分なりに整理しておく。
テキスト ・横浜女子短期大学 実習テキスト		
参考書・参考資料等 河合高鋭・石山直樹 編集『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい		
学生に対する評価 実習評価表（40％）日誌（60％）を基本配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する		
実務経験 岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業） スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：実習 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育実習Ⅱ (専門教育科目)	選択		必修	開講期：1・2学年 通年		岡本 眞幸 鵜野澤 武美 平澤 順子
授業の概要						
保育所実習の事前・事後の学習を中心に行う。実習の意義・目的の理解、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての心構えおよび保育者としての倫理について学ぶ。また、事後指導において実習の総括と評価の理解、それによる課題の明確化を図れるようにする。実習の記録の仕方など実習に臨むにあたって求められるスキルも身に付けられるようにする。						
授業の到達目標						
① 知識の獲得・構築： ・実習園の概要・特徴を説明できる ・実習園の子どもを観察・理解する視点を説明できる ・実習園の保育者の支援・援助内容を説明できる						
② 技能・スキル形成： ・個別や集団場面での子どもへの適切な声掛けや関わりなど基本的な保育実践力が身につく ・子ども理解が深まり、子どもとの関係形成のための基本的姿勢が身につく						
③ 理念・理解の形成： ・保育者としての専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる ・実習の総括と自己評価により、保育における自己課題が明確になる						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ①②③④						
授業計画表						
回数	学習内容			事前（準備）・事後学習の内容		
12日間	1. 以下、保育所機能についてまなぶ。 ・保育者と保護者との関わり方を知る。 ・延長保育等特別な保育について知る。 ・保育所の危機管理について知る。 2. 以下、保育所における乳幼児の理解をさらに深める。 ・乳幼児の個人差について理解し、個々の子どもに合わせた対応方法を習得する。 3. 以下、保育所の保育者の保育方法・内容の理解を深める。 ・発達に応じた保育内容や方法を知る。 ・保育環境について詳しく知る。 ・保育の一部を担当し保育の技術を習得する。 ・指導計画を立案し、責任実習を体験する。 4. 以下、実習への姿勢を向上させる。 ・保育士としての意義や職業倫理を理解する。 ・守秘義務の遵守について実際に理解する。 ・記録日誌の考察を深め充実した内容にする。			事前学習：テキストP18～P24・P29～P31を熟読しておく。 保育実習Ⅰの経験を振り返り、保育実習Ⅱに向け実習に必要なことを確認しておく。 事後学習：要点をまとめ、説明できるようにする。 テキストP24～p25を読みまとめておく。		
・夏期集中オリエンテーション2日間 ・実習後に、実習体験（観察力・着眼点・行動等の自己評価）の振り返りを行う。						
テキスト						
・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省						

- ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省
- ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府
- ・『新版 遊びの指導 乳幼児編』同文書院

学生に対する評価

実習評価表（40%）、記録日誌（60%）を基本配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する

実務経験

岡本真幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業）

鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長

平澤順子 保育所の保育士

実務経験を活かした教育内容

教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：実習 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育実習Ⅲ (専門教育科目)	選択		必修	開講期：2学年 通年		岡本 眞幸 スティーブントムソン 石山 直樹
授業の概要						
児童養護施設、乳児院など児童福祉施設で、原則12日間90時間以上の宿泊または通所の実習を行う。社会的養護Ⅰなど既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、施設の機能・役割や他機関との連携、施設の子どもの生活状況や家庭状況、施設の保育者の援助方法・内容や職業倫理についてさらに深く学ぶとともに、実習を通して自分の課題を明確にする。						
授業の到達目標						
①知識の獲得・構築： ・実習施設の特徴（施設の目的、施設の歴史、施設の規模・定員、施設のケア形態）を説明できる ・特定の子どもの入所理由と自立支援計画の内容を説明できる ・施設の保育者（保育士、児童指導員）に求められている倫理観を説明できる						
②技能・スキル形成： ・子どもの年齢・発達段階・特徴（愛着障害など）を念頭に子どもとの関係を深めることができる ・子どもの日常生活支援において、子どもへの適切な声掛け、関わりができる ・子どもとの言動について、その裏にある子どもの気持ちや思いを汲み取ることができる						
③理念・理解・探究： ・子どもとの関係づくりについて客観的に自己評価ができる ・保育者（の業務）の補助的な取り組みについて客観的に自己評価ができる						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④						
授業計画表（施設実習）						
回数	内容・方法				事前(準備)・事後学習の内容	
1日目 ～ 12日目	a. 施設の機能・役割の理解 ・実習施設の概要（ケア形態、集団生活の構成など） ・入所児のよりよい生活のための営み ・園内の他の専門職との連携 ・児相や学校など他機関との連携・協力 ・地域との関わり など b. 施設の子どもの理解 ・部屋の子どもの様子 ・子ども同士の関わり ・子どもの抱える個別的課題 ・子どもの親子関係（家庭状況） など c. 施設の保育者の援助方法・内容の理解 ・日常における子どもへの対応の方法・工夫 ・子どもへの個別的援助 ・施設職員に求められる資質・能力、職業倫理 など d. 実習の自己評価と自己の課題・目標の明確化 ・子どもとの関係づくりについて ・日誌の記録について ・施設職員の仕事に関する自己の適性や関心度について				事前学習： ・実習園の事前オリエンテーションでの資料や学内事前指導のプリント、実習テキストを熟読する。 事後学習： ・12日間の実習を振り返り、自分の中で特に印象に残っていることや特に大きな学びとなったことなどのエピソードを列挙し、整理しておく。 ・実習の総括や自己評価により、今後の学習に向けた、自分の課題や目標を自分なりに整理しておく。	

テキスト

・横浜女子短期大学 実習テキスト

学生に対する評価

実習評価表（40%）、記録日誌（60%）を基本配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する

実務経験

岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業等）

スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）

実務経験を活かした教育内容

教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	[学術] ・ [実務]	担当教員名
保育実習指導 I (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 1・2学年 通年		岡本 眞幸 ステイーブントムソン 石山 直樹 鶴野澤 武美 平澤 順子

授業の概要

保育所及び施設実習の事前・事後の学習を中心に行う。実習の意義・目的の理解、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての心構えおよび保育者としての倫理について学ぶ。また、事後指導において実習の総括と評価の理解、それによる自己課題の明確化を図れるようにする。実習の記録の仕方など実習に臨むにあたって求められる基本的なスキルも身に付けられるようにする。

授業の到達目標

- ① 知識の獲得・構築：
 - ・実習施設の概要・特徴を説明できる
 - ・実習施設の子どもを観察・理解する視点を説明できる
 - ・実習施設の保育者の支援・援助内容を説明できる
- ② 技能・スキル形成：
 - ・個別や集団場面での子どもへの適切な声掛けや関わりなど基本的な保育実践力が身につく
 - ・子ども理解が深まり、子どもとの関係形成のための基本的姿勢が身につく
- ③ 理念・理解の形成：
 - ・保育者としての専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる
 - ・実習の総括と自己評価により、保育における自己課題が明確になる

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表 【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィードバック、E:実技、実習、課題

① 授業計画表：保育実習指導 I (保育所)

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容	AL
第1回	授業オリエンテーション ・実習の意義と目的および本学での実習のあり方	事前学習：テキスト PP4-5 を熟読しておく (34 分) 事後学習：実習の意義・目的について要点をまとめ、説明できるようにする (33 分)	E
第2回	保育園の生活① ・デイリープログラムに基に、乳児の生活と遊びについて学ぶ—DVD 視聴を通して—	事前学習：0 歳児の発達について調べておく (34 分) 事後学習：発達に基づく生活と遊びを整理しておく (33 分)	F E
第3回	保育園の生活② ・デイリープログラムに基に、1～3 歳未満児の生活と遊びについて学ぶ—DVD 視聴を通して—	事前学習：1～3 歳未満児の発達を調べておく (34 分) 事後学習：発達に基づく生活と遊びを整理しておく (33 分)	F E
第4回	保育園 1 日見学	事前学習：配属園の資料を読み込んでおく (34 分) 事後学習：見学してきた中で気づいたことの要点をまとめておく (33 分)	E
第5回	保育園 1 日見学： ・事後学習：学生同士の情報の共有	事前学習：保育園の機能について調べ、まとめておく (34 分) 事後学習：共有し合った情報を整理し、まとめておく (33 分)	E
第6回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方① おやつ・食事場面：1～2 歳児の DVD 視聴を基に	事前学習：1～2 歳児の食事に関する発達について調べ、まとめておく (34 分) 事後学習：食事場面での 1～2 歳児の発達の姿を日誌に書き加え、内容を深めていく (33 分)	F E
第7回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方② 排泄場面：0 歳児の DVD 視聴を基に	事前学習：0 歳児の排泄に関する発達について調べ、まとめておく (34 分)	F

		事後学習：排泄場面での 0 歳児の発達の姿を日誌に書き加え、内容を深めていく (33 分)	E
第 8 回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方③ 遊び場面 1～2 歳児の DVD 視聴を基に	事前学習：1～2 歳児の遊びに関する発達について調べ、まとめておく (34 分) 事後学習：遊び場面での 1～2 歳児の発達の姿を日誌に書き加え、内容を深めていく (33 分)	F E
第 9 回	観察と記録の方法：実習日誌の書き方④ 午睡場面：乳児・3 歳未満児の DVD 視聴を基に	事前学習：睡眠に関する乳児・幼児の発達について調べ、まとめておく (34 分) 事後学習：午睡場面での乳児・幼児の発達の姿を日誌に書き加え、内容を深めていく (33 分)	F E
第 10 回	観察と記録の方法：実習日誌の書き方⑤ 考察および一日のまとめの書き方	事前学習：幼稚園実習日誌を読み返し、考察およびまとめにおける問題点を挙げておく (34 分) 事後学習：考察および一日のまとめの書き方の要点を整理しておく (33 分)	E
第 11 回	実習事前学習① 課題の立て方 日々の目標の立て方	事前学習：実習で何を学んでくるのかテキストの学習内容を基にまとめておく (34 分) 事後学習：課題を整理⇒まとめ⇒提出 (テキストの用紙・日誌) (33 分)	E
第 12 回	実習事前学習③ ・実習日誌等の確認 ・指導案立案の方法の確認	事前学習：実習日誌に添付する園の概要を含む 4 点をまとめておく。「カリキュラム論」で学んだ指導案立案の基本的な書き方を確認しておく (34 分) 事後学習：部分実習指導案を立案する (33 分)	E
第 13 回	実習オリエンテーション① ・実習の心構え、倫理綱領、提出物の確認	事前学習：テキスト PP29-31 を熟読しておく (34 分) 事後学習：授業内容を基に、実習までに準備しておく事柄を列記しておく (33 分)	E
第 14 回	実習オリエンテーション② ・実習に向けての実技指導	事前学習：実習で実施する絵本などを読み込み、注意事項を挙げておく (34 分) 事後学習：授業で受けた指摘を確認し、それらを指導案に反映する (33 分)	E

② 授業計画表：保育実習指導 I (施設)

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容	AL
1 年後期 第 1 回	授業オリエンテーション 保育実習 I (施設) の実施概要	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、学生便覧の該当箇所目を通す (34 分) 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33 分)	E
第 2 回	<実習施設を知る>① 児童養護施設の概要 (県内の実習園について) 児童相談所との関係 (措置制度への理解も)	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、配布した児童養護施設の資料に目を通す (34 分) 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33 分)	E
第 3 回	<実習施設を知る>② 設備運営基準 (職員配置基準、必置の職種など) 施設のケア形態 (特にユニット制について詳しく) グループホームについてなど	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、『保育福祉六法』の該当箇所目を通す (34 分) 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33 分)	E
第 4 回	<実習施設を知る>③ 児童養護施設運営指針に目を通す	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、インターネットで運営指針を検索してみる (34 分) 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33 分)	E
第 5 回	<施設の子どもを知る>① 入所児の現況について 一時保護、児相の担当者、自立支援計画など	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、配布した資料に目を通す (34 分) 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33 分)	E

第6回	＜施設の子どもを知る＞② 虐待等を受けた施設の子どものもつ傾向・特徴 (愛着形成の不備による問題性、試し行動など)	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、配布した資料に目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E
第7回	＜施設の保育者の援助内容・方法を知る＞① 施設保育士の仕事内容 (全体像) の確認 (実習では見えにくい内容への理解のため)	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、配布した資料に目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E
第8回	＜施設の保育者の援助内容・方法を知る＞② 施設保育士の役割について 全国児童養護施設協議会倫理綱領を読む	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、配布した資料に目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E
第9回	＜実習のための準備学習＞ 実習課題の立て方について 実習日誌の書き方について	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、実習テキストに目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E
第10回	実習のための事前諸準備 日誌のファイル・用紙の配布、実習生調書の記入等	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、実習テキストに目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E
第11回	＜全体オリエンテーション＞ 実習での留意点、各園の事前オリエンテーション等について	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、実習テキストに目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E
2年通年 第12回	＜全体オリエンテーション＞ 実習の学習内容 (4つの柱) に関して	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、配布した資料や実習テキストに目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E
第13回	＜実習時期ごとに行う事前オリエンテーション＞ 全6回実施の予定	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、前回のオリエンテーション資料に目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E
第14回	＜実習時期ごとに行う事後指導＞ 全6回実施の予定	事前学習: 授業内容をシラバスで確認し、実習園の資料等に目を通す (34分) 事後学習: テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する (33分)	E P
テキスト ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」内閣府 ・『新版 遊びの指導 乳幼児編』同文書院			
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったうえで返却する。			
学生に対する評価 授業参加態度 (20%)、提出物 (40%)、実習報告会 (40%)			

実務経験

岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業等）

スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）

鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長

平澤順子 保育所の保育士

実務経験を活かした教育内容

教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育実習指導（Ⅱ） （専門教育科目）	選択		必修	開講期： 2 学年 通年		岡本 眞幸 スティーブントムソン 石山 直樹 鵜野澤 武美 平澤 順子

授業の概要

保育実習Ⅱの事前・事後の学習を中心に行います。保育所での具体的な実践を通して、保育所の役割や機能、保育所の子どもと保育、保護者支援、指導計画の作成から評価までの過程、保育士の業務内容や職業倫理について理解し、併せて実習における自己の課題を明確化します。

授業の到達目標

- ① 知識の獲得・構築：
 - ・実習施設の概要・特徴を説明できる
 - ・実習施設の子どもを観察・理解する視点を説明できる
 - ・実習施設の保育者の支援・援助内容を説明できる
- ② 技能・スキル形成：
 - ・個別や集団場面での子どもへの適切な声掛けや関わりなど基本的な保育実践力が身につく
 - ・子ども理解が深まり、子どもとの関係形成のための基本的姿勢が身につく
- ③ 理念・理解の形成：
 - ・保育者としての専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる
 - ・実習の総括と自己評価により、保育における自己課題が明確になる

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィードバック、E:実技、実習、課題

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	保育実習Ⅰ（保育所）の事後学習 保育実習Ⅱの授業のオリエンテーション	<u>事前学習</u> ：授業のテーマに合わせてテキスト、保育実習Ⅰの日誌等からまとめておく。各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。（34分） <u>事後学習</u> ：授業で行ったまとめの内容を整理する。テキスト、ノート等を見返し、わからなかったところを調べて、整理する。（33分）	D P
第2回	保育実習Ⅱ 事前学習①（日誌）	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト、ノートを読んで理解しておく。（34分） <u>事後学習</u> ：授業でまとめたノート、プリントを整理し理解を深め復習する。（33分）	E
第3回	保育実習Ⅱ 事前学習②（指導案）	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。また調べておく。（34分） <u>事後学習</u> ：授業で学んだこと、指導案見返し復習する。（33分）	E
第4回	保育実習Ⅱ 事前学習③（学ぶべきこと・課題と目標）	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで、事前にまとめておく。（34分） <u>事後学習</u> ：授業で学んだことを、復習する。課題の整理をする。（33分）	E
第5回	実習オリエンテーション（夏期集中）： 責任実習指導案の作成・ロールプレイ	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。また調べておく。（34分）	

		事後学習：授業で学んだことをテキスト、まとめたプリントで責任実習指導案の復習をする。(33分)	E
第6回	実習オリエンテーション（夏期集中）：実習の心得など	事前学習：授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。「実習の心得」テキストを熟読しておく。(34分) 事後学習：授業で学んだことをテキスト、まとめたプリントで復習する。(33分)	E
第7回	実習オリエンテーション（夏期集中）：保育実技（ペープサート、パネルシアターなど）	事前学習：授業に合わせたテーマで事前に実技練習を行っておく。(34分) 事後学習：授業で行った実践を振り返り、反省点を振り返り、問題点をまとめて復習する。(33分)	E
第8回	保育実習Ⅱ 事後学習 実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価）	事前学習：授業のテーマに合わせてテキスト、保育実習の日記等からまとめておく。授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。また、調べておく。(34分) 事後学習：授業で学んだことをテキスト、まとめたプリントで復習する。(33分)	D P
第9回	実習体験のまとめ （実習報告会に向けて）①	事前学習：これまでの実習において、特に印象に残ったエピソードを複数挙げておく。(34分) 事後学習：記入したプリントの内容を再度見返す。	E
第10回	実習体験のまとめ （実習報告会に向けて）②	事前学習：ポスター原稿の大まかなデザインを考えておく。(34分) 事後学習：自分のポスターの内容をさらに推敲する。(33分)	E
第11回	実習体験のまとめ （実習報告会に向けて）③	事前学習：ポスター原稿をパソコンで打つための準備をする。(34分) 事後学習：パソコンで打ったポスター原稿を仕上げていく。(33分)	E
第12回	実習体験のまとめ （実習報告会に向けて）④	事前学習：自分の作成したポスター原稿を再読する(34分) 事後学習：見て回った各自のポスター原稿の中で特に印象に残った内容を振り返ってみる。(33分)	P E
第13回	実習報告会	事前学習：これまでの実習において、特に自分の学びとなったこととは何かを考えてみる。(34分) 事後学習：今日の実習報告会の発表内容を振り返ってみる。(33分)	P E
第14回	実習の総括・まとめ	事前学習：2年間の実習における、自分のこれまでの学びを振り返る。(34分) 事後学習：これまでの学びを通して、自分のもつ強みや課題について自己省察しまとめる。(33分)	E
テキスト ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」内閣府 ・『新版 遊びの指導 乳幼児編』同文書院			
参考書・参考資料等			

・『最新保育資料集』ミネルヴァ書房 ・『保育用語辞典』ミネルヴァ書房 ・『すてきカンタン おりがみ事典』同文書院
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったうえで返却する。
学生に対する評価 授業参加態度（20%）、提出物（40%）、実習報告会（40%）
実務経験 岡本真幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業） スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ） 鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長 平澤順子 保育所の保育士
実務経験を活かした教育内容 教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名 保育実習指導（Ⅲ） （専門教育科目）	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーヴン トムソン 石山 直樹 鵜野澤 武美 平澤 順子
	選択		選択 必修	開講期： 2 学年 通年		

授業の概要

保育実習Ⅲの事前・事後の学習を中心に行います。施設での具体的な実践を通して、施設の役割と機能、支援の実際（受容・共感の態度、子ども理解、個別支援計画策定、家庭関係調整、施設内外の連携等）、保育士の業務と職業倫理について理解し、自己の課題を明確化します。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。

また、保育者になるための実習による学びの記録として、各自が「私の実習ノート」を仕上げます。

授業の到達目標

①知識の獲得・構築：

- ・実習施設の特徴（施設の目的、施設の歴史、施設の規模・定員、施設のケア形態）を説明できる
- ・特定の子どもの入所理由と自立支援計画の内容を説明できる
- ・施設の保育者（保育士、児童指導員）に求められている倫理観を説明できる

②技能・スキル形成：

- ・子どもの年齢・発達段階・特徴（愛着障害など）を念頭に子どもとの関係を深めることができる
- ・子どもの日常生活支援において、子どもへの適切な声掛け、関わりができる
- ・子どもとの言動について、その裏にある子どもの気持ちや思いを汲み取ることができる

③理念・理解・探究：

- ・子どもとの関係づくりについて客観的に自己評価ができる
- ・保育者（の業務）の補助的な取り組みについて客観的に自己評価ができる

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表 【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィードバック、E:実技、実習、課題

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	保育実習Ⅰ（保育所）の事後指導 授業のオリエンテーション	事前学習：保育実習Ⅰ（保育所）の体験を振り返り、自分の感想等をまとめておく（34分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する（33分）	D
第2回	保育実習Ⅲ 事前学習①（学習内容：4つの柱について）	事前学習：シラバスを確認し、テキストの該当箇所を熟読しておく（34分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する（33分）	E
第3回	保育実習Ⅲ 事前学習②（日誌の書き方）	事前学習：当該授業内容に関する、以前に配布した資料に目を通しておく（34分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する（33分）	E
第4回	保育実習Ⅲ 事前学習③（実習課題・日々の目標の立て方j）	事前学習：当該授業内容に関する、以前に配布した資料に目を通しておく（34分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する（33分）	E

第5回	実習オリエンテーション（夏期集中）①：実習施設を知る、施設の子どもの理解を深める	事前学習：実習施設のホームページの施設概要の箇所を事前にチェックしておく（34分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する（33分）	E
第6回	実習オリエンテーション（夏期集中）②：施設の保育者の援助方法の理解	事前学習：当該授業内容に関する、以前に配布した資料に目を通しておく（34分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する（33分）	E
第7回	保育実習Ⅲ 事後指導① 実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価）	事前学習：保育実習Ⅲの体験を振り返り、自分の感想等をまとめておく（34分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する（33分）	E D
第8回	保育実習Ⅲ 事後指導②	事前学習：自分の書いた実習報告書①・②の内容に目を通しておく（34分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する（33分）	E D
第9回	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）①	事前学習：これまでの実習において、特に印象に残ったエピソードを複数挙げておく（34分） 事後学習：記入したプリントの内容を再度見返す（33分）	E
第10回	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）②	事前学習：ポスター原稿の大まかなデザインを考えておく（34分） 事後学習：自分のポスターの内容をさらに推敲する（33分）	E
第11回	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）③	事前学習：ポスター原稿をパソコンで打つための準備をする（34分） 事後学習：パソコンで打ったポスター原稿を仕上げていく（33分）	E
第12回	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）④	事前学習：自分の作成したポスター原稿を再読する（34分） 事後学習：見て回った皆のポスター原稿の中で、特に印象に残った内容を振り返ってみる（33分）	E P
第13回	実習報告会	事前学習：これまでの実習において、特に自分の学びとなったこととは何かを考えてみる（34分） 事後学習：今日の実習報告会の発表内容を振り返ってみる（33分）	P
第14回	実習報告会を含め、これまでの学びの振り返りと、まとめ	事前学習：2年間の実習における、自分のこれまでの学びを振り返る（34分） 事後学習：これまでの学びを通して、自分のもつ強みや課題について自己省察しまとめる（33分）	E

テキスト

横浜女子短期大学 実習テキスト
説明用資料を授業内で配布。

参考書・参考資料等

河合高鋭・石山直樹 編集『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい
『保育福祉小六法（2021年度版）』（株）みらい

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったうえで返却する。

学生に対する評価 授業参加態度（20％）、提出物（40％）、実習報告会（40％）
実務経験 岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業等） スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ） 鵜野澤武美 幼稚園の幼稚園教諭・園長 平澤順子 保育所の保育士
実務経験を活かした教育内容 教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名 教育実習 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 実習 単位数： 4単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブン・トムソン 鵜野澤 武美 平澤 順子
	選択	必修		開講期：1・2学年 通年		

授業の概要

幼稚園における実習（1年次10日間、2年次15日間）を行う。実習園において担当保育者の指導を受けつつ「参与観察実習」「参加実習」「部分実習」「責任実習」を体験する。

授業の到達目標

① 知識の獲得・構築：

- ・実習園となった幼稚園の概要・特徴を説明できる
- ・実習園における子どもを観察し・理解するための視点が身につく
- ・実習園の指導教諭の指導・援助内容を説明できる

② 技能・スキル形成：

- ・個別や集団場面での園児への適切な声掛けや関わりなど基本的な保育実践力が身につく
- ・園児である子どもの理解が深まり、子どもとの関係形成のための基本的姿勢が身につく

③ 理念・理解の形成：

- ・幼稚園教諭としての専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる
- ・実習の総括と自己評価により、保育・幼児教育における自己課題が明確になる

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表

回数	学習内容	事前（準備）・事後学習の内容
1年次 10日間	<u>1年次教育実習</u> 1. 幼稚園の機能を学ぶ (1) クラス編成の様子を知る (2) 職員の仕事の分担や役割を知る (3) 安全に関する園の約束事を知る 2. 幼稚園における幼児の理解を深める (1) 幼稚園における幼児の遊びや生活の実態について知る (2) 子ども心身の発達について知る 3. 幼稚園における保育者の保育方法・内容を理解する (1) 幼稚園の1日の流れを知る (2) 保育者の関わり方や配慮を知る (3) 担当保育者の指示を受けながら、保育の補助的・部分的な仕事に参加する 4. 実習への姿勢を向上させる (1) 基本的な実習態度を身に付ける (2) 指導者からの助言を素直に受ける <u>2年次教育実習</u> 1. 幼稚園の機能を学ぶ (1) 保育者と保護者の関わり方を知る (2) 預かり保育など特別な保育について知る (3) 地域との連携の実態について知る 2. 幼稚園における幼児の理解を深める (1) 幼児の個人差について理解する (2) クラス集団としての子どもを知る	<u>事前学習：</u> 実習テキスト、各教科の教科書を熟読しておく 部分実習・責任実習に備え、指導計画の立案、教材研究や保育素材の準備をする <u>事後学習：</u> 実習での学びを振り返り、実習記録日誌を整理しておく 担当保育者から受けた指導をふまえ、自己課題を明確にする

3. 幼稚園における保育者の保育方法・内容を理解する (1) 発達に応じた保育内容や方法を知る (2) 保育者の関わり方や配慮を知る (3) 保育計画を立案し、部分実習、責任実習を体験する 4. 実習への姿勢を向上させる (1) 幼稚園教諭としての使命感を育む (2) 幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確にする	
・教育実習（幼稚園）として1年次の9月に10日間、2年次の6月に15日間の実習を行う。 ・実習後に、実習体験（観察力・着眼点・行動等の自己評価）の振り返りを行う。	
テキスト ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府	
学生に対する評価 実習評価表（40%）、日誌（60%）を基本配分したうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する	
実務経験 岡本真幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業） スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ） 鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長、認定こども園園長、保育士 平澤順子 保育所の保育士	

授業科目名 教育実習指導 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 実習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブン・トムソン 鵜野澤 武美 平澤 順子
	選択	必修		開講期：1・2学年 通年		

授業の概要

教育実習の事前・事後の学習を中心に行います。その他、実習に臨む学生として必要となる知識・技術・能力を習得し、実習を通しての育ちを確かなものにする活動等に取り組みます。特に各実習の事後指導で、報告書を提出させ、教育実習生としての観察力・着眼点・行動等について自己評価を行います。

授業の到達目標

- ① 知識の獲得・構築：
 - ・実習園となる幼稚園の概要・特徴を説明できる
 - ・実習園における子どもを観察し・理解するための視点が身につく
 - ・実習園の指導教諭の指導・援助内容を説明できる
- ② 技能・スキル形成：
 - ・個別や集団場面での園児への適切な声掛けや関わりなど基本的な保育実践力が身につく
 - ・園児である子どもの理解が深まり、子どもとの関係形成のための基本的姿勢が身につく
- ③ 理念・理解の形成：
 - ・幼稚園教諭としての専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる
 - ・実習の総括と自己評価により、保育・幼児教育における自己課題が明確になる

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表

【AL】 D:ディスカッション・ディベート、GW:グループワーク、P:プレゼンテーション、F:フィードバック、E:実技、実習、課題			
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容	AL
第1回	授業オリエンテーション 実習の意義と目的 本学で行う実習	事前学習：テキストP.2～6、P.18～28を熟読しておく 事後学習：授業を振り返り、実習の意義と目的を整理しまとめる	E
第2回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方① 時系列型日誌の記録の理解	事前学習：テキストP.16、P.67を読んでおく 事後学習：授業を振り返り、日誌の各項目に記録する内容を整理しておく	E
第3回	附属幼稚園園長先生の話 附属幼稚園の概要 一日の流れの理解	事前学習：附属幼稚園のHPを閲覧しておく 事後学習：附属幼稚園見学実習までに、園の概要を記入しておく	E
第4回	附属幼稚園一日実習 事前学習① 幼稚園についての理解 附属幼稚園一日実習の学習内容 実習生としての心得	事前学習：テキストP.7、P.14を読んでおく 事後学習：実習の心得について理解し、実習当日までに準備を整えておく	F E
第5回	附属幼稚園一日実習 事後学習① 実習報告書の記入 実習体験の共有	事前学習：附属幼稚園一日実習のまとめを記入しておく 事後学習：共有し合った情報を整理し、まとめる	D P
第6回	附属幼稚園一日実習 事後学習② 附属幼稚園1日実習の日誌返却 評価表について 日誌の書き方の振り返り	事前学習：時系列型日誌について振り返り、各項目に記入することを理解しておく 事後学習：評価表と日誌を照らし合わせ、自己の問題点を確認しておく	E

第7回	1年次教育実習 事前学習① 実習オリエンテーションについて 実習関連書類の書き方について	事前学習：テキスト P. 29～31 を読んでおく 事後学習：実習に必要な書類を記入し整えておく	E
第8回	1年次教育実習 事前学習② 1年次教育実習の学習内容 実習課題の立て方	事前学習：テキスト P. 14～15 「学習内容」 を読み、実習で学ぶべき内容を理解しておく 事後学習：授業内容を振り返り、実習課題を立てる	E
第9回	1年次教育実習 事前学習③ 部分実習指導案の作成について 部分実習とは何か 指導案の作成方法	事前学習：テキスト P. 69 を読み、内容を理解しておく 事後学習：部分実習指導案を作成する	E
第10回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方② 日々の目標の立て方 考察の書き方	事前学習：時系列型日誌について振り返り、各項目に記入することを理解しておく 事後学習：評価表と日誌を照らし合わせ、自己の問題点を確認しておく	E
第8回	1年次教育実習オリエンテーション① 実習の心構え、提出物の確認	事前学習：実習生の心得を、テキストを読み返し確認しておく 事後学習：授業内容を基に、実習までに準備しておく頃柄を列記しておく	E
第9回	1年次教育実習オリエンテーション② 実習に向けての実技指導	事前学習：実習で実施する絵本や紙芝居を図書館で選び準備をしておく 事後学習：実習に向けて提出書類や実習日誌を整えておく	P E
第10回	1年次教育実習 事後学習① 実習報告書に基づくグループ討議 全体での情報共有	事前学習：実習報告書①②を記入しておく 事後学習：共有し合った情報を整理し、まとめる	D P
第11回	1年次教育実習 事後学習② 実習の日誌返却 日誌の書き方の振り返り 実習園からの評価表開示と自己評価の検討	事前学習：実習で学んだことをまとめる 事後学習：評価表と日誌を照らし合わせ、自己の問題点を確認しておく	E
第12回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方③ 実習における「気付き」の記録方法	事前学習：授業で学んだことを振り返り、今までの日誌を読み返しておく 事後学習：「気付き」の記録方法に関する要点を再度まとめる	E
第13回	2年次教育実習 事前学習① 責任実習指導案の作成について 責任実習とは何か 指導案の作成方法	事前学習：指導案立案の基本的な書き方を確認しておく 事後学習：責任実習指導案を作成する	E
第14回	2年次教育実習 事前学習② 1年次教育実習の学習内容 実習課題の立て方	事前学習：テキスト P. 14～15 「学習内容」 を読み、実習で学ぶべき内容を理解しておく 事後学習：授業を振り返り、実習課題を立てる	E
第15回	2年次教育実習オリエンテーション① 実習の心構え、提出物の確認	事前学習：実習生の心得を、テキストを読み返し確認しておく 事後学習：授業内容を基に、実習までに準備しておく頃柄を列記しておく	E
第16回	2年次教育実習オリエンテーション② 実習に向けての実技指導	事前学習：実習で実施する絵本や紙芝居を図書館で選び準備をしておく 事後学習：実習に向けて提出書類や実習日誌を整えておく	P E
第17回	2年次教育実習 事後学習① 実習報告書に基づくグループ討議 全体での情報共有	事前学習：実習報告書①②を記入しておく 事後学習：共有し合った情報を整理し、まとめる	D P

第 18 回	2 年次教育実習 事後学習②	事前学習：実習で学んだことをまとめる 事後学習：評価表と日誌を照らし合わせ、自己の問題点を確認しておく	E
・夏期集中オリエンテーション ・実習後に、実習体験（観察力・着眼点・行動等の自己評価）の振り返りを行う。			
テキスト ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府			
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、各回授業時に解説を行ったうえで返却する。			
学生に対する評価 授業参加態度（20%）、提出物（40%）、実習報告会（40%）、			
実務経験 岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業） スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ） 鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長、認定こども園園長、保育士 平澤順子 保育所の保育士			
実務経験を活かした教育内容 教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中で提示していく。			

発 行 横浜女子短期大学
〒234-0054
横浜市港南区港南台4-4-5
TEL 045-833-7100 (代表)
FAX 045-832-7246
発行日 2025年4月1日